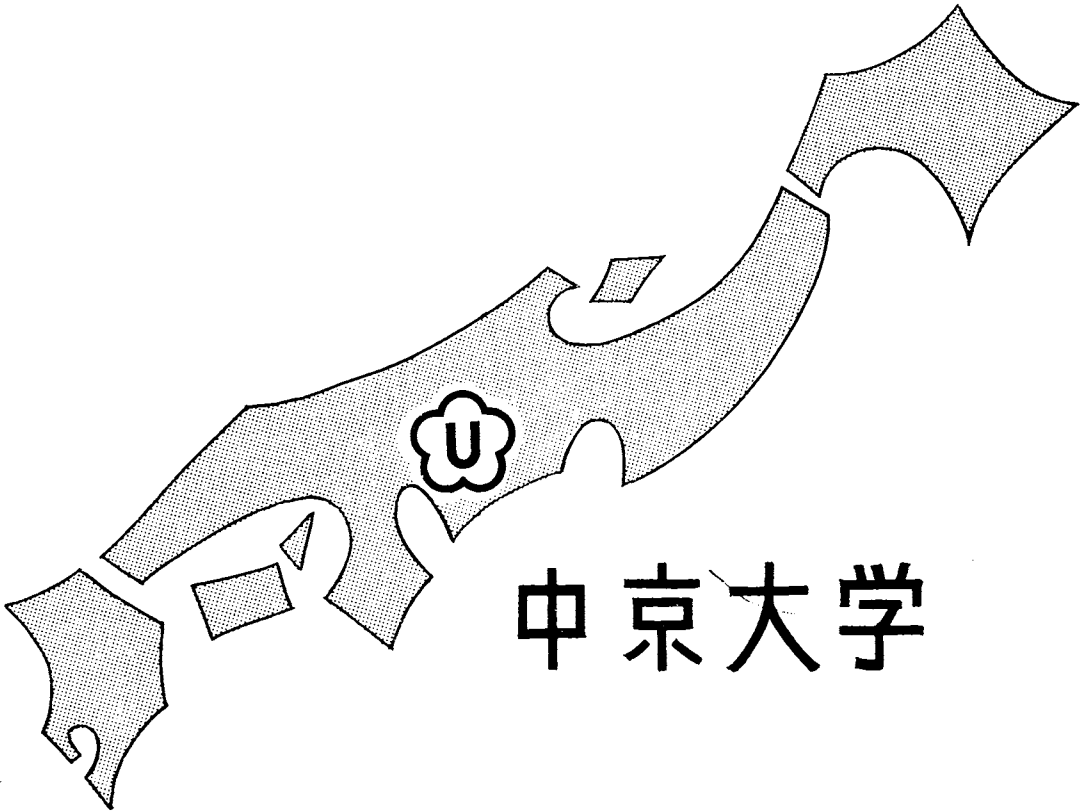


—日本応用心理学会—

# 第36回大会発表論文抄録

— 1969 / 10 —



# 諸 費 支 払 票

(注意) ※印の処は予めご記入おき下さい。

## 大会会費受領書

正 会 員 800円

臨時会員 300円

学 生 200円

## 大会会費納入書

正 会 員 800円

臨時会員 300円

学 生 200円

## 論文抄録費受領書

1冊 700円 ( ) 冊※

## 論文抄録費支払書

1冊 700円 ( ) 冊※

## 懇親会費受領書

1000円

## 懇親会費支払書

1000円

## 総 計 受 領 書

ご氏名 様※

合計 円※

上記の大会諸費正に受領いたしました

日本応用心理学会  
第36回大会準備委員長

原 吉 雄

## 総 計 支 払 書

合計 円※

ご氏名 ※

施設名  
機関名 ※

現住所 ※

票 附 支 費 諸

昭和十一年六月三十日現在の状況 (単位)

借入金雑費金

借入金雑費金

1000 員

1000 員

1000 員

1000 員

1000 員

1000 員

借入金雑費金

借入金雑費金

1000 員

1000 員

借入金雑費金

借入金雑費金

1000 員

1000 員

借入金雑費金

借入金雑費金

1000 員

1000 員

1000 員

1000 員

1000 員

1000 員

1000 員

1000 員

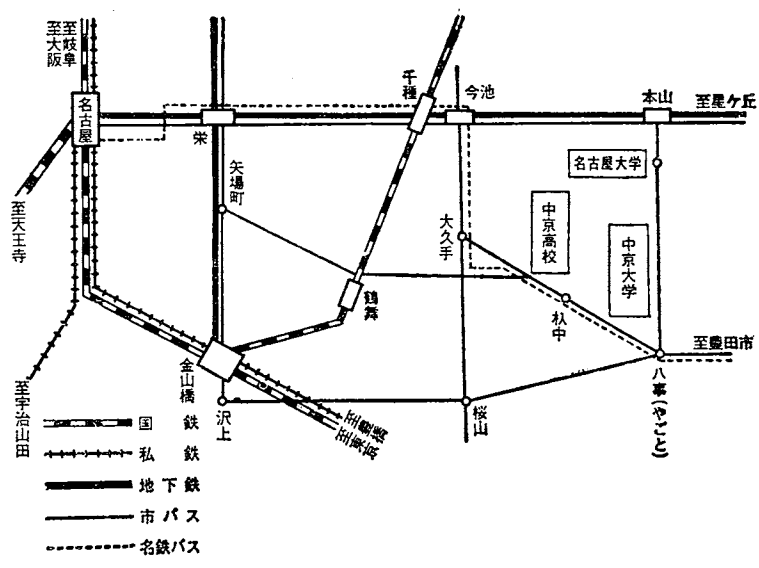
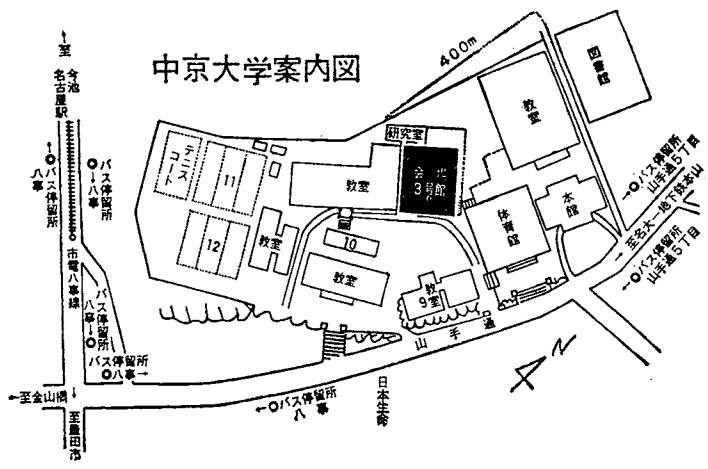


日 本 応 用 心 理 学 会

第36回大会発表論文抄録

1969年10月

中 京 大 学

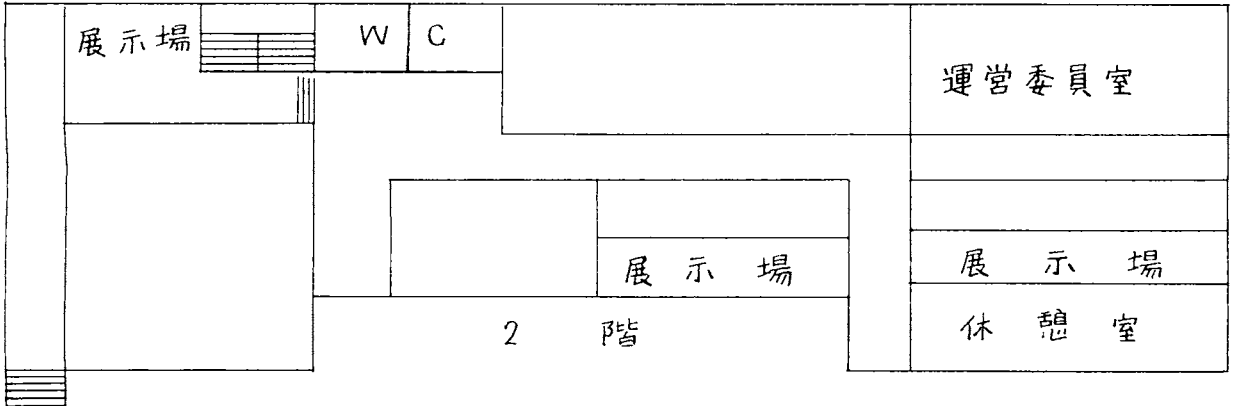
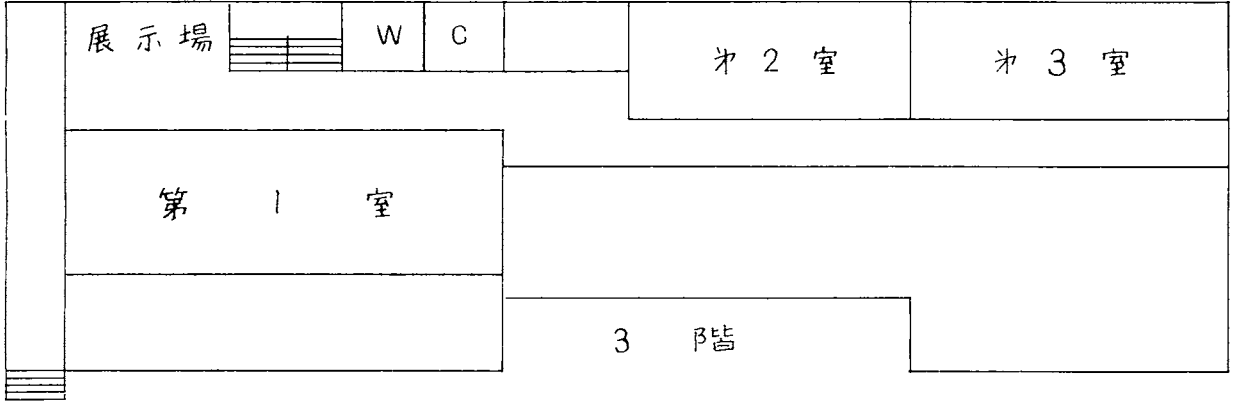


- 【市バス利用】**
- 名古屋駅前 → 40分 → 八事  
(④荒池行・天白車庫, ⑥島田一ツ山行)
  - 栄 → 20分 → 八事  
(④島田橋行・音聞山行, ⑤榑田一本松行)
  - 金山橋 → 15分 → 八事  
(⑤名古屋大学前行・山手通四丁目行)

- 【名鉄バス利用】**
- 名鉄バスセンター → 30分 → 八事  
(4階5番乗場)  
(豊田行, その他どれでも可)

- 【地下鉄利用】**
- 名古屋駅 → 15分 → 本山  
(星ヶ丘行)
  - 本山 → 市バス10分 → 八事  
(④平針住宅行・島田橋行, ⑤八事行)

# 大会会場見取図



# 大会日程

	9.00	12.00	13.00	13.30	14.00	17.00	18.30
10月11日 (土)	個人研究発表	運営委員会	昼休み	写真撮影	シンポジウム		懇親会
10月12日 (日)		個人研究発表					

## ○ 参会者へのご案内

- I. 受付：10月11日，12日とも受付は午前8時30分より行ないます。
1. 大会会費：正会員 800円  
臨時会員 300円  
学生会員 200円
  2. 懇親会：会費 1,000円，第1日（10月11日）  
午後5時より6時半まで，学内にて行ないます。
  3. 諸費支払：上記諸費は発表論文集綴込みの諸費支払票に必要事項をご記入のうえ，受付でお支払ください。
- II. 会場：研究発表は第1室，第2室，第3室（すべて3階の講義室）  
の3会場にわかれています。  
シンポジウム・講演・総会は第1室で行ないます。
- III. 大会本部：心理学研究室に設けてあります。
- IV. 休憩室：2階の第3，第4初等実験室に設けてあります。
- V. 係員：緑色のリボンをつけています。
- VI. 会員章：大会費を納入された方にさしあげます。会期中は必ずつけてください。（正会員—桃色のリボン，臨時会員—白色のリボン）
- VII. 発表者のご注意：(1)研究発表は各室ごとに座長の指示により進められます。  
(2)発表時間は15分，うち質問時間3分  
(3)合図は発表開始後9分に1鈴  
発表開始後12分に2鈴（口頭発表終了，質問開始）  
発表開始後15分に3鈴（質問終了，演者交替）とします。  
(4)発表者交替の折，つぎの発表者は，次回発表者席について用意してください。  
(5)発表資料（プリント，スライド，テープレコーダー）は各室の準備係に発表開始前なるべくはやめにお渡しください。（室名，発表番号，氏名を記入のこと）

- Ⅷ. その他：(1)行事予定等の変更がある場合には受付付近に掲示致しますのでご注意ください。
- (2)電話ご利用の方は構内の公衆電話をご利用ください。
- (3)案内所は受付に設けてありますから種々のお問合せにご利用ください。



# 研究発表

10月11日(土) 午前

第1室 発表

座長 山根 薫 宮脇 二郎

- |        |    |  |            |         |
|--------|----|--|------------|---------|
| 9. 00  | 1  | 幼児集団に関する研究(3)―社会的地位と同胞の形式的性質―                      | 東京家政大学     | 山下 俊郎   |
|        |    |  | 〃          | 島田 俊秀   |
|        |    |  | 〃          | ○宇津木 定子 |
| 9. 15  | 2  | 大きさの恒常性の発達の研究 (10)                                 | 東京家政大学     | ○島田 俊秀  |
|        |    |  | 〃          | 宇津木 定子  |
| 9. 30  | 3  | 児童における心身のエネルギーについて (2)                             | 国分寺市立第一小学校 | 竹原 昭典   |
| 9. 45  | 4  | 中学生の持つ展望の明暗  | 近畿大学       | 広井 甫    |
| 10. 00 | 5  | 児童生徒の行動におよぼす環境の諸要因について (Ⅱ)<br>―中学校用環境適応性検査による試み―   | 岐阜大学       | 宮脇 二郎   |
| 10. 15 | 6  | 進路設計の分析による職業的自我概念の発達の研究<br>第Ⅰ報 ―高校生・大学生の希望職業をとおして― | 日本大学       | 伊藤 祐時   |
|        |    |  | 〃          | ○野々村 新  |
| 10. 30 | 7  | 女子大学生に対する連想検査                                      | 大妻女子大学     | 増田 幸一   |
| 10. 45 | 8  | 体育専攻学生の内面的世界 (1)                                   | 日本体育大学     | 間藤 侑    |
| 11. 00 | 9  | 価値観における親子世代のずれ                                     | 立正女子大学     | 山根 薫    |
| 11. 15 | 10 | 人の生き方に関する心理学的研究 (10)                               | 駒沢大学       | ○西田 順造  |
|        |    |  | 〃          | 秋重 義治   |
| 11. 30 | 11 | 幼児の発達検査作成の試み                                       | 和光大学       | 大脇 義一   |

10月11日(土) 午前

第2室 人間工学・産業・適性

座長 板倉善高 稲葉正太郎

- |        |   |                                     |   |   |
|--------|---|-------------------------------------|---|---|
| 9. 00  | 1 | 人間工学から導いた適性検査                       | 東大生研  | 稲葉正太郎   |
| 9. 15  | 2 | 太陽活動と交通事故・戦争・暴動・大学紛争等との驚くべき関係       | 名古屋市教育委員会   | 正村史朗  |
| 9. 30  | 3 | 工場災害者の心理学的研究<br>—各種心理検査の結果について—     | 八幡製鉄所病院   | 境知厚   |
| 9. 45  | 4 | 運転適性検査に関する研究報告(Ⅱ)                   | 聖十字病院・精神衛生センター<br>岐阜県精神衛生センター<br>〃<br>〃<br>〃<br>〃 | ○粟野時穂<br>大橋迪<br>石山千代子<br>粟野恵子<br>駅沢輝雄<br>梅村貞子 |
| 10. 00 | 5 | N式(点数字式)作業能力及性格検査について<br>(作業性格検査39) | 適性研究所   | 板倉善高  |
| 10. 15 | 6 | 航空機騒音の児童に及ぼす心理的影響(4-1)              | 日本女子大学<br>〃<br>〃<br>〃<br>日本女子大学・小田原女子短大児研         | ○内藤ちづる<br>清水とし子<br>篠功江<br>山内淑子<br>児玉省         |
| 10. 30 | 7 | 航空機騒音の児童に及ぼす心理的影響(4-2)              | 日本女子大学<br>〃<br>〃<br>〃<br>日本女子大学・小田原女子短大児研         | 内藤ちづる<br>○清水とし子<br>篠功江<br>山内淑子<br>児玉省         |
| 10. 45 | 8 | 適性配置テストの追跡調査(1)                     | 立教大学<br>〃<br>〃                                    | ○正田亘男<br>豊原恒男<br>石井千尋                         |
| 11. 00 | 9 | 車輦に対する青信号の点滅効果に関する調査                | 大阪大学<br>中京大学<br>〃<br>大阪女学院                        | 鶴田正一等<br>○加藤作博<br>神作博子<br>山崎睦子                |

10月11日（土）午前

第3室 臨床・一般

座長 辻 敬一郎 長谷川 孫一郎

- |        |   |  |  |   |
|--------|---|--|--|---|
| 9. 00  | 1 | 過程尺度によるカウンセリング過程の研究 (5)<br>— Real Self とは何か —              | 東京農業大学   | 飯 塚 銀 次                                   |
| 9. 15  | 2 | 気分易変性の変調とその治療について<br>— 心情質変調治療の研究 第XIX報 —                  | 印旛少年院  | 長 谷 川 孫 一 郎                               |
| 9. 30  | 3 | 精神薄弱児（幼児）の集団心理治療<br>— 子どもの治療過程を中心として —                     | 千葉県中央児童相談所<br>〃<br>〃<br>〃  | 仁 科 義 数<br>前 田 茂 則<br>○漆 原 正 行<br>高 橋 宣 昭 |
| 9. 45  | 4 | カウンセリングの考察（ミュージックセラピィー）<br>昭島市立成隣小学校                       |  | 高 橋 哲 也                                   |
| 10. 00 | 5 | 家事調停における離婚問題の心理的分析（第1報）<br>神奈川県立栄養短大<br>早稲田大学<br>東京家裁科学調査室 | ○関<br>伊 藤 安<br>中 原 尚   | 力 二 一                                     |
| 10. 15 | 6 | Graves のデザイン判断テストの試行（Ⅲ）<br>名古屋大学<br>〃<br>〃<br>〃<br>〃<br>〃  | 横 瀬 善 正<br>前 田 恒 明<br>内 山 道 明<br>鈴 木 正 弥<br>○辻 敬 一 郎<br>後 藤 倬 男<br>伊 藤 法 瑞 |   |
| 10. 30 | 7 | 色彩の誘目性に関する実験的研究 (5)<br>中京大学                                |  | 神 作 博                                     |
| 10. 45 | 8 | 色彩の誘目性に関する研究 (1)<br>日本色彩研究所<br>〃                           | ○近 江 源 太 郎<br>矢 部 和 子  |   |

10月12日（日） 午前  
第1室 教 育

座 長 永 沢 幸 七 葛 谷 隆 正

9. 00 1 少集団活動の研究  
— 交差教育法に関する一考察 —  
お茶の水女子大学 岩 村 佳 代 子
9. 15 2 特殊児童の教育評価に関する一研究（その9）  
目黒区立向原小学校 岸 本 英 男
9. 30 3 青少年の教師観  
熊本大学 葛 谷 隆 正
9. 45 4 教科学習の経験的背景 — 地域差 —  
東京教育大学 松 原 達 哉
10. 00 5 聴覚障害児知能測定の前備的研究  
（ヒスキー・ネブラスカテストの検討）  
工学院大学 小 川 再 治
10. 15 6 現代青年の人間成長阻害に関する研究（第1報）  
— 生活態度・価値意識に関する世代葛藤の実態 —  
国立精神衛生研究所 桜 井 芳 郎
10. 30 7 女子学生に実施した性格・職業興味検査について  
東京家政学院大学 永 沢 幸 七
10. 45 8 精神テンポに関する基礎的研究（第37回）  
早稲田大学 三 島 二 郎  
〃 浅 井 邦 二  
大森第六中 ○望 月 稔
11. 00 9 保育者の適性に関する一研究（第2報）  
— 各種パーソナリティ結果を中心として —  
東京家政大学 ○片 柳 君 代  
〃 金 平 文 二  
〃 後 藤 嘉 余 子
11. 15 10 外国語学習開始の最適年齢  
— 発音模倣能力を指標として —  
大阪女学院短期大学 山 崎 睦 子
11. 30 11 中学高校生の友人関係について  
富士短期大学 駒 崎 勉

10月12日（日） 午前

第2室 産 業

座 長 金 平 文 二 松 井 資 夫

- |        |    |  |             |            |
|--------|----|--|-------------|------------|
| 9. 00  | 1  | 作業動機の研究 — Hygiene theory について (1) —          | 産業心理研究所     | 西 川 一 廉    |
| 9. 15  | 2  | Hezberg 理論への実証的批判 (1)                        | 立教大学        | ○松 井 資 夫 夫 |
|        |    |  | 〃           | 竹 内 登 規 夫  |
| 9. 30  | 3  | Hezberg 理論の二因子説 (Motivation に関する) に対する批判 (2) | 立教大学        | ○竹 内 登 規 夫 |
|        |    |  | 〃           | 松 井 資 夫 夫  |
| 9. 45  | 4  | 最近の販売理論における心理学の寄与                            | 亜細亜大学       | 田 村 勉      |
| 10. 00 | 5  | 販売員適応性検査作成の試み (1-1)                          | 日本リクルートセンター | ○大 沢 武 志   |
|        |    |  | 〃           | 永 田 嘉 代    |
|        |    |  | 〃           | 清 水 智 恵 子  |
|        |    |  | 〃           | 増 山 春 美    |
| 10. 15 | 6  | 販売員適応性検査作成の試み (1-2)                          | 日本リクルートセンター | 大 沢 武 志    |
|        |    |  | 〃           | 永 田 嘉 代    |
|        |    |  | 〃           | ○清 水 智 恵 子 |
|        |    |  | 〃           | 増 山 春 美    |
| 10. 30 | 7  | 販売員適応性検査作成の試み (2-1)                          | 日本リクルートセンター | 大 沢 武 志    |
|        |    |  | 〃           | 永 田 嘉 代    |
|        |    |  | 〃           | 清 水 智 恵 子  |
|        |    |  | 〃           | ○増 山 春 美   |
| 10. 45 | 8  | 販売員適応性検査作成の試み (2-2)                          | 日本リクルートセンター | 大 沢 武 志    |
|        |    |  | 〃           | ○永 田 嘉 代   |
|        |    |  | 〃           | 清 水 智 恵 子  |
|        |    |  | 〃           | 増 山 春 美    |
| 11. 00 | 9  | 企業における職場意識についての一考察                           | 愛知教育大学      | ○田 中 正 一   |
|        |    |  | 豊橋青年会議所     | 小 坂 英 一    |
| 11. 15 | 10 | 管理監督者層に対する教育必要点発見に関する一考察                     | 東京家政大学      | ○金 平 文 二   |
|        |    |  | 産業心理研究センター  | 片 平 信 子    |



## シンポジウム (I)

第 1 日 10月11日 (土) 14:00~17:00

課 題 歩行者を中心としてみた交通安全

	司 会	大阪大学	鶴 田 正 一
1. 運転者の立場から	国鉄労働科学研究所		清 宮 栄 一
2. 歩行者の立場から	名古屋工業大学		中 村 允 子
3. 外国では	大阪女学院短大		山 崎 睦 子
4. 人間工学の立場から	科学警察研究所		小 林 実 一
5. 歩行者安全対策における盲点	中京大学		結 城 錦 一

## シンポジウム (II)

第 2 日 10月12日 (日) 13:30~1:700

課 題 人 間 疎 外

	司 会	中京大学	結 城 錦 一
1. 現代生活と人間疎外	名古屋大学		竹 内 良 知
2. 家庭関係と人間疎外	東京家政大学		山 下 俊 郎
3. 産業と人間疎外	名古屋大学		内 山 道 明
4. 人間工学と人間疎外	名古屋大学		高 木 健 太 郎
5. 個人空間と親疎	千葉大学		望 月 衛

# 幼児集団に關する研究(III)

— 社会的地位と同胞の形式的特質 —

山下俊郎 島田俊秀 宇津木貞子

(東京家政大学)

**研究目的:** 社会的地位というのは、*Sociometric-test*によって得られた學級集団内における選択的地位で、それを規定する要因として身体的特徴・知能・学業成績・性格特性などがあって、多くの人々によって研究されている。同胞の形式的特質として順位、性的構成および、同胞相互の年令間隔などが考えられる。これらの特質と子どものパーソナリティとの相関関係については、ブーゼマン、コック、山下等によって広く研究されている。本研究は、幼児の集団内における社会的地位と同胞の形式的特質、つまり同胞の数、順位、性的構成などとの関係について研究した。

**調査方法:** 調査は面接法によって、*Sociometric-test*をおこない「好きな友達」を2人選択させた。それにもとづいて各クラス別に *Sociomatrix* を作成し、個人を選択得点  $C_t$  (才: 順位の選択者数  $\times 2$  倍し、才2順位の選択者数を1倍し、両得点の和) を算出した。さらに各クラスの構成人数(最少21人、最大46人)が異なるため *C.H. Broctor* の公式によって選択地位 (*choice status*) を求めた。

**被検者:** 対象は東京都、大宮市および芦市の公立幼稚園(5園)と、私立幼稚園(2園)計27園から42組を抽出、計1089名である。なお被検者の年令は4.5、6才。男577人、女512人である。

**結果:** 調査結果の一部を紹介すると表1~表5の通りである。表1は同胞の性的構成を無視し、同胞数によってSQを比較したものである。表2は1人兄弟と2人兄弟(長子、末子)について男女差を示したものである。表3、表4、表5は、出生順位と同胞の性的構成によってSQを比較したものである。

表1によると、社会的地位のもっとも高いのは、1人子で、同胞数かかるとSQは低くなっている。

表2によると、1人子の場合男子より女子がわずかにSQは高いが、この傾向は2人兄弟になると顕著に表1 同胞数とSQ

同胞数	人数	SQ
1人兄弟	273	9.7
2人 "	635	9.1
3人 "	148	8.8
4人以上	34	6.4

表2 SQの性差

性別	構造	人数	SQ	
1人兄弟	M	130	9.7	
	W	107	9.8	
2人兄弟	男	$(M1+M2)+(W1+W2)$	240	8.9
	女	$(W1+W2)+(M1+M2)$	295	9.6

表3 出生順位と同胞構造によるSQの比較(全法)

	構造	人数	SQ	
2人兄弟	長子	同性構造+異性構造	219	8.9
	次子	"	316	9.4
3人兄弟	長子	"	26	7.0
	次子	"	54	7.0
	末子	"	68	10.9

表4 出生順位と同胞構造によるSQの比較(2人兄弟)

性別	同性構造				異性構造			
	男子		女子		男子		女子	
	長子	次子	長子	次子	長子	次子	長子	次子
人数	84	94	76	74	83	79	76	69
SQ	8.8	10.1	8.6	10.2	8.4	8.2	9.9	8.8

表5 出生順位と同胞構造によるSQの比較(3人兄弟)

	同性構造			異性構造		
	長子	次子	末子	長子	次子	末子
人数	7	22	18	19	32	50
SQ	9.2	6.5	10.1	6.2	7.3	11.2

らわれ、女子のSQがよくなっている。つぎに出生順位と同胞構造の相違によってSQを比較する。長子は、2人兄弟では次子が高く、3人兄弟では、長子、次子の間に差はないが、末子は前二者に比べはるかに高くなっている。表4によると、2人兄弟では、同性構造の場合、男せとも次子のSQが高いが、異性構造になるとそれほど顕著な相違はみられない。3人兄弟では、長子は同性構造、次子および末子では異性構造のSQが高くなっている。同性異性構造にかかわらず末子のSQが高くなっている。

**結論:** これらの結果から、つぎの結論に達した。

- ① 社会的地位は兄弟数の少ないものほど高い。
- ② 一般に幼児にあっては、男子よりも女子の社会的地位が高い。
- ③ 長子および次子に比べ末子の方が社会的地位は高い。
- ④ 出生順位によるSQの差は、同胞の性的構成によって大きな影響を受ける。

本研究は吉井寿子、渡辺和美、田中光子の協力によるものである。(連絡先: 東京家政大学心理学研究室)



# 大きさの恒常性の発達的研究(Ⅷ)

— 日常空間と写真面の比較 —

○島田俊秀 宇津木貞子

(東京家政大学)

## 〔研究目的〕

才区報告(日本応用心理学会第35回大会論文物録、P. 62, 1968.)で、直径3.0cm、高さ5.0cmの標準刺激、および同程の2.5cmの段階で15本の比較刺激系列を用い、系列法によって日常空間と写真面での実験をおこなう、つぎの結論を得た。すなわち日常空間において5才児で高い恒常度がみられるが、系列の構造によって水準の効果に差異がみられること、写真面においては、かなり高い恒常度が認められるが、系列の構造のいかんを問わず顕著な系列の水準効果がみられることを報告した。

今回の研究は、前回の研究と同一条件のもとに成人について実験を試み、恒常性に及ぼす空間の構造、系列の構造水準などの影響について検討するとともに、前回の子どもとの結果と比較検討することを目的とする。

## 〔実験方法〕

実験は、日常空間実験と写真実験からなる。各実験は比較刺激系列と大きさの順に配列した規則配列と、無差別に配列した不規則配列についておこなう。

なお、これらの実験条件および比較刺激系列の水準、刺激配置、あるいは実験手続等については前報告と全く同一である。

## 〔被験者〕

子どもは本大学附属幼稚園5才児男子6名、女子6名計12名、成人は同大学児童学科2年生9名である。なお子どもの結果については、前回報告したので省略し、今回は成人の結果を中心に報告する。実験は昭和42年10月—43年2月の間におこなった。

## 〔実験結果〕

実験結果は図1、および図2に図示したとおりである。図1は、A～Eの5系列(各系列の数字は比較刺激系列の中央対象の高さを示す)につづいて全被験者のPSEの平均値を求め、図2は写真上の対象を実物大に換算して図示したものである。これらの結果から、つぎの結論に達した。

① 日常空間において、子どもは、規則配列では、顕著に系列の水準効果を受け、不規則配列では減少し、成人は系列の構造による水準の効果の影響はみられない。また、A、B系列では両者の間に差はみられ

図1. 日常空間実験における比較

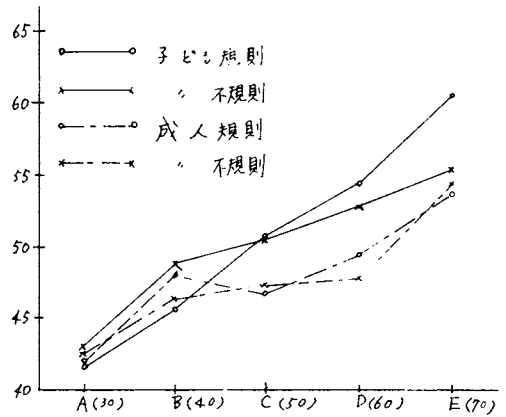
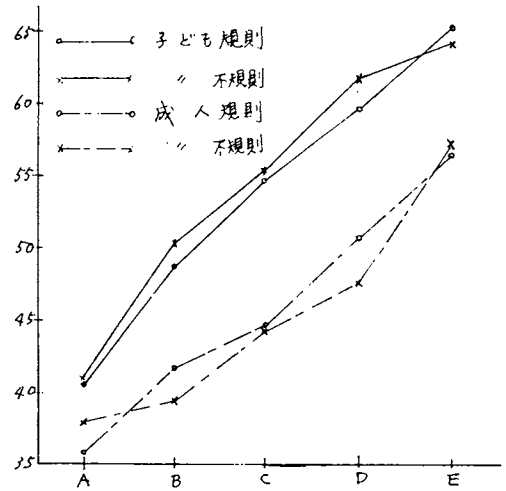


図2. 写真実験における比較



ないが、C、D、E系列でかなり差がみられる。

② 写真面では、子ども成人ともに系列の構造のいかんを問わず、系列の水準効果を受け(子どもに比べ成人は若干少ない)、しかし、両者の間には顕著な差がみられる。

(連絡先: 東京都板橋区加賀1丁目18番1号  
東京家政大学心理学研究室)

# 児童における心身のエネルギーについて(2)

竹原 昭典  
(東京都国分寺市五ヶ野小学校)

目的;本研究は、児童理解の手がかりのひとつとして、児童のもつ心身のエネルギーについて考察しようとするものである。前回は、生活指導との関連を考察したが、今回は、心身のエネルギーのあらわれ方と、学習活動との関連を考察することを目的とする。

方法; (1) 小学校三年生の1クラスの男児を、つぎの方法によって、エネルギー(+)群、(+)群、(-)群に分けた。(児童数 21名中 低知能を除く18名)

1. guess-who test.
2. 休憩時間の遊びの観察

guess-who test は、つぎの観点を含む20項目のものを作製して実施し、個人別に得点の代数值を求めた。  
○活発な身体活動 ○活発な言語活動 ○心身の機敏さ ○成就表現の意欲 ○集中力と持続 ○好奇心 ○自己主張

遊びの観察は、午前の中休み(20分間)に、児童の遊びをクラス全員について観察した。(2回実施)

(2) 得られた(+)群、(+)群、(-)群について、つぎのような各種の比較をした。

- 1 50m走
- 2 走り中とび
- 3 鉄棒さか上り
- 4 給食の食事時間
- 5 発問に対する反応 (国語読解)
- 6 ことばの連想 (〇のつくことばあつめ)
- 7 漢字の記憶 (1 2年で学習した漢字の再生テスト)
- 8 文の聞き写し
- 9 自転車の絵 (自転車を思い出して、できるだけくわしく描く)
- 10 伝言あそび (各群ごとに競争)

表 1

群	1 50m走 (平均)	2 走り中とび (平均)	3 鉄棒さか上り a 容易にさか b やや困難 c 困難	4 食事時間 (平均)	5 発問に対する反応 10問に答えた回数	6 ことばの連想 あのかき あのかき あのかき (平均)	7 漢字の記憶 (平均)	8 文の聞き写し 正確に聞き写した語数 (平均)	9 自転車の絵 10部分の4機能のえがいた数 (平均)	10 伝言あそび 減点(まちかひ)の総数
(+)	9.9秒	2.43m	a 2名 b 2 c 2	10分41秒	57回	32語	12字	56語	部分9 機能1.5	-42点
(+)	9.9秒	2.40m	a 4 b 1 c 1	11分00秒	58回	35語	12字	57語	部分7 機能0.7	-29点
(-)	10.1秒	2.46m	a 4 b 0 c 2	15分03秒	50回	32語	15字	60語	部分9 機能2.4	-31点

## 結果と考察

### (1) エネルギー群の構成

遊び	guess whotest 得点
(+)群 6名 集団のボールゲーム	+40点~+147点
(+)群 6名 //	+1点~+39点
(-)群 6名 室内遊び3名 母子とのドッチボール3名	-1点~-74点

知能偏差値の平均 (+) 52 (+) 52 (-) 53

(2) 各群の比較は表1に示した。

(3) 小学校三年生の段階の児童は、かなりむき出しなエネルギーの姿をみせる。休み時間にパッととび出して激しい運動をする児童と、室内で何となく時間を過ごす児童は、はっきり区別することができる。また食事の速さも(+)群と(-)群の間にははっきりした差がある。

(4) (+)群と(-)群の間には、上のような行動の差がみられるが、走、跳の体力の上では、はっきりした差は認めにくい。また鉄棒にみられるように、技能の面では、(-)群の中にもすぐれた児童が多い。

(5) 学習活動との関連では、反答の速さと 確実さを考えることができる。漢字の記憶の確かさ、子どもの生活の中に定着している自転車の構造などの記憶、伝言の正確さ、文を聞きながら書く作業の確かさなどは、(-)群の方がよい結果を示す傾向にある。

(6) しかし、手をあげる、意見を言うなどの学習活動への参加の点では、(+)群の方が、より意欲的であると言えよう。(-)群の児童は、知っていても手をあげない傾向がある。

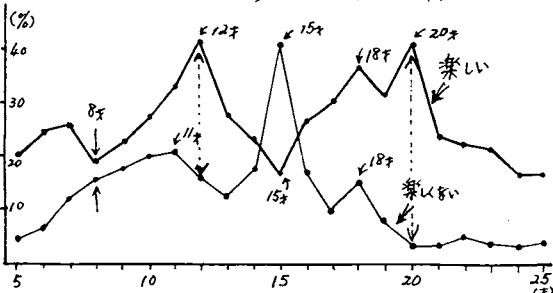
(7) 学習活動は、教師と児童の相互作用である。今回はその方の検討はできなかった。今後の課題とする。  
(連絡先) 東京都国分寺市東町2-1-20 市立五ヶ野小学校内

# 中学生の持つ展望の明暗

広井 甫  
(近畿大学)

目的：職業指導(進路指導)では、将来に夢と希望を持たせることと、その重要目的のひとつとしている。生徒達は果して幸福な楽しい未来を予想しているであろうか。また、それと関連して過去をどのような感情をもって追憶しているであろうか。これらのことを明らかにしようとするのが本研究の目的である。

方法：(1)対象 中学1年から3年までの生徒、男子270名、女子280名、計550名。  
(2)用具 0才から22才までの年齢を示した用紙に「楽しい(楽しかった)年齢、楽しくない(楽しくなかった)年齢」をチェックさせた。さらに、最も楽しい(楽しかった)年齢、最も楽しくない(楽しくなかった)年齢を各ひとつずつ選ばせた。



最も楽しい(楽しかった)年齢、最も楽しくない(楽しくなかった)年齢を各ひとつずつ選ばせた。

(3)時期 1968年10月。  
結果と考察：図1に示したものが、楽しいとした人数、楽しくないとした人数の百分比を年齢ごとに算出し、グラフ化したものである。学年、男女による顕著な差が見られなかったので一括した。また0才から4才、26才から22才までのものは省略した。両端に行くほどいずれの人数も減少する。

図に見る通り、楽しい時としては、過去で12才(ただし1年生のうちの約半数にとっては当年)、未来では20才とするものが最も多い。また18才がひとつの山になっているが、これには女子の比重が大きい。楽しくない時としては、過去で11才およびそれ以前の2年くらい、未来では15才(ただし3年生の約半数にとっては当年)とするものが多く、特に15才が群を抜いている。次に楽しいとする人数と楽しくないとする人数とを比較すると、それが最も接近する時は、過去においては、8才、現在では14才、未来では16才といえよう。もっとも国外では、例えば0才、30才~32才では

両者はほとんど同数となる。感情が中性となる展望の両端がこのあたりであるとも考えられる。

以上を総合して考える時、次のような実を指摘することができる。(1)小学校入学前後は楽しかったが8才(3年生ころ)ころが一番楽しくなくなる。それを境として徐々に楽しさは増す(楽しくないことも増える)。そして12才(小学校6年~中学校1年)で最初の頂点に達する(楽しくない人数との差が、このあたりで最大)。中学校時代は、楽しさの頂点から、楽しくない差へ真逆様に落ち込む時期である。15才は人生で最大に不幸な時期である。もちろん現時的な視界の中にある時代であるから、それに対する感情も、他の時期以上に強いのは当然である。中学卒業後には楽しい予想を持つものがふえ、第1のピークが18才に来る。高校なら3年生、運転免許のとれる年でもある。楽しくないとするものも多少増える。両者の差からすれば、むしろ17才のほうが大きい。次が20才、成人の時である。楽しくないとの差も最大である。(2)予想としては、楽しい、楽しくないが、いずれも現在において最も多く、過去、未来への両端へかけて減少し、未来のほうが、その減少度が少ないという曲線や期待したが、実際は、楽しいというのが、双山になってしまった。(3)入学、卒業、成人といった社会的意義を持つ年齢が、楽しい、楽しくないとする判断に強い影響力を持っている。「表1は、最高に

表1. 最高および最低の時

区分 時期	最も楽しい		最も楽しくない	
	男	女	男	女
4年以上前	44	43	10	11
3年前まで	15	12	42	44
現在	31	52	32	31
3年前まで	79	50	35	24
4年以上前	26	16	34	26
計	195	173	153	136
全体比%	72.2	61.8	56.7	48.6

楽しい時、楽しくない時がいつある(あった)かを示したものである。表に見る通り、男子では、挙げたものうちの53.8%が既に過去に最も楽しい時が終わったとしている。女子でも、その58.9%が、現在を含めて過去4年の間にそれがあったとしている。一般的に言って、最も楽しい時は、近い過去、遠い将来、最も楽しくない時は近い未来といえる。  
(連絡先) 東大阪市小若江3-2-1 近畿大学

# 児童生徒の行動におよぼす環境の諸要因について(II)

— 中学校用 環境適応性検査による試み —  
宮 脇 二 郎 (岐阜大学)

**目的:** 行動要因としては主体的、環境的の二要因に分けられるが、本来、こうした明確な区別は必ずしも互に関連しあっているものとされている。本報告では前回の報告の後を以て環境的要因に重点をおき、中学生の行動を説明する手段として、その一端を荷う意味での検査項目作成を意図したものである。

**方法:** 環境的要因としては心理的、物理的の二領域に分け、前者は家庭、友人、学校生活、自己の4下位検査、後者は家庭、近隣、学校の3下位検査を設立した。傾向内容は小学校使用とはほぼ同じ傾向にあるが負荷数は多くした。質問紙法による診断検査としたものであるから、嚙構尺度値を出す項目を挿入した。対象は中学生全学年とし、対象人員は3242名、対象地域は僻地から大都市に至る各学校を遂選した。

**結果:** Table 1は性差をみたものである。これは有意な差がみられなかった。Table 2は学年差をみたものである。傾向としては高学年に進むに従って、やや得点がかかる面がみられるのが心理的環境である。しかし、有意差は認められなかった。嚙構尺度による嚙構度も総点10点満点に対し7点以上で嚙構性は低いと考えられよう。Table 3は信頼係数を再検査法によって示したものであるが高い数値となっている。学年による変動も少ない。Table 4は下位検査の内部相関をみたものであるが、その因子分析によればⅠ因子に高い負荷量がみられ"7"を除いて、すべて、5.0

Table 1 性差

学年	領域		心理的環境		物理的環境	
	性	SD	m	f	m	f
中1~3	元		51.64	49.88	31.10	31.06
	S		10.12	10.97	4.28	4.68

Table 4 相関および因子マトリックス

	心理的環境				物理的環境			Ⅰ因子	Ⅱ因子	Ⅲ因子	f
	1	2	3	4	5	6	7				
1 家庭	.30	.30	.35	.44	.17	-.11	.50	-.36	.10	.39	
2 友人		.58	.86	.44	.53	.09	.76	.20	-.17	.65	
3 学校			.44	.35	.29	.01	.68	-.07	.11	.48	
4 自己				.31	.24	.05	.58	.20	.41	.54	
5 家庭					.35	-.15	.58	-.24	-.21	.44	
6 近隣						.14	.60	.37	-.38	.64	
7 学校							.04	.35	.12	.12	

以上となっている。この因子は順向形式による主観的なものの現われで主体がどう受けとめているかを示す因子と考えられ主観的環境因子と考えられるのは前報告と同様である。Ⅱ因子以下は負荷量が小さく、ⅢⅣ因子は意味がないので略した。得られた $f^2$ と推定した $f^2$ の差が多々大きくて $f^2$ のは下位検査数の少ないためと思われる。Table 5で問題行動のある生徒の比較を行ってみた。問題行動の判定は教師判定と行動目録票により、その他、指導要録の行動記録も参照した。まず、反社会的行動、非社会的行動の生徒それぞれを抽出し、平均値の差の検定をした。いずれも0.01%水準で有意差が認められた。その他、非行少年に対する比較も行ってみたが、下位検査で標準生徒と差のあるものは少ない。まず、嚙構点が低く出て有意差がみられたことは今後の問題として追求していく余地が考えられる。

**考察:** この検査は小学校使用の延長として作成されたものであるし、他の諸検査との対比や、実際に児童生徒の行動とどの程度の関連性があるかについては検討がなされていない。目下調査中の段階である。しかし、今までの研究の中では学業不振児等についての原因追究に対してはかなりの適切な検査方法であることが

Table 2 学年差

学年	領域		心理的環境		物理的環境		嚙構点	
	元	S	元	S	元	S		
中1	52.09	10.69	31.09	4.63	7.39	1.73		
中2	51.09	10.61	31.07	4.48	7.31	1.84		
中3	49.59	9.85	30.39	4.56	7.52	1.75		
計	50.89	10.66	31.05	4.89	7.43	1.77		

Table 3 再検査法による信頼係数

領域	心理的環境	物理的環境
中1~3	.797	.844

Table 5 問題行動生徒との比較

群	領域		心理的環境		物理的環境		N
	元	S	元	S	元	S	
標準	元		50.89		31.05		3242
	S		10.66		4.89		
反社会	元		41.04	****	25.88	****	26
	S		7.05		3.52		
非社会	元		43.27	****	25.37	****	18
	S		6.49		3.11		

# 進路設計の分析による職業的自我概念の発達的研究

第1報. — 高校生・大学生の希望職業をとらして —

伊藤 祐 時

○野々村 新

(日本大学 心理学科)

(日本大学 心理学科)

目的: 高校生・大学生のそれぞれが人生設計に関して書いた作文の内容を分析し、本人が持っている職業希望をとらして、彼らの職業に対する考え、将来の職業に対する抱負・理想をとらえ、その中から職業的自我概念の発達の様相を分析的にはあくしようとするものである。さらに、彼らのその後の進路における実態を追跡研究することになっている。

方法: [I]作文の収集; 高校生・大学生に対し、「私の人生設計について」という題目で作文を募集した。作文は、4,000字以内とし、昭和42年4月から43年1月までを募集期間とした。応募作品中、有効作品数は、高校生男子579点、同女子622点、大学生男子447点である。[II]内容分析の方法; (1)分析の対象とした作文は、高校生男女、大学生ともにそれぞれ150点を無作為に抽出した。(2)作文内容の分析上の立場; (3)作文から、各学生・生徒の進路の到達目標およびそれへの過程の設計などの分析研究により、学生・生徒の進路設計の程度を評価できるものとする。(4)進路設計にあたっては、学生・生徒の心的構造、動機などが分析によつてはあくできる。[III]分析の方法; 進路設計の内容を次の諸点について分析する。(1)設計の現実性(希望職業に関する情報認知の広さ・深さを調べる)。(2)設計の具体性(時間経過からみて、到達目標のために下位目標が設定されているか、また設定されている場合にその精密度・具体性の程度などを調べる)。(3)設計の有意性(到達目標あるいはその下位目標へ向かつての、学生・生徒の努力、信念、価値観などを含めた心的態度を調べる)。(4)設計に現れた自我概念の明確度(上記(1)~(3)の各個人ごとに統合されたものを調べる)。(4)分析の実施; 作文内容から、各個人の希望職業(到達目標)と、その職業を希望する動機・理由(心的構造)を表す叙述を取り出し、それがあらかじめ設定された要因のいずれに該当するかを決定する。その要因とは、いくつかの心的構造の内容を3つのカテゴリに分類したものである。設定された要因として、自我的要因、現実的要因、対人的要因の3つを挙げた。さらに、自我的要因には、身体的条件、能

力、経験、性格、態度、適性、知識、興味、理想、使命、価値観、感情表現の内容項目と設けた。現実的要因には、社会・経済、職場、家庭の内容項目を設け、対人的要因には家族、教師、その他の人物を挙げた。

上述の各内容項目ごとに分類される作文の叙述が、それぞれ設計の現実性、具体性、有意性のいずれに該当するかを決定する。以上のような手続きを、それぞれの作文ごとに実施し、それを作文内容分析記入票に記入した。

結果; 作文内容分析の結果は、大学生(男子のみ)、高校生男子、高校生女子を比較し検討した。

(1)大学生、高校生が挙げている希望職業は、非常に多岐にわたっているが、高校生においては、その希望職業がまだ明確に持っているとは考えられず、いわゆる高級職偏重の傾向がみられる。大学生においては、希望職業が比較的具体的になっており、現在在学中の学部(商学部)の卒業後の進路からみて当然と思われる職業を多く希望している。(2)職業に関して、大学生、高校生ともある程度の情報・知識を持ち、それに基づいて希望職業を考慮しているが、それに対して下位目標を設定したり、実際の経験・努力はまだ十分なものではない。これは、大学生が1年生であることが原因していると思われる。(3)希望職業がある程度明確になっている者は、その設計の内容が豊富であり、それに対する準備とか努力をしている。このことは、大学生・高校生に共通にみられる傾向である。(4)希望職業を決定する際に、多くの者は自我的要因に基づいている。しかし全般的に、大学生は高校生よりも比較的現実的要因をも考慮している。(5)希望職業に関する叙述(思想)の分量の多い者は、それが少ない者よりも、自我概念の発達が進んでいる。これは高校生女子においてとくに顕著にみられる傾向である。(6)全般的には自我的要因が高いが、その他では、高校生女子において対人的要因が高く、大学生男子において現実的要因が高い。また高校生男子において、現実的要因、対人的要因のいずれももっとも低いことは注目されることである。

# 女子大学生に対する連想検査

増田 幸一  
(大妻女子大学)

〔目的〕女子大学生に対し連想検査を行ない、その一般傾向をうかがうとともに、特定の刺激語に対する反応から、彼女らの思想傾向や生活態度を探索しようとした。なお前に男子学生に、まったく同一の方法で行なった調査結果がある(註1)ので、それと比較し性別的異同を考察する。(註2)日本教育心理学会が5回総会(昭和38)で発表

〔方法〕ケンブリッジ法における刺激語100語の中から20語を選び、各語に対し反応語1つを答えさせた。その結果に基づき全般的状況を考察した後、特に大学生の心情を反映すると思われる刺激語13語を抜きだし、それらに対する反応から、思想傾向や生活態度を推測した。対象は大妻女子大生249名(昭和45)で、対照とした男子は成蹊大生138名(昭和37)である。

〔結果〕1.全般的状況 反応語の種類数、すなわち各刺激語に対し答えられた反応語のラディエティを示す数値と、その多少による順位は表1のようになった。男女の順位の相関係数は0.65である。

2.特殊な状況 13の特殊刺激語のそれぞれに対する反応語の内容を検討しつ、思想傾向あるいは生活態度の観点からいくつかのカテゴリを設定し、各カテゴリにはいり反応語の数(比率)を一覧式に表示すると表2のようになった。

〔考察〕1.20の刺激語に対する反応語の種類数でもっとも多いのは「月夜」の103、もっとも少ないのは「青い」の46である。男子でも最多と最少は同様だが、この一致は多分偶然である。男女における反応語の種類数を比率で比較すると、右下1語(「乞食」)を除き他のすべてにおいて男子は女子を凌駕する。男子の方が女子よりも連想力が豊かであったことになった。

2.13の特殊刺激語を4つの生活活動領域に使うて区別し、それぞれ領域における一般的傾向を

概観すると、次のようになる。

(1)思想 「兵隊」および「先生」に対しては賛美するよりも反感を抱く。男子も同様で、青森七士の反感も定まらぬ。反戦思想への傾斜が見出される。(2)性感 「女よの娘」における性的反応は高率だが、その内容は概して賛美もしくは好意的である。男子では工口チックな反応がみられたが、この性差は当然だろう。(3)情趣 娯楽では映画を好み、夢は楽しいもの、「月夜」は詩的だが、「お酒」に対しては否定的である。男子では酒に対して肯定であるが対象的

表2 反応傾向の概括(上段は女子、下段は男子)

刺激語	反 応 傾 向	
I 6 乞食 7 赤い(1) 10 兵隊 14 先生 15 王様	[同情]{18.1 16.0}	[軽蔑]{35.4 33.3}
	[思想]{7.6 5.8}	
	[賛美]{4.8 10.9}	[反感]{11.7 13.8}
	[賛美]{19.7 5.8}	[反感]{26.7 32.6}
	[賛美]{14.1 9.4}	[反感]{7.2 9.4}
II 4 女 7 赤い(2) 8 娘	[性的]{62.7 63.7}	[反感]{7.6 5.1}
	[性的]{6.4 3.6}	
	[性的]{43.8 25.3}	[反感]{0.8 2.2}
III 2 面白い 11 夢 15 お酒 16 月夜	[演芸]{20.9 21.7}	[遊戯]{7.2 5.8}
	[運動競技]{2.8 8.0}	[学業]{11.2 1.4}
	[内容]{15.7 8.7}	[感情]{35.7 31.8}
	[解釈]{13.7 8.7}	[特殊]{6.8 9.4}
	[女]{2.0 8.0}	[酔態]{21.3 6.5}
	[賛美]{25.7 57.4}	
IV 5 望み 20 恐れ	[試験の不安]{0.8 0.7}	[将来職業]{3.3 7.2}
	[試験]{1.2 8.0}	

である。(4)試験 望みにおける試験の不安、「恐れ」における試験はともにきわめて低率だが、それは男子も同様で、試験は今の学生たちにとってはあまり苦に感じない。(連絡先)4代目区三番町12 大妻女子大学内

表1 反応語の種類数

刺激語	女子		男子	
	種類数	順位	種類数	順位
1 食心	63	15	48	15
2 面白い	49	18	43	17
3 甘い	48	19	37	19
4 女	57	17	58	12
5 望み	70	13	63	8
6 乞食	74	11	40	18
7 赤い	80	9	53	14
8 娘	83	8	60	10
9 困り	93	3	60	10
10 兵隊	78	10	76	2
11 夢	85	7	66	5
12 息子	74	11	45	16
13 青い	46	20	37	20
14 先生	87	4	65	7
15 お酒	86	5	56	13
16 喜ぶ	67	14	70	5
17 重い	62	16	62	9
18 月夜	103	1	79	1
19 王様	102	2	70	3
20 恐れ	86	5	66	5

# 体育専攻学生の内面的世界(1)

間藤 侑

(日本体育大学)

緒言：運動部所属あるいは体育専攻の学生の思想や思考の様式は、他の一般学生に比してやや異なる傾向があるように常識的には理解されている。果たしてそうか。もしそれがやはり明らかとすれば、その原因は何か。そのような傾向の *personality* をもったものが体育やスポーツの分野を志向しやすいのか、あるいは逆に、体育界のもつ種々の特殊環境(たとえば根強い封建制、保守制等)によって徐々に形成されていくものなのか。また、それらには知性的要因などの程度規定力をもってからんでくるのか。さうには、そうした思想、内面的世界をもつ人達が将来社会の中でどのような地位と発言力を獲得し、どのような立場で世論を形作っていくのだろうか。そして、そのような精神的傾向は未来社会という見地からどのように *control* されねばならぬのだろうか。……

このような種々の疑問を解きあかすために、体育専攻の大学生を一つのモデルグループとして選り、学生集団の中にあつて一つの特殊な群を形成していると思われる人達の内面的世界の共通因子の探求を試みつゝあり、本発表はその一報告である。

方法：一部自由回答を併用した多肢選択法による質問紙法を用いた。期間は昭和43年6月～44年6月、第1～第3学年の体育専攻の男女大学生1367名を対象とし、さらに比較グループとして非体育専攻大学生260名、一般人151名についても調査した。なお *personality* は精神式 *personality inventory* を用いた。調査結果の一部を表1～表4に示す。(表中の数値はすべて%)

### 結果の考察：

(1) 体育専攻学生(以下SMと見す)の *personality* の一般的傾向は、気質的には陽性の循環型ときまじめな粘着型が多く、以下に明らかなるSMに見られる現実適応的、保守的傾向への抵抗の少ない性格的裏づけともなっている。環境形成的なものとしての *Hysteria* 傾向が顕著であることも注目に値する。タテ社会的でしかも競争場面(精神的)の多い運動部生活、先輩や監督に認められることで被支配者の状況から逃れようとする心理的 *mechanism* などがそれを助長していると推測されるが、今後の興味ある課題の一つである。(表1)

(2) 国旗、国家、皇室、自派隊等への態度は一般学生に比較してやはり保守的、現実適応的色彩が濃く、また、「根性」論に関して「おれについてこい」的思想を強く肯定するものが半数近くを占め、それ以外のものも条件つきではあるがほとんど肯定的で、SMの保守的、封建的、没個性的、支配一服従的傾向を暗示している。

(3) 現代の大きな関心事である学園紛争に関して急速的思想傾向はきわめて少なく、「社会と共に進む」体制適応型から、「学生の本分こそ大切」とか「青春の一コマ」などと考える学生の多さは、一般学生の傾向に比して著しく様相を異にする。(表2)しかも、ゲンゼン学生への立腹ベトナム戦争、基地問題、核実験等への立腹の2.10倍強であることも、比較的観念的で理想主義的色彩の濃いこの年代層の一般傾向とは大きなずれがあり、やはり現実適応的、保守的態度と共に、思考の浅ささえ暗示される。(表3)この傾向は理想的社会への志向でも明らかであり、20代青年に多い社会主義体制への憧憬とはむしろ反対に、特に男子では資本主義体制への傾きが6割にも達する。

(4) 自分も精神的に大切と思うものについても特徴的傾向が見出される。「人類」といふような高い理想主義的姿勢は、一般学生に比べて4分の一程度にすぎず、また、「友人」と「父母」との比率もより低い年齢層に近い傾向を示している。(表4)

総括：以上をまとめると、SMは理想主義的であるよりはむしろより現実主義、保守主義的傾向が強く、被支配の状況に抵抗が少なく体制適応的で、かつ思考の浅さ、視野の狭さ、自己中心的発想等を特徴として老成と幼さとの同居という一見矛盾した世界に住み、内面的世界における青年期的傾向が比較的乏しい。

表1 体育専攻学生の *personality*

分裂型	循環型	粘着型	HPI-傾向	神経傾向
16.6	33.1	33.2	37.4	24.0

表2 学園紛争への態度

暴力否定	社会と争む	本分を尊べ	青春の一コマ	急進的
46.2	25.8	11.6	11.3	5.0

表3 現代社会で腹の立つこと(男子)

先輩	下等生	対派	ゲンゼン	道徳	起群	基地	物価	核実験	ベトナム	戦	機務隊	ST
22.6	16.3	11.1	10.8	10.6	5.4	5.4	3.5	3.5	2.4	0.7	0.7	

表4 自分の大切なもの

自分	家庭	人類	カマ	国家	学校	父母	友人	恋人	夫妻	子	兄弟	先輩	師
58.7	29.2	4.0	3.2	1.4	1.5	52.0	13.9	8.2	5.9	6.3	3.5	1.1	0.9

(連絡先) 東京都世田谷区深沢7-1-1日本体育大学内

# 価値観における親子世代のずれ

山根 董  
(立正女子大学)

目的 生活行動の方向を決定するのは、その行動がどのよう価値観によって支えられているか、その考え方である。ひとつの行動が是とするか非とするかによって、その行動が実際に発動してくるかどうかが大きく左右される。家庭生活において生活行動についての価値観において親子間に断絶があるという。そうであるとするれば、親が与えるわが子への要望は、子どもの例から引当座うけ入れがよいことにならう。かくては親のわが子への指導力を発揮することはできない、果してこのように断絶があるのであるかを明らかにせんと企てた。

研究方法 親と子との両方に傾向紙を答えた。小学生4、5、6年生用のもの、これら児童の父もしくは母用のもの、中学生用のもの三種類を用意した。この三種類の傾向紙の内容は、ほとんど同じで、いづれも右の方のちがいである。各学校に依頼し記入してもらった。記入のための時間の長さには制限はなく、必要があれば読んで説明してもらった。

傾向紙 15個の質問を出し、これと此の質問の答として3個ずつが並べられてあり、そのうち自分の考えに最もよく適合するものを選ぶ。その15個の質問内容は、親孝行、家事手伝い、約束、学習目標、親切心、学習活動、公共物、社会正義、動物愛、まよいげんか、お小遣い、自主的判斷、交通道德、自主観、自主主張に用いるものである。

調査対象 文教都市をいよいよぼろしとして住居地、東京からのスゴロールによる新興都市、農村の三地域に所在する小学校三つの4、5、6年生男女704人、これらの父母639人、中学生男女528人総合して1971人について調査した。

## 結果と考察

1) 親孝行は物質によって実践されるように、心懸念があるという考え方を支持するものが中学生男女にもっとも多い。小学生がこれに次ぎ、親はさらに少なくなっている。地域別、性別として特に同立つ特色はみられない。

2) お手伝いという形で、親への服従態度をみようとしたものである。合理主義的な考えは、中学生が一番はっきりとあらわれており、ついで親、これから

小学生へと水たなく減っていく。中学生の批判的、反社会的態度がここに働いた結果であろう。地域別、性別には差がみられないが、親子間にはややくいりがある。またわが親としては合理主義的な生活態度とわが子が、これとこととを埋んでいり、子どもとこととをむしろ絶対服従をよめとするものが多い。親としての权威に従うわけである。

3) 定められた時間は帰宅すべきが、事情があればおくれしても仕方ないから後にあやまればよいのかというとき、都市の小学生は前者をとるものが多く、農村は少ない。いつも交通事故の危険にさらされてい親からやがていよいよわかれようからであろう。しかし一般的にいえば小学生においても後者の考え方をとるものが多いが、その傾向は中学生にならば、圧倒的に多い。行動の自由を求め、自主的であろうとする要求があるからであろう。

4) 正成績を付けなければならないから、正からいって性質がよいということだけでよいわけない、学業成績も人格もほどほどあって相調和していりのがよいという考え方が、すべての視察者にみられる普遍的傾向である。

5) 以下の諸傾向において親と子との考え方にはっきりした相違のあるもの、ほとんどそのちがいを見出しがたいものがあることを知った。

結論 以上によって知り得たのは、これらの問題のように現実の生活場面において、その事態にもっともよく適合した反応は何かということになると、その問題場面の性質によって種々の様相の変化を示すものであったことが明らかであることである。ある問題場面では親と子とは全く同様の価値判断を示すし、またある問題場面では相及する傾向をみせている。親子関係の断絶といっても、これは一般的普遍的なものではなく問題の性質から生ずるものでありこととここにおいてある。特定問題に用いる意見のくいつかには同親せず、広く深くこれとこれの問題毎に、新しい卒直な意見の交換によって、相互理解を確かめていく必要がある。話し合いの場をどのように設定したうよ、その雰囲気とどう盛り上げたいかはよい。こうした話し合いの背景とよく小うよべきであろう。

連絡先 〒336 浦和中高24~16~10



# 人の生き方に関する心理学的研究 (10)

○西田 順造  
(駒沢大学 大学院)

秋 重 義 治  
(駒沢大学 文学部)

本研究は、九大生き方研究班および駒大生き方研究班との共同研究になるものである。今回の研究は、とくに正常成人を対象とし、年齢別、性別において「CLS」の結果が、如何なる有意差として現れるかを明らかにしたものである。

検査の対象群：一般正常人のみを選定し、年代別、性別に、次の8グループを構成した。①20才代男、②20才代女、③30才代男、④30才代女、⑤40才代男、⑥40才代女、⑦50才代男、⑧50才代女。

検査項目：個体的条件に属する身体的条件(I)、心理的条件(II)；環境的条件に属する物理的環境条件(衣食住)(III)、社会的環境条件としての家族関係(IV)、職業関係(V)；文化的環境条件として政治、経済、教育、道徳(VI)、芸術、宗教、人生観(VII)の7つのカテゴリーに属する400項目である。

結果および考察：第I条件群に関して個人得点の平均を求め、各グループの得点平均をみると、④、⑧⑥、⑦②、③⑤①の順となっている。各年代とも、男性より女性のほうが、やや望ましい結果を示している。また、ほとんど全員が、30点から90点の得点範囲内にある。

第II条件群に関しては、個人得点の平均は、⑤⑧、⑦、⑥、③、④、②、①の順になっている。各グループともに、情緒安定性のカテゴリーの得点平均は、他のカテゴリーの得点より低い。(50点前後)この傾向は、性別、年齢差におおわりなく普通の傾向となっている。対人関係の項目の得点平均は、各グループともに、もっとも高く(70点前後)他のカテゴリーのうちもっとも望ましい結果を呈している。

第III条件群の得点平均は、②、④⑥、④⑤、⑦、③、①の順になっている。各グループ間には、それほど大きな差はないが、女性のほうが、やや望ましい状態にある。20才代、30才代の男性群は、衣食住における態度、状態の得点が低く、とくに、食生活は、もっとも得点が低い。

第IV条件群の得点平均は、⑤、⑦、③、④、⑥、⑧、①、②の順になっている。各グループともに、親子関係、兄弟関係に関しては、望ましきの程度が低くなっており、とくに、30才代男性が、親子関係におい

て理想から遠い状態にある。性差に関しては、家族関係について、女性が望ましい状態にあり、とくに、50才代女性は、夫婦関係を除く他の小カテゴリーに関しては、もっとも理想に近いと言える。

第V条件群の得点平均は、⑤、⑦、③、⑥、④、③、②、①の順になっている。職業生活に関しては、年齢を経るにつれて望ましい状態にあり、男性が女性より望ましきの傾向が著しい、また、20才代、30才代では、現在の職業に対する満足度が低いのに反し、40才代女、50才代男、50才代女のグループでは、80%以上が満足しており、年齢の差が著明である。

第VI条件群に関する個人得点平均は、⑦、⑤、③⑥⑧、②、④、①の順である。一般に高年齢層ほど望ましい状態にある。とくに、経済における計画性の項目や道徳に関する項目に、その傾向がよく現われている。30才代女性は、その平均が他のグループより、かなり低くなっている。性差は、男性全体の平均が、わずかに女性を凌いでいる。

第VII条件に関しての得点は、⑧、⑥、⑤、②、④、③、①、⑦の順になっている。このカテゴリーに関しては、30才代以下と40才代以上の2グループに大別され、後者は、前者に対し明確に高い平均得点を示しており、とくに、その傾向が著しいのは、宗教に関してである。性差は、女性の得点が高く、とくに、芸術に関して、その傾向が著しい。しおし、30才代女性は、その限りではないことが注目される。

調査結果を個体的条件、環境的条件の各カテゴリーについて考察すると、前者は、⑧、⑥⑤④、⑦、③、①、②の順になっており、各グループともに30点以下の得点を示すものは、ほとんどない。後者においては、各グループ間の個人得点には大差なく、⑧、④、⑥、⑦、⑤は、80点台がもっとも多く、①、②、③は、70点台がもっとも多い。

全体的結果についてみると、各グループともに、平均得点は、60点台である。さらに、個体的条件よりも、環境的条件のほうが望ましい傾向を示している。とくに、人間関係に関して、この傾向が明瞭である。

(連絡先)

東京都世田谷区駒沢1丁目 駒沢大学心理学研究室

幼児の発達検査作成の試み

大脇 義一  
(和光大学)

# 人間工学から導いた適性検査

稲葉 正太郎  
(東大生研)

**概論:** 適性検査は対個人の特性判定だから、個人の構造性に基づいたものでなければならない。筆者は人間を情報処理装置と考え、図1の如く、受容器、大脳、脊髄、効果器などを神経系で結んだ制御モデルを導いた。この作動は大脳(1)は受容器からの刺激と大脳(2)の持つ現状知覚の偏差に応じて大まかな応答を計画し、これを脊髄に伝えると手足に興奮が伝わり、具体的な運動が出てくる。そして刻々の運動は脊髄と大脳(2)で

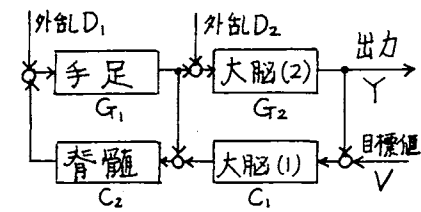


図1 人間の制御モデル

知覚され、修正の資料になるものと思う。このような回路で、各要素に生

理的な性能に合った伝達関数を代入すれば、全体としての特性も決まる。この系をアナコンで模擬して

- (1) 「こうしなさい」という目標値V
- (2) 動作を乱す外乱D<sub>1</sub>
- (3) 判断を乱す外乱D<sub>2</sub>

の3つを上図の位置に階段状入力として加え、出力Yを測って応答のよし悪しをITAE No.で比較した。その結果は、P<sub>1</sub>, P<sub>2</sub>をG<sub>1</sub>, G<sub>2</sub>の等価時定数とすると、各P<sub>2</sub>/P<sub>1</sub>におけるITAE No.の最小値は図2の如くP<sub>2</sub>/P<sub>1</sub> = mで最適値を示し、P<sub>2</sub>/P<sub>1</sub> < mではやや劣り、P<sub>2</sub>/P<sub>1</sub> > mでは著しく劣る曲線となった。

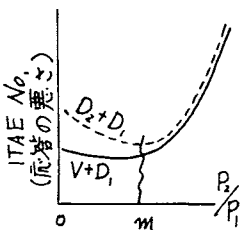


図2 応答能力の比較

C.C.No.と最良の応答、すなわち応答能力とは図3の如くなり、C.C.No. → 0では応答能力が著しく劣り、適性は悪いと判定される。

**実験結果:** 誰でも容易に測れるテストペーパーを考

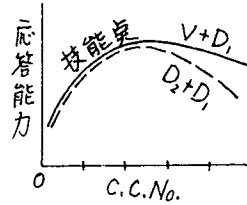


図3 C.C.No.と応答能力

え、沢山の人のついでに、C.C.No.と技能点との対応を求めたところ、何れも同じ結果となった。

(1) 高校生の運動技能 一定期間バスケットの実技を教えてからC.C.No.と実技点との対応を求めたところ、上位点の分布は図3と同じになった。

- (2) 剣道の勝率 同じ高校生で剣道の勝敗戦を行ない、C.C.No.と上位勝率の分布を求めたら図3と一致した。
- (3) 挙動特徴 同じ高校生で挙動や校内活動を調べたところ、表1の如く興味ある対応がわかった。

表1 C.C.No.と挙動

C.C.No.	挙動	校内活動
0~1	尚早型	低調・非協力
2~3	適応型	運動部で大活躍
4~5	遅れ型	文化部で大活躍

(4) 交通事故 交通事故も応答の失敗と看え、交通事故者226名のC.C.No.と事故と調べたところ、重大事故はC.C.No. < 1.5に限ることがわかった。これよりC.C.No. < 1.5の者は事故多発者と断定される。

(5) 学習能力 学力差の大きい夜間高校1年生について、C.C.No.と1学期の成績を調べたところ、図4の如くC.C.No. ≃ 2に最高点が現われた。成績下位者はC.C.No. < 1.5では頭脳が劣るので特別指導を要し、C.C.No. > 1.5の者は急けたので叱咤激励すれば成績は改善されよう。単に指導強化しても効果は薄い。

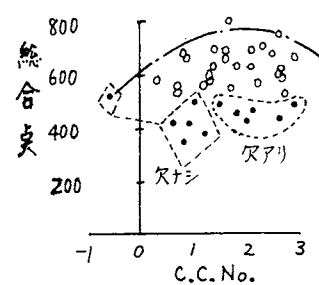


図4 C.C.No.と学業成績

**結論:** C.C.No.で頭脳と手足の何れが劣るかわかる。それに見合った指導により適性改善もできる。C.C.No. < 1.5は事故多発者だから直接指導すれば事故防止にもなり、企業や学校で利用されつつある。C.C.No.は個人の構造性を示す初めての適性判定値と云えよう。(連絡先) 東京都港区六本木 東大生産技術研究所

# 太陽活動と交通事故、戦争、暴動、大学紛争等との驚くべき関係

正村史朗  
(名古屋市教育委員会)

E. Huntington, M.N. Gnevyshev, B. Dill & T. Dill, A.L. Tchijewsky 等によって太陽活動の人間への心理的、生理的影響が次第に明らかにされてきた。

この心理的、生理的影響を調べるために行なった私の調査でも太陽黒点の年変動や日々の増減と交通事故のそれとの一致は全く信じられなれり程であった。とりわけ驚くべきことは1960年10月の例のごとく、太陽活動の最盛期のため日々の黒点が甚しく大きく変動する時でさえ、黒点と交通事故の夫々3日変動平均からの偏差がなおよく相関係数0.40の関係を保っていたことである。

また、例えば1966年7月7日の太陽面爆発に際し、東京、大阪、愛知、兵庫、神奈川、静岡、福岡、京都、埼玉…の北は北海道から南は九州にいたる全口各地で交通事故の急増がみられ、また、太陽黒点極大期の昭和34年では東京都の例では自動車千台当り314件、即ち、平均3台に1台は事故を起してあり、誠に恐るべき事故発生率であった。太陽活動の影響を想像以上にうけていることを我々は認めざるをえない。

本研究の一部は既に333回、334回の本学会(1966,67)、並びに、太陽活動の生物界への影響に關する333回国際シンポジウム(ソ連コロナ観測所長 M.N. Gnevyshev との共同発表、7リユッセル、1968)等において報告した。

M.N. Gnevyshev によれば、太陽活動のさかんな時には卒中や心筋梗塞による死亡や発病が増大するという。B. Dill & T. Dill は太陽爆発に際し、腫瘍性の死亡や結核性の死亡が急増し、また、太陽活動の盛な時には自殺が増えることなどを示した。

しかし、何故、太陽活動がそのような影響をもつのであろうか。それは恐らく太陽からの電磁放射によるものと思われる。人間の心理的、生理的な行動を支配する神経系のはたすきは超極的に相波等であらわれるような電磁現象に帰着する。従つて、太陽からの電磁放射が地球上の地磁気や電離層、バン・アレン帯などの電磁現象のみならず、人間の行動にも—直接的に、または、地球上の電磁場の変化を通じて間接的に—影響を及ぼすことは十分ありうることといえよう。

A.L. Tchijewsky によれば、15世紀から20世紀

にかけての右界の騒乱、即ち、戦争、革命、暴動などの発生率は太陽黒点の極小期には僅か8%にすぎず、その極大期には53%を占めるといふ。

ゆが口でも日清戦争は太陽活動の極大期に起り、次の極大期に日露戦争が発生した。その次の極大期にはロシア革命や米騒動が起り、また、2,26事件、日中戦争、左界大戦へ突入の一連の紛争もやはり極大期におこつてゐた。

大戦後の2.1ゼネスト、松川事件、下山事件、三鷹事件、朝鮮戦争…と続いた騒然たる右相の一時期はその次の極大期である。

更にその次の極大期は砂川基地問題、勤評反対闘争、安保反対闘争等の激化した時期であつた。この時期には、また、ポーランド政変、ハンガリー動乱、アルゼリヤの独立戦争、キューバ革命、ベトナムの結成など世界中が紛争にまきこまれていた。

大戦後中東で3回戦争が起つているが、これらもやはり極大期毎に起つてゐる。即ち1次のパレスチナ戦争が2.1ゼネストや朝鮮戦争などの時期、2次のスエズ戦争が砂川基地闘争などの時期、1967年の中東戦争以来のくすぶりが同年に始まる現在の極大期である。

最近の黒人暴動や大学紛争のエスカレート、交通事故の激増も、最近の太陽活動の活発化に伴つて激化している。一般に太陽活動の消長と地上の騒乱の増減の一致には極めて著るしいものがある。荒れ狂う大学紛争なども、昨午が太陽活動の極大年であり、数年後の極小期になれば、人々もかすかに「そんなこともあつたなあ」と思ひ出す程度になつていよう。—1度大戦後の2.1ゼネスト、松川、下山、三鷹事件や、次の極大期の砂川事件、勤評、安保闘争などがそうであるように。

勿論、ここで留意すべきことは「太陽活動が戦争や暴動などの第1次的な原因因ではない」ということである。例えば黒人暴動や中東戦争などは白人と黒人、イスラエルとアラブのそれまでの人種的偏見や利害対立などによつて起つてゐる。しかし、それが現実には暴動となり戦争となつてあらわれるのには、人々の理性的な判断を妨げ、感情を沸騰させるような何ものかの存在が条件となるのであつて太陽からの電磁放射がその条件になつてゐるのだといえよう。

# 工場災害者の心理学的研究

— 各種心理検査の結果について —

— 境 知 厚  
(八幡製鉄所病院 労働医学研究課)

目的：工場災害を人間の側面から防止するため、災害者を弁別しうる有効な心理検査を見出すこと。

方法：(1) 災害者は製鉄各工場で負傷した56名であり、面接調査および災害記録から自己責任50%以上とみなされた者。そのうち64%は事故回数1回のみであるから、災害頻発者群とはいえない。(2) 対照として無事故者で前記災害者と職場、年令、勤続、経験が同一の者を各56名選んだ。(3) 検査の種類は13であり、個人別に実施した。

結果と考察：(1) 心理検査の項目と結果は表1に示した。(2) 忠告判断では交通場面の得喪を上中下に分割して検討すると、災害者バリスカイである。項目別では自動車超越場面と同様の傾向がみられる。(3) CMIでは災害者に身心の訴えが多い。これは負傷による影響が当然考えられるが災害前に検査したものでないのでの程度ははっきりしない。(4) ジェネイター性格分類では(思いついただけではすぐにはやれない)、および(何事によらずすぐやつてしまう)

表1 心理検査結果 (\*0.1 \*\*0.05 \*\*\*0.01 補正検定)

検査	犠牲性	検査	犠牲性
① 緊張調査		NP% (災 $\bar{x}$ =29.1, SD=6.9 無 $\bar{x}$ =25.6, SD=9.1)	**
② 忠告判断: 非交通場面		ℓ: 外罰方向要相相	***
交通場面*		ℓ: 内罰方向自己防禦*	*
(追越場面)*		⑧ 内田クレペリン	**
③ 精神身体症状		⑨ キッツテルCF知能	
④ CMI: 領域	**	IQ (災 $\bar{x}$ =87.1, SD=14.1 無 $\bar{x}$ =82.6, SD=18.5)	
反応数 (災 $\bar{x}$ =26.2, SD=7.0 無 $\bar{x}$ =19.4, SD=15.8)	**	下群(78以下)と中群(79-100)*	*
F, H, J, L各77.04-220併*	*	⑩ 注意配合	
A, B, D, K, P, C, I, J, M, R	**	⑪ 両手協応: 偏差値	
C, I, M, O	***	正作業率	**
⑤ ジェネイター性格分類(明)	**	⑫ C.C.NO	
⑥ YGT性格:C型 (災14.6 無23.6)	**	選別 (災 $\bar{x}$ =20.1, SD=1.5 無 $\bar{x}$ =21.4, SD=3.5)	*
A: 支配性	**	型	**
S: 社会的外向	**	⑬ 反応速度 (災 $\bar{x}$ =71.36, SD=14.5 無 $\bar{x}$ =65.46, SD=32.4)	**
AS: 主導権をとる	***	偏差	*
Ag, G, R, T, A, S: 外向性*	*	⑭ 反応速度, 偏差, C.M.I	***
R: のんき	*	内田クレペリン: C.C.NO併用	
⑦ PF スタディ		(災 $\bar{x}$ =14.2, SD=3.7 無 $\bar{x}$ =16.7, SD=3.3)	

①③⑥⑦ NP ⑧⑩⑫ 選別 ⑬⑭ 速度 ⑮はC検査はC検査はC検査

のカテゴリーに災害者が多く、(事柄によつてはすぐやることもある)に無災害者が多い。(5) YGTでは災害者が外向性で主導権を握りたがり、無災害者は内向性のC型が多い。これは積極性よりも安定性のほうが安全との結びつきの大きいことを示唆する。

(6) PFでは災害者が自己非難をしがちで、また他人に依存や救助を求めたがる。GCR, E, I, Mなどには差がみられない。(7) 内田クレペリンでは好以上と好~f(0)以下に分けた場合、前者に無災害者が多い。是非間, A, B, C間には差がない。(8) 知能はIQの平均値間には差がないが、上中下の各群に分けた場合、下中下に比して災害者が多い。上群にも災害者がかなりみられるのはU字型を思わせる。(9) 両手協応では作業量よりも正確性に差があり、災害者に誤りが多い。(10) C.C.NOでは(表2)災害者バ(あわて型)に多く、(機械型)に少い。また選別数の少ない者に災害者が多いのは知能との関連を示すようである。

(11) 有意性のある検査のうち、反応速度と偏差、CMIの領域、内田クレペリン、C.C.NOの型の各評点(表3)を合計し、平均値で分割すれば弁別力は68.8%である。平均以下には災害者の67.8%、無災害者の30.4%を含む(図1)。これらの検査は約2時間で実施出来るので充分な実用性をもっている。

表2. C.C.NO. Cum% 図1. 評点計の累積百分比

C.C.NO	災害者	無災害者
1.5以下	19(33.9)	14(25.0)
1.6~1.9	15(26.8)	6(10.7)
2.0~4.0	22(39.3)	36(64.3)
4.1以上	0(0)	0(0)
計	56(100)	56(100)

$\chi^2 = 7.952 \quad p < 0.02$

テスト評点	1	2	3	4	5
内田クレペリン	f(B) f(C) f(P)	f(A) 好~好	好~好	好~好	好~好
C.M.I	IV	III	II	I	
C.C.NO	0.9以下	1.0~1.5	1.6~1.9	4.1以上	2.0~4.0
反応速度	80.0以上	79.9~70	69.9~60	59.9~50	49.9以下
偏差	13.0以上	12.9~11.0	10.9~9.0	8.9~7.0	6.9以下

(連絡先) 北九州市八幡区春の町四丁目 八幡製鉄所病院

# 運転適性検査に関する研究報告(II)

○栗野 晴 穂 大橋 迪・石山 千代子・栗野 恵子  
(聖十病院・精神衛生センター) 駒 沢 輝 雄・棚 村 貞子(岐阜県精神衛生センター)

《目的》交通事故の激増にかんがみ、運転者に適切な助言をしていくため、事故多発者と無事故者の特性は如何なるものか、どうすればより適確に特性を把握する事ができるかを明らかにする事を目的とする。

《対象》43年度に当センターで検査した約1000名のうち、事例調査に協力があった411名を全対象とし(1)運転を主な業務としていて最近3年向ける回以上事故を起こした者45名を事故多発者群(A群)

(2)最近3年向無事故・無違反の者67名を無事故者群(B群)とし、この2群について比較検討する。

《方法》次の各検査のそれぞれのカテゴリについてAB両群の差異、属性、関連について考察する。

(1)知覚運動協応検査(速度見越反応検査、重複作業反応検査、処置判断検査)(2)人格検査(CAS不安検査、グレパリン精神作業検査、田中B式知能検査)

(3)社会環境調査(事故正、事故内容、免許、職業、運転経験、家族構成、収入、学歴、未婚婚等)

《結果》(1)速度見越反応検査 ①判定ではA群の51.4%が要注意・不適域にB群の76.1%が適格域に入る( $P < 0.01$ ) ②平均見越反応時間ではA群の57.6%が尚早及び遅延反応域に、B群の73.2%が標準反応域(1500~2500ms)に入る( $P < 0.01$ )(表1)

表1. 数字はパーセント  $t < 0.01$

ms	~1000	~1500	~2000	~2500	~3000	~3500	
A群	24.4	22.2	26.7	15.6	8.9	2.2	$P < 0.01$
B群	46.6		42.3		11.1		
A群	4.5	13.4	44.8	28.4	7.5	1.4	$P < 0.01$
B群		17.9		73.2		8.9	

(2)重複作業反応検査 ①判定ではB群の74.6%が適格域に入る( $P < 0.01$ )A群では55.6%が適格域に44.6%が不適格域に入る。②刺激度では刺激度20未満を低群、20以上を高群とするとB群の方がA群より低群に入る者が多い( $0.02 < P < 0.05$ )、平均に有意差はない。③誤反応では誤数3未満を良群、3以上を不良群とするとB群の79.1%が良群に、A群の42.2%が不良群に入る。( $0.01 < P < 0.02$ ) ④1秒の誤反応に有意差は認められない。

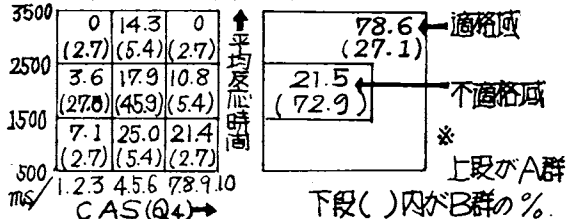
(3)処置判断検査 判定、効果率、左右の誤数についてAB両群に有意差は認められない。

(4)知覚運動協応3検査の組み合わせによる総合判定 ①A群の62.3%が要注意・不適格域に、B群の68.

6%が適格・準適格域に入る。( $P < 0.01$ ) (5)CAS不安検査・因子Q4ではB群の方がA群より不安得点が低い( $P < 0.01$ )又その他の因子及び総得点について両群に有意差は認められない。

(6)田中B式知能検査では有意差は認められない。(7)グレパリン精神作業検査では作業量、体感効果、曲線類型、等について有意差は認められない。

(8)速度見越反応検査の平均見越反応時間とCAS不安検査のQ4因子の関連・反応時間1500~2500msを適格域、Q4の得点1~6を適格域とし、そのいずれもが適格域に入るものを適格群、両方又はいずれかが不適格域に入るものを不適格群とすると、A群の78.6%が不適格群に、B群の72.9%が適格群に入る。(表2)。 表2. 数字はパーセント



(9)社会環境調査 ①免許ではA群の56.5%が20又B群の68.5%が30才以上 ②未婚婚別では、A群の41.7%が未婚者、B群の80.6%が既婚者。③運転経験年数ではA群の54.8%が5年未満、B群の84.9%が5年以上の経験者である。

《考察》(1)無事故者は速度見越反応検査で多発者より標準反応に近い反応時間を示し、より焦燥抑制力が強く動体速度認知も適確である。(2)無事故者は重複作業反応検査で多発者より適確な反応を示し、多様な刺激に対してより制御された反応行動を示す事ができる。

(3)知覚運動協応検査の総合判定では、多発者の62.3%を、無事故者の68.3%を指摘する事ができる。

(4)事故多発者はCAS不安検査の因子Q4で無事故者より高い不安得点を示し、より欲求不満による焦燥や、衝動による暴走状態が高いと考えられる。

(5)速度見越反応検査の平均見越反応時間とCAS不安検査のQ4因子の組み合わせでは、多発者の78.6%無事故者の72.9%を指摘する事ができ、事故と焦燥との深い関係を物語っている。《連絡先》岐阜市司町 岐阜県台同庁管内 岐阜県精神衛生センター

# N式(点数字式)作業能力及性格検査について

## (作業性格検査 39)

適性研究所 板倉善高

目的: 点数字を使用して、作業能力及作業性格と、近視とか乱視の程度を検査する。更に職業の性格的適性も判定する。

方法: 点数字は、次に示す如く、○の中に一個から十個までの点を配列したもので、四号活字大である。



この数字を横に100個、不規則に配列したものを17行、一面に印刷した用紙を使用。(表裏使用) 数字の配列の仕方は、各数字の出現回数は1行につきほぼ平均して10回とし、同一数字が連続せず、相隣る二数の和が同一のもが連続せず、その和の値の頻度もほぼ均等なる如く配列す。

但し、最後の17行目は、1から8までの数字に限り、五号活字大とす。

なお、横の字間は4分アキ、行間は1字アキとす。

作業の仕方は

- A. 点数字をアラビア数字に書換えとる。
- B. 相隣る二つの点数字の和の一位の数を、アラビア数字で、その二数の中下に記入する。

この二法のいずれかを、①1行目の左端から右の方向へ作業し、1分間ごとに下の行に移る。

①17行を終了したならば、3分間休憩の後、裏面の作業と同様に行う。

但し、この作業にかかる前に、練習20秒2回を実施する。

結果の処理:

1. 作業量  
①作業の  $\frac{1 \sim 8 \text{ 行までの作業量}}{9 \sim 16 \text{ 行までの作業量}}$  比

から学習度を判定

②作業の  $\frac{1 \sim 8 \text{ 行までの作業量}}{9 \sim 16 \text{ 行までの作業量}}$  比

から疲労度を判定

②作業の平均値からN式作業能力を五段階に判定し、能力による職業適性判定  
但し、平均値は誤脱を除いた値

- 2. 誤脱量の計算
- 3. 筆跡による性格と職業適性の判定
- 4. 休憩効果  $\frac{\text{②作業量}}{\text{①作業量}}$  比から健康状態と意志力を判定
- 5. 作業曲線の型を

- N型(正常)
- U型(上昇)
- D型(下降)
- O型(突出)
- I型(陥没)
- S型(平坦)

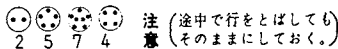
に分類、①-②作業に適用、36の組合せを作り、それぞれに性格を判定。又適性判定

- 6. 変動率を計算し事故性を判定
- 7. ①17行目の作業量を①16行までの作業量と比べて、近視乱視の程度を判定
- 8. 以上を総合して、性格と職業適性を判定
- 9. 性格式の作成

やり方

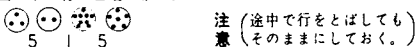
### A. 置き換え法

○内の点の数を、その下に書く作業を左端から右へ正しく早くつづけてゆき「次の行」の合図で下の行の左端に移る。



### B. 加算法

左右相隣る○内の点の数の和の一位の数を、その中下に書く作業を左端から右へ正しく早くつづけてゆき「次の行」の合図で下の行の左端に移る。



連絡先: 松戸市松戸1267(電 0473-62-2036)

# 航空機騒音の児童に及ぼす

## 心理的影響 (4-1)

内藤らづる 清水とし子 篠 功 江 山 内 淑 子 児 玉 信  
 (日本女子大学) (日本女子大学) (日本女子大学) (日本女子大学) (日本女子大学、小田原女子短大講師)

研究の目的: 3年前から東京都昭島医師会の委嘱により、開始した同地の航空機騒音者児童に対して及ぼす影響に関する研究の第4年度の研究成果の報告で、本発表に於いてはとくに、(I)航空機騒音下に於ける小学生の授業の結果、(II)昭島市内の高騒音地区に住んでいる児童と低騒音地区の児童の学籍簿による成績の比較、(III)航空機騒音者地区の児童に関する音楽能力、同趣味などの研究、(IV)ジェット機騒音の周波数分析を行ない、その音質差に対する感情の評価、並びに(V)異なった地点に於いて児童がジェット機騒音をいかに感じているかに関する調査の研究について報告する。第1演者が最初の研究、第2演者が後の研究について発表する。

(I)の方法と結果: 3種の音響条件下に於いて授業を行なうことにより、それぞれ条件が授業能率に与える影響の可能性を検討した。授業は数理的思考を要求されると思われる学科と、理解と記憶を多く要求される社会科の学科とし、4年生の1組と2組を別々に2人の先生に同じ学科の授業をしてもらった。騒音の条件は(A)授業中ジェット機騒音のテープを80PA前後の音圧レベルで一定時間の間隔でくり返し流した80phというのは同小学校が防音装置のない場合に於いてジェット機がひきおこした騒音の程度であった。(B)普通我々の耳に快感を与えらると思われるベートーベンの団交響曲の一部のテープを用いた。(C)音響的に何の操作もしないで同小学校のふつうの条件下に於いて授業を行なう。授業の内容は某標準テストを参考にして授業案をたて、その結果は標準テストを用いて検討した。その結果算数についてはジェット機騒音下と学校のふつうの状態下に於ける授業効果については有意差なし。音楽下とふつうの状態下の授業効果についてはふつうの状態下(時折ジェット機が空をとぶ)の方が成績が良い。1%の危険率で有意差あり。ジェット機騒音下と音楽下に於ける授業能率については、ジェット機騒音下の方が良い。(5%の危険率)。社会科の授業については、以上の3つの条件下に於ける授業効果に、おおよそ有意差なし。

(II)の方法と結果: 学校には1日のうち一定時間し

かないが、その他の二、六時中いる家庭環境が高騒音地区にあるかどうかによって児童の学業成績に差があるかどうかをみる為に学籍簿により、その差を検討した。高・低騒音地区の児童はおおよそ3年生から6年生までで、たまたま同数の50名であった。各科目の平均成績については差はないが、1-5の段階別にみると、

音楽	1-2の段階にある者:	高騒音地区	32%
		低 "	20%
算数	1-2の段階にある者:	高騒音地区	26%
		低 "	20%
理科	1-2の段階にある者:	高	32%
		低 "	22%
社会	1-2の段階にある者:	高	30%
		低 "	20%
国語	1-2の段階にある者:	高	28%
		低 "	26%
音楽	4-5の段階にある者:	高	28%
		低 "	32%
算数	4-5の段階にある者:	高	22%
		低 "	34%
理科	4-5の段階にある者:	高	30%
		低 "	28%
社会	4-5の段階にある者:	高	26%
		低 "	32%

両騒音地区の児童は大体同程度の基礎能力を保持していると思われるのであるが、上の結果からは理科を除いた他の4学科に於いてはどれも低騒音地区の児童の方が成績が良い。同両地区の児童の1日分布を示すと、(表1)。

日	60~	70~	80~	90~	100~	110~	120~	130~
高	2人	5人	5人	14人	10人	10人	2人	2人
低	1人	0人	10人	16人	9人	7人	3人	2人

この数字からみて低騒音地区の児童には10/20以上の者が10%高騒音地区が8%、80%以下は低騒音で2%、高騒音で14%ある。こゝの点に上述の学籍簿成績にふまきようしたのも知らない。



# 航空機騒音の児童に及ぼす

## 心理的影響 (4-2)

・内藤ちづる 清水とし子 篠功江 山内教子 児玉省

前報者<sup>1)</sup>に引き続き、Ⅲ以下の研究について報告する。  
 (Ⅲ)の方法と結果: 教しい航空機騒音が児童の音楽能力、鑑賞などに何らかのいまいきょうを与えていないかを検討する為に音研式音楽能力診断テストをH小学校の5年生の各名に対して実施した。本テストはリズム、旋律、ハーモニー、読譜、創作、鑑賞の6つの要素について添付してあるシートを用いてテストした。音研式テストの音楽能力評価点段階表(表2)。

	1	2	3	4	5
リズム	0~8	9~10	11~12	13	14
旋律	0~7	8~9	10~12	13	14~15
ハーモニー	0~10	11~12	13~15	16	17~18
読譜	0~3	4~5	6~13	14~20	21~25
創作	0~6	7~8	9	10	11
鑑賞	0~4	6	8	10	12

これに対し、H小学校の児童の成績を比較して音研式音楽能力段階に基づきコロンゴルフ・スマイルフ検定を行なった。(表3)

	理論上の人数 (%)	H小学校 (%)
7	1	0
6	6	
5	24	2
4	38	17
3	24	49
2	6	30
1	1	2

相対累積度数表 (表4)

段階	理論上	H小学校	理論上-H小
7	100		
6	99		
5	93	100	7
4	69	98	29
3	31	81	50
2	7	32	25
1	1	2	1

児童の音楽嗜好調査: 小学校の音楽の先生達の話では、H小の児童の好みはふつうの小学校の児童と比べて多少違っているのではないかということだったので、その点を確かめる為に次の様な質問を試みた。

日本の民謡的なものの一例としてひえつき節、外国音楽のうち静かで穏やかな一例として、ドボルザークの新世界交響曲アジアの高原に立ちてからの一節、それに現代の子供達が最も好んでいるという種類の一例としてビートルズの曲を並び、いずれもレコードを聞いて好き、嫌い、どちらでもない、の3段階評価をさせ、その結果を整理した所次の表を得た。

クラス	1組	2組	全体
曲目	男	女	男
ひえつき節	2人	0	3
新世界	19	10	32
ビートルズ	6	6	18

これによると、ひえつき節と新世界が好まれ、ビートルズが最下位になった。H小の音楽の先生の話では、穏やかな曲を好むとのことであったが、結局常に高騒音下にあると強烈な印象を与える現代音楽に抵抗を感じて、むしろ静穏な音楽に好みを持っているのではないかとと思われる。もちろん人物の嗜好を1つの条件だけに結びつけるといふ様な欠点があることを言うわけではないが、可能性を提示しているわけである。

(Ⅳ)の方法と結果: 騒音というのには概ね一般的に言って我々の耳に好ましくないものとしてひびいてくるものと考えて良いであろう。しかしこれは極めて主観的である。そこで我々にはジェット機の騒音をテーマにとり、慶大工学部の騒音教授の好意で周波数分析器にかけて分析したものを17名程の者に聞かせて5段階評価させた。各周波数を階層化音のスペクトラムにして、断層のありそう箇所を一定時休止しては次へ進み、大体250 c/s から 8000 c/s の所までをCoverした。

時間	不快度	1回目と2回目の差	2回目と3回目の差	合計
t1	不快	3	3	3
t2	"	2	2	3
t3	"	2	1	3

これより後は紙面不足により省略する。

# 適性配置テストの追跡調査(1)

○ 正田 巨 豊原 恒男 石井 千尋  
(立教大学 心理学科) (立教大学 心理学科) (精工舎 勤労課)

**目的:** 入社所に実施した適性配置テストの妥当性を検証し、適性者と非適性者の技能習熟度、勤務成績を比較することによって組立作業員に対する効果的教育訓練方法の確立をはかる。

**方法:** I 適性検査作成 シヤッター組立工の適性検査を以下の手順で開発した。①第一回の選抜検査は、試作案がまよあゆないので、労働省編「職業適性検査第2型式」を実施した(1968年2~3月, 中卒43人, 高卒18人, オオホセ女子)。同時にYF性格検査, CFA T要求水準検査を施行。適性検査結果をもとめて、組立作業者と部品・機械作業者に配置分けをする。②シヤッター組立工の職務分析を行なう。この過程は、現場作業の観察、作業標準シートに準拠する工程別所要特徴の抽出、監督者の評定という三角から行う。所要特徴は、体格(身長・体重・体形)、体質(汗の発汗量)、体力(手・腕・背・脚の力)、感覚知覚力(視覚・聴覚・触覚・味覚・嗅覚の鋭さ、形の知覚、色の知覚、大きさ・量・距離・速度の目測)、筋肉感覚、平衡感覚)、運動能力(指先の着用力、手と目・目と手と足・両手の共通能力、運動調節)、知的能力(空間判断力、言語能力、算数能力、記憶力、注意力)、性格(協調性、客観性、耐久性、神経性、活動性、感情安定性、自主性、綿密性、劣等感)の41項目に分類される。所要特徴抽出後、一覧表を整理分析し、特性の必要順位を作成した。その結果見出した主要特徴名を順別にあげると、視覚の鋭さ、指先の着用力、手と目の共通、注意力、運動調節、形の知覚、両手の共通、手の力、距離の目測、触覚の鋭さ、空間判断力、色の知覚、筋肉感覚、量・大きさの目測、記憶力であった。③上記の所要特徴を抽出する検査項目の選定を行なう。この際、項目によっては①の段階で実施した労働省職業適性検査と適用できるものがある。以下の性能はそれぞれもってあることとした。視覚の鋭さ(A, K) 指の着用力(O, Pピセット方式)、目と手の共通(C)、算数能力(D, H) 空間判断力(E, G) — フルベットは第2型式での検査問題名を示す —

新たに追加する検査としては、注意力(図形の異同分別)、目測の力(目測検査)に属する二種類の紙筒検査、運動調節(両手共通検査)、手の力(握力検査)、触覚の鋭さ(穴板触知板、厚マシ板を使用する触覚

検査)、色感の鋭さ(色相、明度、彩度と考慮した色紙板30枚、たとえば6-12-1, 16-14-5などを使用する色覚検査)に属する着目検査4種目である。

なお、所要特徴にあげられた発汗量、筋肉感覚については、測定方法が困難なことや所向の制約などから今回の検査項目からは除外した。④上記③の段階で構成された検査を中卒女子37人、高卒女子11人、在職経験者(勤続1年から8年までのものを勤続年数別によりグループ分けする)41人に実施した(1969.2~3月)。

この際、YF性格検査(在職経験者を除く)、CFA T要求水準検査を被験者に施行したことは前回と同じである。

**II 技能、熟意度等の評価** (i) 本項①の対象者の一部について、訓練中に突技テスト、習熟度の評定を実施する。(ii) さらに①の全員(61人)について、就業半年後の1968.10月に直屋上長(評定者訓練受講後)が技能、熟意度について評価する。技能度は体力、感覚知覚力(視覚の鋭さなど4項目)、運動能力(指先の着用力など4項目)、知的能力(記憶力、注意力)、情意性格(周到性など5項目)から構成されており、熟意度は時間厳守、仕事ぶり、信頼度、整理整頓、協調性、根性、職務満足の評定項目からなる。それぞれ4項目につき5段階評定を行なう。(iii) 今年入社組についても、上記の評定項目を若干修正したものをを用いて、今後評定する。

**結果:** 結果についてのデータは当日配布発表するが、その一部を掲げると、(i) 訓練中の突技テストと適性検査の総合成績間の順位相関は0.37 ( $n=7$ ) (ii) 適性検査項目の中で、監督者評価とつまやかさのこころのこする視覚の鋭さ、指先の着用力、手腕の着用力、手と目の共通、注意力の5項目を選出し、その総合成績を個人別に算出した。この成績と監督者の評価との相関は0.36 ( $n=19$ )であった。(iii) 上記総合成績で上位群、下位群それぞれ47人を選出、監督者の評価の平均について大検定を試み、5%水準で有意差を認めることができた。

**考察:** 今回作成した適性検査の妥当性は、ある程度認められることになった。とくに、この種の検査は上位群と下位群を識別するとき、その有効性は大きく働くものと思われる。

(連絡先) 東京都豊島区西池袋3丁目、立教大学内。

# 車輦に対する青信号の赤減効果に関する調査

鶴田正一・加藤 篤 神作博 山崎睦子  
(大阪大学) (中央大学) (中央大学) (大阪女学院)

目的: 交通信号の青から黄に変る時、青2.4秒4〜7回赤減させるにつき是否論がある。この赤減は昭和28年3月に大阪で考案され、近年、国の中央で、(東京)廃止の運びとなっているものである。故にその中間に位置する両方の特長をもつと思われる名古屋に於て、調査を試みた。赤減は、運転者や歩行者との回答で評判がよく、普及率、賛成傾向も高い。(鶴田昔事故の心理 中公新書 P118-124) 然し、警察方依頼の交通信号委員会は、車の流れの不均衡を大きくし、機能が複雑にし効果は期待出来ずとし、廃止論は、赤減ゆに速度を増し走りぬける車多、追突も増加させ、国際規約もなく、法令化されていまい、赤を強調する。そこで我々は、一般交通を大切に、科学的資料を提示すべく、赤減式青信号の交差赤に於ける車両の速度制御や停止、通過率に効果があるかどうかを調査した。

方法: 信号に面して交差赤より10~90m前方の調査地帯の車の速度の制御状況を目標調査する為、交通量のほぼ等しい両信号のある御番前通りのN赤(塩付通との交差 非赤減赤)F赤(川原通との交差 赤減赤)の車の通行を調べる。方法の詳述は、別紙するが調査日の条件は、次の通りであった。1)日時 平日(平日) 43.12.3(火) N赤(2:23~3:14pm) F赤(2:26~3:15pm) 休日(休日) 43.12.8(日) N赤(2:19pm~3:18pm) F赤(2:20pm~3:33pm) 2)場所 名古屋市昭和区御番前通の二つの交差赤の間に信号はなく 調査前後の交通量は、測定の結果、ほぼ同じと判定 3)調査員 中央大学文学部心理学科職員4名 学生17名 4)道路状況 両日とも晴天 路面は乾燥 風は強くない。N赤付近は、ほぼ平坦であるが、F赤は、交差赤40~50m手前で山崎川の橋有り20~30m迄にわたる急道路が、やや盛り上げている。5)信号赤減の周期 図1のとおりである。6)調査員及び合同係の配置 図2のとおり。

結果: 通行車両の停止の有無の比率は、表1に示す(左折を含む)平日の信号変化50回、休日は60回におけるものを表示した)

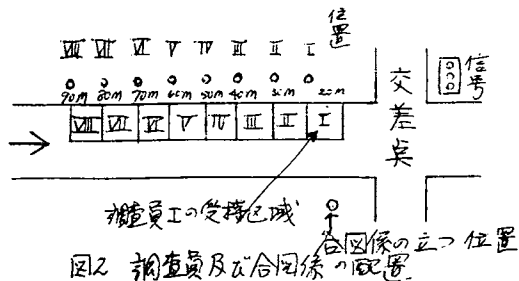


表1 本調査の結果

観測箇所		11~20m	21~30	31~40	41~50	51~60	61~70	71~80	81~90
43年12月3日(火曜日)	赤減								
	通行台数	20	12	21	20	15	8	9	
	通過率%	70	42	43	5	27	0	0	
	制御通過%	10	0	38	25	0	0	0	
	停止数%	20	58	19	70	73	100	100	
43年12月8日(日曜日)	非赤減								
	通行台数		24	15	13	15	38	24	29
	通過率%		67	67	32	40	24	29	7
	制御通過%		25	33	68	33	21	0	0
	停止数%		8	0	0	27	55	71	79
43年12月8日(日曜日)	赤減								
	通行台数	19	14	16	14	9	8	17	25
	通過率%	63	57	43	14	0	0	0	4
	制御通過%	32	29	38	36	0	13	6	0
	停止数%	5	14	19	50	78	27	74	96
43年12月8日(日曜日)	非赤減								
	通行台数		19	22	16	8	19	21	21
	通過率%		79	86	62	75	68	57	10
	制御通過%		21	14	19	13	26	10	0
	停止数%		0	0	19	12	6	33	85
43年12月8日(日曜日)	赤減								
	通行台数								
	通過率%								
	制御通過%								
	停止数%								

表2 段々の調査による豊中市の停止率

観測箇所	10m	15m	20m	30m	40m	50m	通行速度	鶴田 篤
青赤減有り	5.6	2.9	5.4	6.4	5.7	10%	速夜後	事故心理
青赤減無し	1.8	17.4	4.3	8.1	100%	速度急		P119より

結論: 以上より、赤減のある方が、停止率もよく速度も制御して(減じて)いると云えよう。この大阪大のメモカメラによる分析データと同じ傾向を示している。即ち、青赤減が、通過自動車速度を増すと云うにはならない。

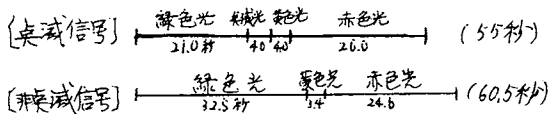


図1 信号変化の周期

## 過程尺度によるカウンセリング過程の研究(五)

— Real Self とは何か —

飯塚 銀次

(東京農業大学)

目的: Rogersの用いた過程尺度を用いて、カウンセリングの面接記録を評定し、それを考察して、カウンセリングで問題が解決し、症状が癒えることは、知覚の再構造化により、自己をあるがままに捉えて、眞の自己になることであることと示明せたい。

方法: A青年(大学院化学修士一年、主訴赤面恐怖症、昭和40年6月来談、8回面接、カウンセラー飯塚銀次)の面接記録を、八木由夫、岸田博、飯塚の3人が過程尺度(昭和44年5月 第一回日本心理学会発表)に依つて評定した。参考文献、本研究の目的

第一表 A青年の過程評定値

面接回数	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII
過程評定値	3.1	3.5	4.6	4.7	4.7	5.1	6.0	6.7

備考: 評定値は、八木、岸田、飯塚の平均値

である real self、即ち眞の自己を考察するために、録音機摘除後であるが、第八回面接から資料を差出。

考察: 1資料 第七回目の面接記録の一部

『A: だけど、まあ、最近ですかね。その気持は変わるか、それはわからないですかね。無理にですかね。あの研究室の女性なりにね、気安く、普通一般の人のように、サーッとしゃべらんでもいいじゃないかっていうような気が起っているんですかね。別にね、人の前で固くなったりしてね、そういう状態なら、しゃべられぬ段階だから、かわらんと。いつかは、そういうこと、あるいはできるじゃないかという気が起ってですかね。何もわりしてまで、きさくにしゃべれるように、きさくにしゃべらなくちゃならなくて、ないじゃないかと。しゃべらなければしゃべらなくても、それでいいじゃないかという気が起ってきたんですかね。評定値 6.3』

考察はまず、過程尺度に示された評定基準の大意と場、それからどの程度表われているかを拾いの中で説明するようになる。①積極的な新しい感情を呈発する。(これまで対人恐怖でどうにもならぬ暗さからいうと、多少の不安はあるが、閉鎖に積極的に取組もうとする意気込みが見える。)②以前の否定的感情が肯定化される。(これまで話せなくて困るという自己否定は、今は話せなくてもいいんだという現実の肯定は著しい変化だ。)③自己一般の中に、消之ゆく自己不一致

が目立つ。(「ありしてまでも、変態にしゃべらなくてほならぬ」という矛盾を呈現して、その二つの無用である心遣いを述べている。)④自己意識は反動的に強く意識しない。(自分の思っていることを、何のこだわりなしに、平直に、気軽に述べている。)⑤自己構成概念の再構成を生々生々呈現する。(これまで話せなくて困った自己を、そのまま許そうとする自己観は大きい変化である、それが鮮やかに出てくる。)⑥問題は人間の生き方に転化している。(赤面による対人恐怖の主訴は、現実をそのまま認めればよいとする人間観に変化の兆を示している。)⑦カウンセラーの受容してくれぬ関係で、眞の自己になろうと努める。(カウンセラーに対する来談者のまじめな態度が見える)

考察: 1資料 第八回目の面接記録の一部

『A: 49 オウ他人のことを思つて、すぐ比較して、自分の個性とか性格のあることを示れて、他人はすばらしいというようにすぐ思うんですよ。女性とうまくやっている所をみると、自分もああなりたい、ああならなくちゃいかんと思う。だから、そういうことでなくて、彼は彼で大きいやっています。自分は、たとえ、今はしゃべれなくとも、自分は自分なりにやっていくこと。自分も普通にはしゃべりたい気持はあるんだが、今はできないというのは自分の姿であつて、無理にそういうところにとび込んでです。不自然な無理にいき張るようなです。そういうことはなくてもいいんじゃないかと思つて、そういう気持でいるんですけどね。』 評定値 7.1

①以前の否定的感情が肯定化される。(他人を羨み自己を卑下してきたが、今はマイペースでいこうと気づく。)②至極な感情の流に流れ、それを照会弁として行動の指標とする。(むりに不自然なことをするなという感情の動きが照会弁となつて、他人の評判に振り回れずに、自主的に選択しようとしている。)③不一致は最少限かつ一時的になる。(矛盾が出て、すぐすなをに現実を認めようとする。)④自己は確信をもつて感じとられる。(おりにいき張るなという主張にこの巨が多少みられる。)⑤自己は常に流動し、再構成される。⑥新しい行動は効果的である。(行動は適切で創造的である。)⑦人間関係は自由で平直である。要するによくなるとは real な自己になることである。

# 気分易変性の変調とその治療について

— 心情質変調治療の研究 第XIX報 —

長谷川 孫一郎

(印樞少年院)

**目的と方法:** 気分易変性の安定性が失われ、はなはだむらむらで、すぐにいらだち、思いもかけない態度や行動に出てしまうようになる心情質の気分易変性変調について、心情質問診を中心に、事例的に変調の出現と消失、他の徴候との関係などを分析し、気分易変性の特制、診断と治療の方法について考察する。

**手続:** 6カ月以上の経過をみた外来相談100例、不適応行動のためつ刑務所受刑者200例、中学の問題生徒800例を中心とし、東京と川崎の一般中学生に実施した集団検診結果(昭35~43年)と少年院在院少年の場合を参考にして、気分易変性の有無と程度をみた。気分易変性の5段階のうち、気分がいらだつたり調子が変わることは全くない(イ:欠損状態)、気分がいらいらしてくるとじつとしていられなくなりやすい(ハ:固有状態)、気分がいらだつてくると、どうしてもしつとしていられなくなり、人や物に当りちらしたり、とんでもないことをしてしまう(ニ:ホ:変調状態)をとりあげ、時と場合によってそうなる(ロ:普通状態)は省略した。なお心情質の他の徴候には、抑うつ・無力・過感・強迫・自己不確実・内閉・粘着・意志欠如、即行・不安定・顕示・爆発・突快性がある。

## 結果1: 気分易変性徴候とその変調の出現率

心情質問診をくり返す過程で、気分易変性の欠損状態はほとんどみられず(1.0%以下)、固有状態は、外来例の81%、受刑者例の50.5%、問題中学生の46~57%にみられ、変調状態は、外来例の78%、受刑者例の46.5%、問題中学生の16~25%に出現した。一般中学生では変調状態が3~5%であり、年齢が進むにつれ減少し、年々漸減し、女子は男子よりやや少ない。

## 結果2: 気分易変性との他徴候との関係

気分易変性の固有状態は、顕示・爆発・不安定性と結びつくものが多く、受刑者例では、このほか即行性との関係もめだつ。変調状態は、前記各徴候の変調状態との結びつきがめだつほか、ほとんどすべての徴候の固有・変調状態のほか、顕示・爆発・不安定性を除く各徴候の欠損状態と結びつく例がみられた。年齢が進み、また変調が慢性化するほど、他の徴候との結びつきは複雑となり、欠損状態は、病癒の消失時か、慢性化した重症例の消失時のみ認められた。

## 結果3: 気分易変性の変調出現に伴う現象

外来例では、気分易変性、しつけしにくいとされる幼児にも、他の徴候の変調の特続・悪化期にも出現する。かんしゃく、風暴、注意散漫、学力不振、怠学、家出、さらには盗み、不良交友、頻回転校のほか、一時的な錯乱状態や放火、自殺企図にすむ例があり、知能や年齢による差はみられない。受刑者例では、上記のほか暴行、飲酒・薬物依存、自傷・相手がまわぬ毒舌、自傷、破壊、空笑・独語・妄想などを伴う錯乱状態が、入所当初の拘禁反応にも、集団生活から孤立したとき、独居生活の長びくときにも急激に出現する例がみられ、反抗・作業拒否によって他を悩ます。

## 結果4: 気分易変性の変調消失と再発

気分易変性の変調は、独立して出現・消失する例はみられず、他の徴候と結びついて変動する。急性のものは、他の徴候の変調と共に、安静と作業の治癒法によって短期間に消失するが、慢性化したものは、他の変調が悪化したり、急激な状況の変化によっても、たちまち再発・悪化し、他の徴候の軽快と共に一時的に消失する。そこで気分易変性の変調消失一出現は、他の徴候との関連から長い経過をみなければ予測しがたい。また長い独居処遇は、かえって変調の悪化をまねき、とくに顕示・爆発性などの変調のいちじりしい場合は、激しい異常行動、錯乱などを引き起しやすい。

## 考察1: 気分易変性の機制とその診断

心情質の気分易変性は、K. Schneiderの Stimmungsstabilität に由来し、その概念内容、経過等とは、ほとんど一致した。しかし気分易変性を主とする精神病質と診断しうる例はみられなかった。亢進し増強するもの抑うつ反応にかぎらず多方向であり、異常行動の種類から診断したり、特定の理を考へることも困難である。同じ個人でも変調の誘因は不定であった。

## 考察2: 気分易変性変調の治療

気分易変性の変調は、急性の場合には、本人の自覚と Schneider のいう「平静と忍耐と友情」の看護によって治癒するが、慢性例では、時期を失われぬ過激→小集団における治療を、ついで徹底した自己訓練が長期間必要であり、訓練期間がせやかしくは原音である。

(連絡先) 千葉県印旛郡印西町草深947

# 精神薄弱児（幼児）の集団心理治療

— 子どもの治療過程を中心として —

仁科義教 前田茂則 の漆原正行 高橋寛昭  
(千葉県中央児童相談所)

目的：約4ヶ月にわたり実施した2グループの精神薄弱児（幼児）の集団心理治療の治療過程を分析し、グループ編成、協同治療者、遊具の問題について検討考察する。

手続および方法：(1) 治療期間 S43年12月～S44年4月

(2) 治療時間 週1回 45分 計17回実施

(3) 治療場所 千葉市立病院神経科遊戯室

(4) 対象児 4才～6才の精神薄弱児12名と自閉症児1名、自閉症の疑いをもたれるもの1名の計14名であり、親の希望により午前（6名）、午後（8名）のグループに分けた。

(5) 治療方法 遊戯治療を両グループに同一方法で実施した。治療者は男1名、女2名（看護婦で継続担当が困難であり、交代で1名が治療場面に入った）であり、基本的態度として非指示的方法をとったが、入室時、退室時の挨拶と歌唱（退室時）は積極的に参加を求めた。また、危険を伴う遊びがなされる時には中断させたり、他の遊びへの移行を図ったりとした。

（母親のカウンセリングも平行して実施した。）

(6) 検討・打合せ会 各回終了後に各担当者が集まり情報交換、検討、打合せを行った。

考察：(1) グループ編成について

イ) 精神発達について I.Q. 36 MA 2:3であればかなりの集団凝集性が期待でき、I.Q.、MAが高ければより効果的である。しかし、1人だけ高IQ児が入っている場合にはその児童は集団から浮いてしまう危険性もある。

SQ、SAが高いからといって必ずしも好ましい発展は期待できないが、低い場合には集団内での交流は乏しく、治療者の負担と大となり、発展性は乏しい。

ロ) 年齢、年齢差、性差について 年齢（4:10～6:6）年齢差（1:6と1:0）男女比（4対2と6対2）であったがこの点から集団機能の低下、発展の阻害けみられなかった。性差によって偏りが生じたり、発展が阻害されることとなった。しかし、男女比が同じ時、女児が多い場合など検討する必要があらう。

ハ) 人数について 8名グループでも可能であるが、肢体不自由児や、低IQ・SQ児、多動、興奮衝

動児がいる場合には、治療者の負担と大となり、集団機能の低下もある。8名グループよりも6名グループに集団としての発展がみられたが、両グループの質的相違もあり、今後なお検討の必要があらう。

ニ) 治療期間、治療回数、治療期間について 週1回、45分の実施であったが妥当といえよう。治療期間は治療後の処置（特殊学級入級、精神薄弱児収容・通園施設入所）を考慮しての期限つき治療より有効であろう。

ホ) 脳器質的障害児の参加について 脳器質的障害が明らかと認められたものは6名で、2名は多動、興奮衝動型であり、4名は適応した行動みられた。

この型の児童は医療との平行治療が必要であり、多動、興奮衝動型のものに若干の効果と認められておりなお今後の検討が必要である。

ヘ) 自閉症児の参加について 集団機能の発展を効果的にはなし得なかったが、自閉症児自体は、消極的ではあったが治療者の働きかけに応じたり、集団への参加をみられ若干の適応・成長がみられたが、なお検討していく必要があらう。

(2) 協同治療者について

6～8名の精神薄弱児の集団治療には①安全性の保持 ②集団結合への働きかけ ③模範遊びの実施 ④治療者の一時的退室時の集団の維持などの点で協同治療者の必要性が認められた。

子どもにとっては、治療者の性差を意識した動きはなかったが、女性治療者は、活動的児童の動きについていけないこともあり活動的児童グループでは男性治療者2名が担当した方がより有効であらう。

女性治療者が交代で治療場面に入ったが、子どもの動きには変化はみられなかった。

(3) 遊具について

箱積木、細（汽車ごっこ、細引き用）、玉入れはグループ遊びによく使われたが、箱積木、細は危険を伴っており、治療者の配慮や、玩具自体の改良が必要であらう。また、子どもの創造した遊びに、治療者も意味づけ、支持するとともに、その遊びから集団遊びへの発展を図ることと必要であらう。

（本研究は千葉市立病院神経科との共同研究の一部である）

# カウンセリングの考察

# (ミュージックセラピー)

高橋 哲也

(東京都昭島市立成蔭小学校)

## ミュージックセラピーについて

最初に治療場面で音楽そのものの役割が、第一に問題があると思う。そこで、まず、心理治療で来談者中心ということ、こちらの押しつけでなしに、クライアントの立場に立つことである。それがあろうじ、音楽療法の場合には、音楽自身が、クライアントに働きかけるわけであるから、クライアントのムードに同調した音楽をかける。とにかく、音楽療法は、来談者中心療法と同じであると思う。

方法：用具は経験のない子どもでも抱擁なく、効果的に使用できるように、使用方法が簡単で創造的の試みが可能であるものを楽器類である。すなわち、オルガン、ドラム、シンバル、カスタネット、等が好ましい。治療者は、「指揮者の指揮どおりに上手に遊びを展開することなく、子どもにとって、大切なことは、自分の経験を通して、喚起される感情である、というんことを認識していなければならぬ。また、治療者は、指導者の傍観者の態度をとることを避け、できるだけ遊びの中にとけ込み、子どもに異分子感を生じないようにすることも必要である。

つねに子どもの遊びの展開に注意し、子どもの要求に合った役割を演じるのが治療的効果を大にする要因となる。

音楽遊びの治療的、教育的効果、音楽遊びは、原始的、幼児的な運動、衝動を刺激し、本能的な緊張を除去し、無形的情緒の高まりを表出し、深層アンタジーを喚起して、抑圧されている衝動の解放を可能にするそれによって、子どもは攻撃的、破壊的衝動を昇華する。一方、音楽遊びを集団に適用するならば、子どもは他の成員との協力的行動を学習し、社会的な成長が推進される。

ミュージックセラピーをもちての、曲目と反応

◎治療対象児、10名。

- 曲目、どんぐりころころ。
- 反応、歌唱は可能、口ずさむ。
- 曲目、お正月、遠足、遊園地、(効果音楽)
- 反応、羽根つき、たこあけの身体表現をする。反応は良好で、歩行のまねをする。(実際の遠足に役にたった)。楽しかったというの反応をしめす。
- 曲目、阿波踊り。

- 反応、身体の方っている児童でも容易に楽しく踊り出す。
- 曲目、行進曲、マーチ、軍隊行進曲、旧友。
- 反応、模擬合奏をする。身体表現をする。
- 曲目、ザ、ツイスト、ルイジアナ、ママ。
- 反応、よろこんで、ツイストを踊る。
- 曲目、南国の夜、ブルーハワイ、アロハ、オエ。
- 反応、自然に導入されていく。

その他、教曲試みたが、総体的にみて、童謡や、ツイスト、などは、ほとんどの曲に興味を示し、好んで身体表現をし、その喜びを味わい、いろいろなまねをする。

## ◎音楽の分類と分析

- 刺激的、こうぶん、鎮静、静止の対応関係
- 曲型分析、全体と部分
- リズムの分類、
- 楽節の長短、
- 演奏形式の分類
- (歌曲の分類、
- 身体表現の曲の分類、
- その他、

◎個人に応じた効果のある音楽が存することは確かのようなのである。それをセラピストは見きわめ、治療にあたって、ダイナミックにレパートリーを広め用意しなければならぬ。音楽療法は専門のサイコセラピストが、しかも音楽に対する、造詣を有する人が、たずさわることが理想であると思われる。

しかし、この際には、セラピストは、一種の「ディレクティブ」なものとも考えられるが、セラピストの基本的態度は来談者中心であるべきで、音楽はクライアントの共感を動機として選ばれる。

実感としては、その関係から、必要し必然的に生まれるものと理解せられるものであると思う。

## 家事調停における離婚問題の心理的分析(第一部)

○関 力  
(神奈川県立栄養短大)

伊藤 安二  
(早稲田大学)

中原 尚一  
(東京家裁科学調査室)

## 一. 目的

家庭裁判所が戦後(昭和24年1月1日)発足してから今日まで、家庭裁判所家事部において扱われた離婚調停事件の諸ケースの問題点を統計的に把握し、離婚に対する妻の考え方の変遷、離婚の動機並びに原因、妻の社会的地位の変革、慰謝料及び財産分与の問題、子の親権、及び扶養の問題、等の諸問題について、心理学的分析を試みるものである。

本報告は、その第一部として

1. 婚姻生活の破綻を通じて、戦後から今日までの妻の離婚並びに婚姻に対する意識並びに態度の変化。
  2. 妻の社会的地位の変革
  3. 1と2の原因
- に主な研究の焦点を定めるものである。

## 二. 研究対象

離婚と一口にいうが、その形態は四種類に分類されその申立には、法律制度上、四つの段階がある。

まず第一は協議離婚

次は調停離婚

次三は、審判離婚

最後は裁判離婚である。

離婚を意図する夫又は妻は、まず離婚に対する両当事者間の話し合い、すなわち協議を行い、協議不成立の場合に、家庭裁判所に離婚の申立を行い、調停が不調に終わった場合にのみ、はじめて裁判所に離婚の訴を提起できるのである。調停という段階をへずして、いきなり裁判所に離婚の訴を提起することは許されない。

離婚調停制度は、裁判官と2名以上の調停委員から構成される合議機関である。

今回の報告は、家庭裁判所の調停に申込まれた離婚事件を研究の対象とするものである。

その理由は二つある。まず資料という面から考えて協議離婚は全くその状況は不明であり、裁判離婚はまとまった資料の入手が殆ど困難である。従って、まとまった資料がそろえられるのは、調停離婚のみである。

更に第二の理由として、報告者は、横浜市の調停委員であり、共同研究者の中原尚一は、東京家裁家事部の科学調査室長である。両名とも、離婚調停事件の実務に必ず関わっている者であるが、家事調停における

離婚問題の全体的諸傾向に対する心理学的把握が何もないことと痛感しており、今回の報告は、法律制度上、また社会的地位に関しても、戦後変革のことも着しかつた妻に調査・研究のポイントを合わせ、本研究を、調停の研究・実務に役立たせたい考えが研究の根柢にあるからである。

## 三. 研究方法

家庭裁判所発足以後の各年度の司法統計家事編より、下記諸事項に関する統計を分析する。

1. 調停申立件数
  - (1)男女別
  - (2)請求の趣旨別
  - (3)年令別
2. 離婚の動機のべ数
3. 結局別
  - (1)婚姻期間別
  - (2)学歴別
  - (3)職業別
  - (4)子の数別
  - (5)親権者監護別
  - (6)慰謝料
  - (7)財産分与
  - (8)養育費

なお、司法統計のほかに人口動態統計、国勢調査、その他の統計資料を参照の予定。

(連絡先)神奈川県立栄養短大. 電 045-331-0989



# Gravesのデザイン判断テストの試行(Ⅱ)

横瀬善正 前田恒 内山道明 鈴木正弥 辻敬一郎 後藤俣男 伊藤法瑞  
(名古屋大学)

目的:本研究は、デザインに対するセンスの良さの程度を識別するテストの作成を目的としており、これまでに M.Graves 作成のデザイン判断テストを使って集団検査を行い、その適用可能性を検討してきた。その結果、中学生から大学生にかけて、学年の進行と共に得点も上昇しており、また、大学生の内の一般学生群と美術系学生群では、美術系学生のオが得点が優位に高くなっていた。しかし、上記の調査対象には、グループ間の人数に大きな違いがあり、また、地域的にも限られていたため、今回は、それらの点について検討を行うために、以下の3点について調べてみた。

- 1. 美術系学生についての資料が不足しているため、この方面の調査を重点的に進めること。
- 2. 地域差・経験差等について調べてみること。
- 3. 得られた結果の傾向から特徴的な刺激図版を選出し、それらの図柄を調べてみる。

方法:刺激図版をスライドで投影して行う集団検査の仕オについては、前回の報告と同じ。今回の調査対象は、一般学生86名(徳大;男子38名,女子48名)及び美術系学生351名(愛知教育大,女子美大,女子美短大,東京家政大;男子16名,女子335名)であった。

結果:目的のために述べた3点について、前回の結果を加味して検討してみる。

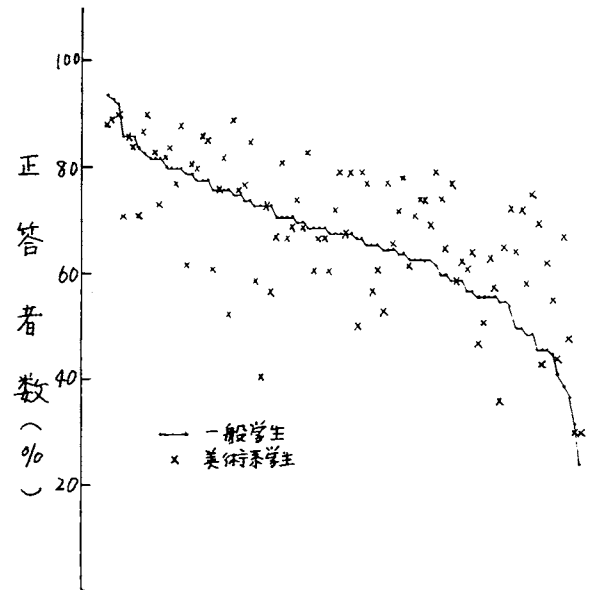
1. 美術系単科大学の学生を中心に資料を集めたがその平均得点は65.1であり、一般学生の60.5とは非常に優位の差が認められた。各得点区間の人数の分布も、美術系学生のオが高い得点のオに片寄っている。また、一般学生では、男子学生(59.7)に比べて女子学生(64.0)のオが得点が高くなる傾向にあるが、美術系学生のオでは、得点の差異はほとんどなくなっている(男子66.5,女子64.9)。以上から、男子学生では、一般学生と美術系学生の得点差が大きくなるということが知られる。

2. まず、地域差として、名古屋と徳島の一般学生について比較してみた。後者の調査対象が前者の10分の1程なので十分な比較とはならないが、前者の平均得点が60.5であるのに対して、後者のそれは62.8になっている。これは、明確に有意な差異ははじけぬが、内容的には、徳大の文科系学生の得点が高かったことによるかと考えられる。しかしこれにせよ、名古屋と徳島

だけでは地域差の確かな比較にはならないので、今後とも他の地域を加えて検討してゆくとともに、

ところで、専攻経験差というか、同じ美術系でも、デザイン科と絵画科ではカリキュラム等に大きな違いがあるが、事実、美術系大学の内部で各科目別平均得点を比較してみると、やはりデザイン科が最も得点が高く、次いで工芸科、洋画科、彫塑科という順になっており、それら得点の中央値も、69点から68.5点にまで及んでいる。この様な美術系学生の中での差異にも注目することが必要と思われる。

3. 図1は、横軸に一般学生の成績の高い刺激図版の順に並べ、縦軸に正答者数の百分率をとって示したものである。これによると、総じて美術系学生の×印が一般学生の折線グラフの上に乗っているが、中には下に乘っているものもあり、これは、その図版に関しては、美術系学生のオが一般学生よりも成績の低いことを示している。ここで、デザイン判断テストを構成している90枚の刺激図版の中から、一般学生と美術系学生で成績が大きく違うものを選び出し、それらの刺激図版が持つ構造上の特質について検討を加えてゆくといい考えている。



刺激図版の順位(90枚)

# 色彩の誘目性に関する実験的研究(5)

神作 博  
(中京大学文学部)

本研究では、すでに、色光5色の誘目性<sup>1),2)</sup>、模擬自然背景における物体色8色の誘目性<sup>3)</sup>、および、網膜上における刺激提示位置の影響<sup>4)</sup>などについて検討がすすめられてきた。今回は、物体色の誘目性の基本的尺度作成のため、誘目性の低い群および中程度の群から基本尺度の候補色を選定する実験を行った。

**実験装置:**暗室内、被験者から70cmの位置に衝立がおかれ、そこに刺激提示板がはめ込まれる。刺激提示板は全面に日本色彩社製の無彩色色紙(黒、中灰、白の3色)がはられ、そのうえに直径視角2°の色標(直径2.6cm)が環状(半径視角15°)に等間隔に配置されている。照明は被験者側から左右2個の光源による(刺激面照度300lx)。被験者は被験者ボックスに入り、シャッター付きの観察窓(直径11cm)越しに刺激を観察する。両眼視で、顔面は固定。被験者ボックス内の観察窓内面の照度は200lx(白熱電球)で、刺激の観察以外の時、被験者はこの光に順応する。

**実験手続:**実験に先立ち、被験者ボックス内にて、各人に刺激の色名を覚させた後、実験に入る。被験者席には色標サンプル付きの色名一覧表が備えられているので、実験中適時参照は可能である。

実験はA(低誘目性群)、B(中誘目性群)の2種で、各被験者とも第1日と第2日とは逆な順序で施行した。各実験内における背景3色の順序は全被験者によりわりカウンターバランスされている。実験者の合図のあとシャッターが開かれ、被験者は「注意の引かれた(または印象に残った)順」に色名を報告する。

**〔実験A〕:**低誘目性群における各色の誘目性尺度値を求める。

**刺激条件:**刺激用色標は、5R<sup>1/4</sup>、5R<sup>1/4</sup>、5Y<sup>1/4</sup>、5Y<sup>1/4</sup>、2.5G<sup>1/4</sup>、2.5G<sup>1/4</sup>、2.5PB<sup>1/4</sup>、2.5PB<sup>1/4</sup>、5P<sup>1/4</sup>、5P<sup>1/4</sup>、N8、N4(以上各背景共通)、N9.5(背景黒、中灰の場合)、N5(背景黒、白)、N1(背景中灰、白)であり、各背景において提示される色標の総数は14個。

**結果:**各背景ごとに被験者により報告された各色の順位の度数に基づき、正規化順位法(C尺度へ変換)を用いて各色の誘目性尺度値を求めた。結果は表1に示すとおりである。

この結果から、次のような規準を設けて、基本尺度

表1 実験 A

色標	黒	中灰	白
R <sup>1/4</sup>	6.8	7.3	6.1
R <sup>1/4</sup>	3.8	4.0	6.0
Y <sup>1/4</sup>	7.0	6.8	4.5
Y <sup>1/4</sup>	3.6	3.1	5.0
G <sup>1/4</sup>	6.0	6.3	5.2
G <sup>1/4</sup>	4.8	4.3	6.2
PB <sup>1/4</sup>	6.4	5.8	5.0
PB <sup>1/4</sup>	3.7	4.0	5.9
P <sup>1/4</sup>	6.2	6.3	4.7
P <sup>1/4</sup>	3.5	3.5	4.8
N8	6.0	5.7	2.5
N4	1.6	2.0	4.5
N9.5	7.5	7.6	—
N5	3.1	—	3.3
N1	—	3.5	6.4

表2 実験 B

色標	黒	中灰	白
R <sup>1/8</sup>	6.5	6.9	6.8
R <sup>1/8</sup>	6.4	6.3	7.3
Y <sup>1/8</sup>	7.8	7.9	6.2
Y <sup>1/8</sup>	5.2	4.2	4.5
G <sup>1/8</sup>	4.8	4.4	5.0
G <sup>1/8</sup>	4.3	4.5	6.1
PB <sup>1/8</sup>	5.8	5.8	5.3
PB <sup>1/8</sup>	3.6	4.2	5.9
P <sup>1/8</sup>	4.8	5.3	4.7
P <sup>1/8</sup>	3.8	3.3	4.4
N8	5.8	5.5	2.4
N4	1.2	1.3	3.3
N9.5	7.2	7.1	—
N5	2.8	—	2.8
N1	—	3.2	5.7

の候補色を選定した。(i)低誘目性群の中で誘目性尺度値がそれぞれ上位のもの、中位のもの、下位のもの、(ii)なるべく黒、中灰、白の3背景すべてに用いられている色であること、(iii)各背景とも最低の尺度値のもの。

その結果、5Y<sup>1/4</sup>、5R<sup>1/4</sup>、N4(以上各背景共通)、2.5G<sup>1/4</sup>(背景黒、中灰)、N8およびN1(背景白)が選定された。

**〔実験B〕**中程度の誘目性群における各色の誘目性尺度値を求める。

**刺激条件:**色標は、5R<sup>1/8</sup>、5R<sup>1/8</sup>、5Y<sup>1/8</sup>、5Y<sup>1/8</sup>、2.5G<sup>1/8</sup>、2.5G<sup>1/8</sup>、2.5PB<sup>1/8</sup>、2.5PB<sup>1/8</sup>、5P<sup>1/8</sup>、5P<sup>1/8</sup>、N8、N4(以上各背景共通)、N9.5(背景黒、中灰の場合)、N5(背景黒、白)、N1(背景中灰、白)。各背景において提示される色標の総数は14個。

**結果:**被験者よりの回答の仕方、結果処理の方法は実験Aと同じ。結果は表2のとおりである。これにより基本尺度の候補色として、5R<sup>1/8</sup>、5R<sup>1/8</sup>、2.5G<sup>1/8</sup>、2.5PB<sup>1/8</sup>、5P<sup>1/8</sup>(以上各背景共通)、N9.5(背景黒、中灰)を選定した。(本実験は、板倉 隆の協力により実施された。) 文献:1)日心30回大会発表論文集、2)同31回論文集、3)同32回論文集、4)同33回論文集(連絡先)名古屋市昭和区八事本町101-2 中京大学内

# 色彩の誘目性に関する研究(1)

○ 近江源太郎 矢部和子  
(日本色彩研究所)

目的:色彩の誘目性は、同一視野内に存在する複数の色彩に対する選択的認知であると言える。その選択を規定する要因として、神作は①知覚的要因、②感情・情緒的要因、③新奇性、の3点を指摘している。誘目性は、刺激構成と影響因子との複雑な交互作用の上になつて存在する特性であつて、いずれかの要素を捨棄した状況で検討されるべき性質のものではないと考えられる。今回の研究では、①多色場面における認知のされ方の検討、②感情・情緒的要因の効果の検討、の2点を行ふことによつて、色彩の誘目性に関する予備的知見を得ることを目的とした。

方法:実験は実験Iおよび実験IIより構成される。

実験I (1) 刺激 直径33mmの以下の5色を、27×40cmの白台紙上にランダムに貼付したチャート(予備実験によつて位置の効果を除去)。5R45/14 5Y85/14, 5G5/10, 5PB5/10, 5P3/12。

(2) 刺激の種類 上記5色を各4個宛貼付したチャート1葉、各1色を6個他の4色を4個宛貼付したチャート各色1葉、各1色を8個他の4色を4個宛貼付したチャート各色1葉、計11チャート。

(3) 手続き 上記11チャートをランダムに3秒間提示し、「最も多い」と感じられた色彩を指摘させた。回答刺激チャート除去の後、5色を番号とともに提示して、その番号によつて記入させた。

(4) 条件 北窓昼光

(5) 被験者 男女学生52名

(6) 同時に各色の感情的効果をSD法によつて測定

実験II 実験Iの刺激中、5P3/12をN5.5に変更して同一条件によつて行なつた。

処理:(1) 各条件下で「多い」と回答した頻数および比率を求めた。

(2) 感情効果の評定との相関関係を求めた。

結果と考察:(1) 数量の判断が正確であること、および数量を過大評価することを誘目性が高いと考えれば、誘目性には次のごとき傾向が見られる。

(2) 各色同数の場合に「多い」と判断される率は  $B \cdot G > R \cdot Y > P$  となり、背景との明度差とは一致しない。したがつてこの判断は、視認性・面積効果のみでは規定されないと考えられる。

(3) 各色同数の場合に「多い」と判断した色彩についてみると、「好き」と答えた色彩を「多い」と答える傾向が有意に見られ、集団の平均値からも嗜好との相関が  $r_s = .80$  となり、誘目性と嗜好との相関が見られる。

(4) 各色が2個になつた場合の正答率は  $Y > G > R > B > P$  の順になり、Yは100%の正答率を得るがPは73%の正答率に過ぎない。この傾向は上記の知覚的特性のみからは説明できず、 $\langle$ 強-弱 $\rangle$   $\langle$ 興奮-沈静 $\rangle$  など感情効果の活動性因子と完全な相関を示している。

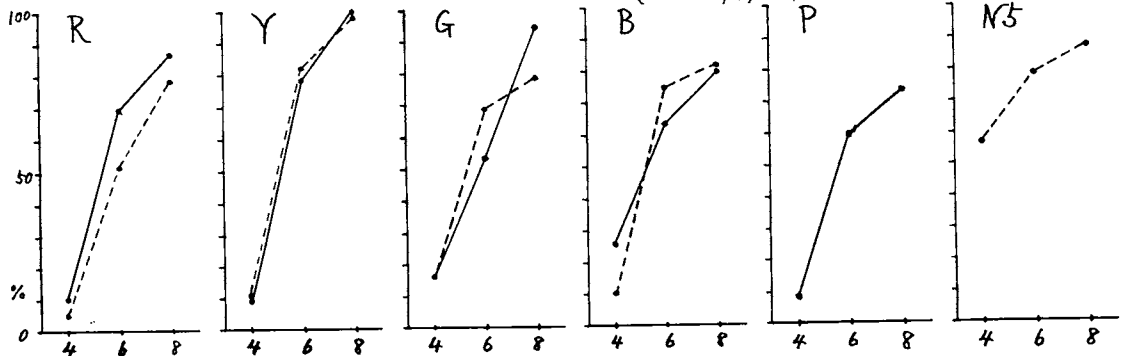
(5) 実験IIにおいては各色同数の場合N5.5と「多い」と評定する率が著しく高い。この5色中ではN5.5の心理的距離が他の4色から最も遠いこと、および有彩色中の唯一の無彩色という感情的ないし新奇性の効果であると考へられる。

(6) 以上のごとく、直観的に数量の認知を行なうという条件のもとでは、視知覚上の諸特性のみからは説明し得ない現象が見られ、感情・情緒的要因の効果が強くあらわれる。

東京都港区赤坂2-22-19 (財) 日本色彩研究所

(— 実験I, --- 実験II)

図-1 色彩別正答数



# 小集団活動の研究

## — 交差教育法に関する一考察 —

岩村 佳代子  
(お茶の水女子大学 児童臨床研究室)

この研究は、お茶の水女子大学児童臨床研究室でおこなわれている母子小集団活動に関する継続研究の一部である。1968年度の実践・研究活動の成果をもとに、「交差教育法」に関する考察をすすめる。

「交差教育法」は、関係弁証法を基礎理論とする教育方法である。二つあるいはそれ以上の領域を交差させて、「交差関係が発展する方向において、交差する領域相互が対等に関係し合い、領域相互の差異が関係の発展をもたらすように用いられる。」領域とは、交差活動の発展をもたらす単位である。

この研究では、領域を、個人、集団、下位集団の3つでとらえ、集団と個人との関係、内集団(下位集団)関係、集団間関係での交差教育法について、その典型を明らかにする。また、典型をとらえる観点を、母子小集団の指導のねらい、交差教育法の展開される集団状況、そこで関係操作、交差領域の成立、交差領域の発展、その効果、などにおいて、下記に、集団指導一期(週1回1時間、12回)において展開した交差教育法を記述する。

母子小集団の発展段階		交差教育法の展開			集団の発展その効果
指導のねらい	集団状況	関係操作	交差領域の成立	交差領域の展開	関係領域の発展
集団 個との 関係	個が集団内において安定している状況。 物との関係が安定している状況。 例、ままごとあそびをみんながしている時、一人で砂あそびをしている	集団の領域を拡大して、個の領域と交差させる。 有線電話を両領域間に置く。	物を媒介にして、関係通路が成立し、関係通路の共有化により共通基盤の成立。	関係通路媒介に、情報交換し、集団状況をとらえる。 電話をかける、砂を買いにいったり、売りにいったりの関係が成立	集団状況に気づき、集団からの働きかけを自己にとり入れてふるまう体験が伸びている。
内 集団 関係	集団に1つの方向が与えられる。その方向を促進する層と反射する層がでてきた状況。 例、散歩に行こうという動き出そうとする層と、自動車ごっこをやる層。	所有している物を媒介にして、2つの領域の交差をさせる。 例、自動車ごっこをやる層と、散歩に行こうという層。	持続的に一貫した役割のとれる領域と豊富な種類の役割をとれる領域を交差させ、同じ方向への役割を果たすことの共通基盤が成立	物を媒介にして、新しい活動が展開される。 例、藤輪の自動車を走らせたり、広い公園を走りまわるといった活動。	2つの領域が出会って、持続性の中にひろがり、豊富さの中に一貫性が育つ。
集 団 間 関 係	2つの集団がともに外に活動している。自集団の活動を展開している。 例、子らは、畑に種をまき、水をまいている。母は、話しあいをしている。	集団の活動状況を他集団に伝達して交差のきっかけをつくる。 例、子「私たちは畑に種をまいたの。」「見に来て」母は入れをうけて相摸する	集団の外的発展の方向性に関して主導的な役割をとれる領域と、外的発展の方向性に関与して内容充実的な役割をとれる領域を交差。母「畑の種をまいたの。」「見に来て」母は入れをうけて相摸する	集団間関係が目的ながら、物投入による共通活動。例、「私たち赤かぶをまいたの水をあげたの」母の持つ根の材料で、みんなが根をつくる。	他集団と出会うことにより、自集団の役割が明確になる。

参考文献：「交差教育法」松村康平(日本保育学会会報) 「状況における個の発展」長松一江(43年度卒論)  
共同研究者：児童集団研究会 連絡先：お茶の水女子大学 児童臨床研究室

# 特殊児童の教育評価に関する一研究(その九)

岸本英男

(東京都目黒区立向原小学校)

目的; ここに言う特殊児童とは、精神薄弱の医学的分類(American Association on Mental Illnessによる)の中の(8)主として心理的・社会的・経済的起因による精神遅滞児(一般に学業不振児乃至境界線児と呼ばれる)の範疇に属すると考えられる児童をさす。

彼らは、現在、その大多数は、小学校の普通学級で教育的相談的配慮の下に指導されるよう行政措置されているが、小学校学習指導要領「第一章総則の一教育過程一般」(昭和46年度実施)の中でも依然として「特別な配慮のもとに指導を行なうこと」と明記されているだけで、学校教育法における特殊教育の対象からは除外されている。

精神薄弱児は、養護学校教育の対象となっているので、養護学校学習指導要領(精薄編)により、その教育権は保証されているが、所謂特殊児童は、普通学級で、普通児と同一条件下の教育的処遇を強制されているわけである。

しかしながら、心身の発達に伴う能力の測定値に於て、一標準偏差値以上の用きがある場合、一斉学習は不可能であることが既に教育界の常識になっているにも拘わらず、この間にランクされる児童は、学業不振児というレッテルを貼られるだけで、「特別な配慮のもとに云々」という極めて曖昧な表現で処理されていることは、彼らの教育の将来を、極めて暗いものにして置いている。つまり、昭和46年度以降の小学校教育においては、1275～90の児童の教育権は、何ら法的に保証されていない。つまり彼らは、入学から卒業まで、常に五段階評価の最低位を余儀なくされ、それに伴う halo effect により、常に scape-goats 等の集団的かかわりは、極めて複雑多岐にわたっていくが、三年生という発達の或る時点における相互交渉(interaction)の特徴は、常にその所属集団との関係弁証法的関係に集約される(把握と排除)そして究極的には、自我の確立、自己概念の透察可能(形成的自覚)にまで到達している。この裏から上記の(1)(2)の法則の普遍妥当性は高次に検証されたことになる。

この不合理を是正するためには、特殊児童の教育指導を、専門的に計画実施する特殊学級が、すべての小学校に設置されるよう行政的に制度化されることが必要ではなからうか。

本研究は、この前提にたつて、継続的に行なわれているものであり、既に若干の法則が明らかにされたわけであるが、今回は、それを具体的事実にして実証しながら、時代の進展に伴って生じた関連諸問題をも考察し、より一層の普遍妥当性の獲得をさすことを目的とする。

方法; 既に今日までに明らかにされた法則は、次のようである。

(1) 特殊児童の評価は人格全体の発達を、その対象とし、学業成績は絶対評価法を用い、特に、潜在能力を補償的機能として評価項目を細分化段階化し重みづけを行なうことにより、相対評価に耐え得るように classify する。

(2) その際、彼らの achievement は、常に集団構造を介入変数とすることにより、絶対評価によるドグマを排除し、評価法自体の普遍妥当性を、問い続けていく。

以上の法則が、教育の実現場面で、どのように適用され、運用され、その普遍妥当性が、実証されたかについては、別添の事例研究資料が26集に明らかである。方法としては、anecdote method を用いる仮設演繹法をとった。

結果; 別添資料によって明らかのように、sample A が、特殊学級の成員として全員に承認され、又自らも、その中で名譽ある一員として安定感を得、教育評価の前提としての測定の対象者たり得るまでには、極めて複雑な interaction と、ほぼ一年という長い期間を必要としている。

その間、級友、担任、父母、学校成員、地域社会人等との集団的かかわりは、極めて複雑多岐にわたっていくが、三年生という発達の或る時点における相互交渉(interaction)の特徴は、常にその所属集団との関係弁証法的関係に集約される(把握と排除)そして究極的には、自我の確立、自己概念の透察可能(形成的自覚)にまで到達している。この裏から上記の(1)(2)の法則の普遍妥当性は高次に検証されたことになる。

考察; 教育評価の主変数としての集団構造の発達の過程を明らかにすることによって、counseling の効率性を高めることができるのではないかと思う。

(連絡先) 東京都品川区西五反田 4-9-12 ⑤ 141

# 青少年の教師観

島谷 隆正  
(熊本大学 心理学科)

目的：従来の教師観に関する研究は各側面からの数多いものがあるが、それらは主として、理想的教師像如何ということにねらいがあった。筆者は現在の青少年たちが、今まで直接間接教わってきた多くの先生方に対し、いかような見方感じ方を抱いているかを明らかにし、それを通して肉体的に彼らが内蔵している望ましい教師像を探ろうとした。

方法：質問紙法により、次の4項目に対する各人の率直な気持を回答してもらった。

今よびあなたが教わってきた多くの先生方を思い出して次の向に答えてください。

1. 男先生女先生別により先生が多かったか、さらいな先生が多かったか、そう思うわけ。
2. 男先生の方がよいか、女先生の方がよいか、そう思うわけ。
3. 先生をどのような方と思うか、権威者権力者勤労者労働者聖取者その他の6つの中からこれと思うものを選ぶ。

4. 明治大正時代の子どものための教師観(神格化された教師像)を叙述した短文に対する感想。

被調査者と調査期：

	男子	女子	計	調査期
小3~小6	120	97	217名	昭和44年5月中旬
中1~中3	166	158	324名	旬ニリ、7月上旬
高1~高3	88	61	149名	にかけて、担任教師を通して実施した。
大学(女)4		25	25名	
計	374	341	715名	

結果とその考察：

## (I) 男先生について(%)

	男子			女子			計		
	男先生の方がよい a	女先生の方がよい b	同じ c	a	b	c	a	b	c
小	66	3	31	45	5	50	56	4	40
中	91	6	23	54	14	32	63	10	27
高	63	10	27	53	8	39	58	9	33
大				52	8	40	(52	8	40)

## 女先生について(%)

	男子	女子	計
小	70	1	27
中	47	17	36
高	26	28	46
大			
計	39	13	48
	20	24	56

男先生については、小中高大を通じてその過半数が「よい先生が多かった」としているが、女先生では、逆さ

につれて著るしくその率が低下していき、驚きの外はなかった。その理由の主なるものをあげてみる。

小学校 ①やさしかった ②面白い先生だった ③分り易く教えた ④けじめがあった ⑤スポーツ、運動が上手だった

中学校 ①よい相談相手になってくれた ②生徒の気持ちをよく分ってくれた ③分り易く教えた ④けじめがあった ⑤やさしかった

高校 ①生徒に理解があった ②親しみ易かった ③気軽に話合いができた ④やさしかった ⑤熱心に教えた

大学 ①よい理解者だった ①よき相談相手だった ③熱心に教えた ④親しみ易かった ④公平だった

(II)	男子			女子 (%)		
	男先生の方がよい a	女先生の方がよい b	同じ c	a	b	c
小5	24	38	38	26	52	22
小6	92	4	4	40	20	40
中高	69	9	22	64	9	27
大	73	2	25	41	11	48
				80	4	16

小6でははっきりと「男先生の方がよい」とする傾向がでてくる。その主なる理由は次の通りである。

小学 ①面白い ②人スポーツ運動がすぎ ③教え方上手 ④きびしさがある ⑤キビキビ、テキパキやる

中学 ①あきりしている ②公平 ③けじめがある ④理解がある ⑤話し易い

高校 ①さっぱりしている ②よい話し相手 ③けじめがある ④公平 ⑤理解がある

大学 ①理解がある ②気軽に話せる ③教育に熱心 ④公平、親しみ易く信頼できる

(III)	権威者	権力者	勤労者	労働者	聖取者	その他(%)
小5	18	0	7	2	86	5
小6	60	13	20	0	33	4
中	2	12	52	12	7	15
高	6	7	48	24	12	8
大	10	0	59	24	7	0

(I)(II)の結果は本項の結果にも如実に現われていると言えよう。小5までは「聖取者観」が圧倒的であるが、小6になると、「権威者観」が急台頭し、中学1年で「勤労者観」がトップとなり、「漸次労働者観」が増大する。この変遷過程は4項の感想文にも明瞭に出ており、既に卒して激しい現代教師改革論を現われる。

(連絡先) 熊本県電田所上立田 27

# 教科学習の経験的背景—地域差—

松原 達哉  
(東京教育大学教育学部)

目的;児童の学習は、それに先だつ学習によって得た経験ないし知識とその素地として、そこに新しい経験ないし知識を加えて、再組織の過程をとることによって成立する。従つて、児童の学習を考ふる場合、この経験的背景も十分に考ふる必要がある。

そこで、本研究では、小学校の社会科と理科の学習上経験が必要と思われる事物、事象、場面などをとりあげ、児童がそれらをどの程度経験しているかを地域別に調査研究することを目的とした。

方法;小学1~3年で学習する社会科と理科の内容から、①学習上重要なもの ②一般性のあるもの、③スライドの絵になるもの ④なるべく各領域(社会科は政治・生活、交通・通信、商工業、農林・水産業、歴史、地理、理科は植物、動物、物理・化学)にわたるようにすることを考慮して、各4項目を選択した。これと一項目ずつスライドで児童に見せて、絵の理解経験の程度などを調査した。

被験者は、東京、千葉、長野の公立小学校1年生50名である。実験期間は、昭和43年5~6月である。選択項目は、第1~2表に示すようである。

第1表 社会科の項目内容と数

領域	項目数	項目内容
政治、生活	8	①郵便局 ②公園 ③交番 ④火の見やぐら ⑤スキーなど
交通通信	12	①バス ⑩飛行機 ⑪ポストなど
商工業	5	②文房具屋 ③魚屋 ④工場など
農林水産	5	④牛乳しぼり ⑤植林 ⑥鯨とりなど
歴史	6	⑦七夕祭 ⑧神社 ⑨秋まつりなど
地理	4	⑦山 ⑩港の景色 ⑪海水浴など

第2表 理科の項目内容と数

領域	項目数	項目内容
植物	13	①朝顔 ②ひまわり ③梅 ④へちまなど
動物	10	⑩兎 ⑮かたつむり ⑯つばめなど
物理・化学	17	⑰太陽 ⑱かご車 ⑲温度計 ⑳磁石など

## 結果;①社会科の領域別の理解と経験

社会科の領域別の内容もどの程度理解しているか、さらにどの程度経験しているかも、東京、千葉、長野の3地域にわけて調べた。この場合の経験の程度は、直接体験、実物観察、間接経験(本、TV、教科書などによる)、言語経験にわけて分類した。その結果は

第3表のようである。なお主な結果は次のようである。

第3表 社会科の理解と経験の地域差(%)

理解経験	地域	政治	生活	商工業	農林	歴史	地理	計
理解	東京	80.2	81.6	53.3	50.8	72.2	64.6	70.83
	千葉	77.7	78.6	44.3	57.1	78.6	85.7	72.15
	長野	64.6	87.5	33.3	57.7	61.1	56.3	64.59
直接体験	東京	77.4	91.0	95.8	/	93.8	83.2	86.76
	千葉	65.5	78.6	85.7	/	89.3	82.2	76.05
	長野	57.0	79.2	50.0	/	79.2	70.6	68.60
実物観察	東京	81.5	90.6	61.7	51.0	82.7	64.6	76.97
	千葉	67.3	86.3	62.9	53.6	92.9	75.0	76.13
	長野	63.1	68.5	41.7	33.3	77.8	50.0	59.78
間接的経験	東京	78.6	91.0	70.9	65.0	79.2	86.5	80.56
	千葉	77.6	91.1	85.7	70.0	85.7	92.9	84.62
	長野	65.5	79.9	61.7	60.0	77.8	64.6	70.52
言語経験	東京	/	/	/	/	60.8	37.5	56.95
	千葉	/	/	/	/	57.1	35.7	53.57
	長野	/	/	/	/	31.7	25.0	30.55

①社会科の領域によって、理解の程度には地域差がある。全体としては、長野が優る。

②直接体験の経験の程度は、各領域、全体ともに東京、千葉、長野の順に低くなっている。

③実物観察は政治・生活、交通・通信などは東京が優れ、歴史、地理は千葉が優れている。

④間接的経験は、千葉、東京が優れ、長野が劣る。

⑤言語経験は、東京、千葉が優れ、長野が劣る。

## (2)理科の領域別の理解と経験

理科についての理解と経験の程度は第4表の通り。

第4表 理科の理解と経験の地域差

	理解			直接体験			実物観察			間接経験			言語経験		
	東京	千葉	長野	東京	千葉	長野	東京	千葉	長野	東京	千葉	長野	東京	千葉	長野
植物	38.1	39.5	25.7	37.1	48.9	27.5	73.0	77.1	64.1	68.3	67.0	48.7	27.1	35.7	19.4
動物	77.9	79.3	69.2	67.2	73.3	65.5	92.2	88.7	81.7	88.3	85.7	74.2	62.9	67.3	49.2
物・化	67.4	59.2	61.3	68.0	70.5	58.4	77.4	77.8	77.9	77.0	73.1	53.3	45.8	50.0	50.0
計	60.50	57.82	51.71	57.4	63.3	48.6	72.9	72.8	74.4	77.0	74.3	57.2	54.5	60.7	42.9

①植物の理解、直接体験、実物観察、間接経験、言語経験ともに、東京、千葉に比較して長野が劣る。②動物についても同様の傾向がみられる。③物理・化学については、直接体験、間接経験が、長野が劣る。(連絡先)東京都世田谷区赤堤5-10-16

# 聴覚障害児知能測定の予備的研究

(ヒスキー・ネブラスカテストの検討)

小川 再 治  
(工学院大学)

目的：アメリカで聴覚障害児用知能検査として定評あり、知的学力をかなり正確に予測するといわれているヒスキー・ネブラスカテスト(Hiskey-Nebaska Test of Learning Aptitude)を日本の聴覚障害児に適用し、他のテストとの相関と、知的学力との関係を見ようとした。まだ研究を始めたばかりで、人数も不十分であるが、予備報告とする。

方法：44年1月～6月、東京都立大塚聾学校の10～12才児12名に行なった。全員先天性、下位検査の中に、若干日本向きでないものがあった。これは多少結果に影響した可能性がある。

結果：Vpの一覧と教師の知的学力評定、以前学校で行なった田中B検査のIQ、今回のヒスキー・ネブラスカテストのIQを表1に示す。

表1

氏名	性別	年齢	学校	田中B	ヒスキー
SK	男	中	上	130	117
OS	男	高	下	82	100
MT	男	全	上	109	94
FY	男	高	中	101	113
SS	女	中	中	102	96
TR	男	全	上	104	105
YS	男	高	下	90	95
KA	男	全	中	98	102
MK	女	全	中	88	78
HY	男	全	中	110	85
KH	男	全	下	92	72
YY	女	高	上	124	124
M				102.5	99.4
SD				11.3	10.8

\* ……「全」全章、「高」高度難題、「中」中度難聴。

\*\* ……知的学課程として算数・国語・理科を履修、担任教師の学力評定に基づき、上・中・下の3段階に分けた。多少主観的要因混入の可能性がある。

次に田中B検査とヒスキー・ネブラスカテストの結果の相関係数を求めた所、 $r = .75$ となった。

次いでヒスキー・ネブラスカの下位検査ごとの成績を表2に示す。なお、下位検査ごとに成績をHAで示すようになってきているが、CA=HAの場合を100とし、IQ算出の方式に準じて値を出した。下位検査1～5はCA 95以下の者対象なので、今回は6～12の7内を行なった。各下位検査は次の如くである。

- テスト6 …… 視覚的記憶スパン
- “ “ “ 7 …… 積木模様検査
- “ “ “ 8 …… 絵画完成
- “ “ “ 9 …… 数字記憶
- “ “ “ 10 …… puzzle blocks. 数個の積木で立方体を作る。

表2

氏名	テスト6	7	8	9	10	11	12
SK	117	174	150	91	174	101	105
OS	138	89	100	150	143	59	100
MT	159	150	94	79	164	27	48
FY	158	73	108	122	162	83	113
SS	154	115	95	91	95	67	81
TR	102	114	88	88	80	119	128
YS	84	97	55	74	63	117	126
KA	101	106	87	73	101	101	92
MK	63	67	90	92	100	77	104
HY	63	53	92	85	85	113	90
KH	153	66	71	112	66	112	66
YY	56	149	92	79	145	149	127
M	110.7	104.1	91.9	91.4	93.8	93.8	105.9
SD	29.3	33.0	12.3	28.2	35.0	45.8	14.6

テスト11 …… 絵画類推、2枚の絵の関係を類推する。  
テスト12 …… 空間的推理。迷わしめの中から、所与の図形と同じものを選ぶ。

考察：現在聾学校で広く用いられている動作検査では、知的学力との相関の低い値が出るのが、最大の問題である。今回のVpに施行済みの田中Bは知的学力との相関は高いが、能力以下の値が出るといわれる。しかしVpの田中BのIQ平均が102.5に達しており、平均知能はやや高いと思われる。ヒスキー・ネブラスカのIQ平均は99.4で、田中Bとの間に有意差はないか更に低い。田中Bと同様能力以下の結果が出た可能性が感じられる。ただし日本向きでない問題を改訂すれば、この点は改良できるかもしれない。下位検査の内では、991011が、特にやや困難思える感がある。

知的学力との相関をみると、田中Bは定評の通り学力とかなり一致している。スペースがはいのて表を省略するか、ヒスキー・ネブラスカの知的学力との一致度は、少し田中Bに劣っている。他の動作検査よりは知的学力との一致度が高いようにみえるが、倒数不足で断定できない。下位検査の内では8がかなり一致しており、逆に910が低い。しかしもとで倒数を示さずし、しかも学力を客観的に数値化して示さなければ、議論を進められない。尤もと共に、従来行われてきたWISC, PBTなどの動作検査も行ない、比較検討する必要がある。

なお、本研究は43年度文部省科学研究費(総合研究)による研究の一部である。



# 現代青年の人間成長阻害に関する研究(才一報)

—生活態度・価値意識に関する世代葛藤の実態—

桜井 芳郎  
(国立精神衛生研究所)

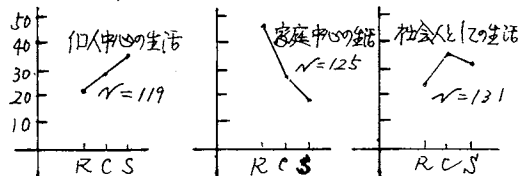
目的:現代社会における世代葛藤の基因となっている現代青年の生活態度・価値意識の実態を把握し、現代青年の人間成長を阻害する諸要因を明らかにすることによって、新しい効果的な教育方法を考えることが必要である。かかる観点に於て本報では青年層の生活態度・価値意識の解明を試み、彼らの基本的な生活態度・価値志向、言語刺激に対する情緒反応、社会的場における指導・管理者層との対人相互認知のずれ、人間関係における社会的心理的距離感について考察した。

方法及び対象: 調査対象は勤務青年として都内にあるキリスト教的変の精神と社会とする経営の安定した中規模の製造業であるR油問の若年従業員、専攻教育及び大学教育をうけている学生としてC県保育専門学校及びD大学社会福祉専攻の学生と選り、18才~20才前後の青年期の者無作為に抽出し、合計42名に調査を実施した。性別は学生の場合には女子が多い。調査方法は選択肢及び自由回答方式かうなる質問紙法を用いて面接調査とあこなった。

結果: 1. 基本的な生活態度・価値志向  
個人中心の生活(24%) 家庭中心の生活(29%) 社会人としての生活(31%) などとあげ、日本の国民としての生活や国際社会に生きる人としての生活は極めて少ない。内容的には勤務青年一括(女子に著しい)は自分たちの幸福を才一に考之、愛といこのマイホーム主義が多いのに対し、福祉専攻大学生は自主的な生活のもとで個人中心の生活が多く、専攻学生では社会の福祉や進歩に役立ち、職業にうちこみ、仲間から信頼される社会人としての生活を考之る者が多く、特に最上級生にその傾向が著しい(47%)。

また5つの基本的な生活態度のそれぞれに対する反応では一般的傾向として家庭と愛といこの場と考之る甘えと夢のマイホーム主義が著しく、家庭と社会とのつながりとも、場と考之たり、明日への活力を養う場やし、けの場と考之る者は少なく、彼らの社会的視野の狭さかうかがわれる。けれども勤務青年が個人中心の生活で自分の幸福を才一にとらえ、社会人としての生活で職業や仕事に打ち込んだり、社会の福祉や進歩に役立つことと考之るよりも仲間との信頼関係と

大切に考之、日本の国民としての生活では愛国心と国民の義務を重んじ考之るが多いのに対し、専攻及び福祉専攻大学生は自主的な生活を才一に考之、職業や仕事に打ち込み、社会の福祉や進歩への寄与とあざし、また参政権を大切に考之るなど両者の生活態度・価値観に相違が認められる。



## 2 言語刺激に対する情緒反応

一般に自由、家庭に積極肯定的反応としめし、義務、規則にはかなり否定的に反応している。天皇には肯定否定、いずれでもなく何とも感じない者が過半数を越えている。しかし奉仕で権力青年、専攻学生が肯定と否定に分極化の傾向をしめし、仕事には専攻学生の48%が積極肯定的反応をしめしているのが特徴的である。

## 3 指導・管理者層との対人相互認知のずれ

一般に共通して制度やしきたりの変革にはさほど積極的ではなく、生活態度もあまり進歩的でなく、自分たちの幸せと才一に考之、生活とエンジイするタイプが多い。したがって指導・管理者層との考之方の相違にはあまり関心がなく、さほど意識していない。

## 4 人間関係における社会的心理的距離感

最も親しい関係にある者はまず親であり、次いで友人が多く、指導・管理者層はほとんど問題にされてない。また相談相手としては親も金銭上の問題以外には相手にされてない。かよう、指導・管理者層や親は青年たちの心の支えにはなり之らない状態にある。

考察: 現代青年の特徴は自由と愛し、干渉と嫌の自分のあかれた社会的場と定めて自分たちの道とゆく傾向が強い。そのあらわれの一つが自分たちの幸せと才一に考之るマイホーム主義であり、社会の福祉や進歩に貢献しようとする態度志向であろう。しかし身体的情緒的に不安定な状態はげしい時期に指導・管理者層や親からの支えになりにくい現状が考之る要する。  
(連絡先) 千葉県市川市国府台1-7-3 国立精神研内

# 女子学生に実施した性格・職業興味検査

1971.2.

永沢幸七(東京家政学院大学)

目的: 女子大学生全員に実施したY.G.性格検査、職業興味検査(T.K式)を分析した。以上の目的を、(1) 管理栄養士コースと教職コース専攻の性格的相違 (2) 過密都市出身者と過疎地方出身者の相違 (3) 不安型(消極的)と安定型(積極的)の分析検討 (4) 職業指導上の留意点。

方法: (1) 材料: Y.G.性格検査、T.K式職業興味検査。(2) 対象: 東京家政学院大学生500名、全短大学生1,200名 (3) 実施日: HB和49年5月~7月。(4) 実施経過: 最初Y.G.性格検査、つづいてT.K式職業興味検査。

結果: (1) 管理栄養士コースと教職コースの学生の性格的相違を比較した。図1の結果を得。

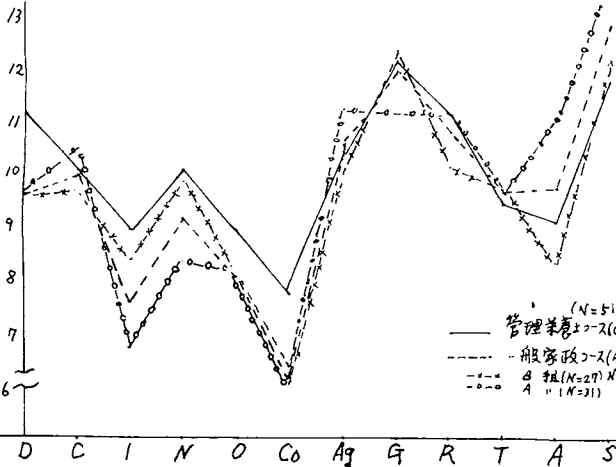


図1. 管理栄養士コースと一般家政コースの比較(別)

これは情緒は安定しているが積極性には若干の差がある。Aは情緒はやや不安定であるが積極性はやや高い。Bは情緒はやや不安定であるが積極性はやや低いということになる。C(管)とA+B(教)を比べると有意差のみみられるのはD、I、N、Co、G、T。管理栄養士コースは情緒安定のみみられるが一般家政コースにおいては積極性のみみられる。

なおD、抑うつ性(陰気) C、回帰性傾向、I、劣等感 N、神経質、O 客観的 Co、協調的、Ag、攻撃的、G、一般的活動性、R、のんき、T、思慕的外向、A、支配性、S、社会的向外。

各判定型の分布を示すと表1の所にみられる。

表1. 判定型の比較 管理栄養士 - 一般家政(学部) 栄養士 - 一般家政(短大)

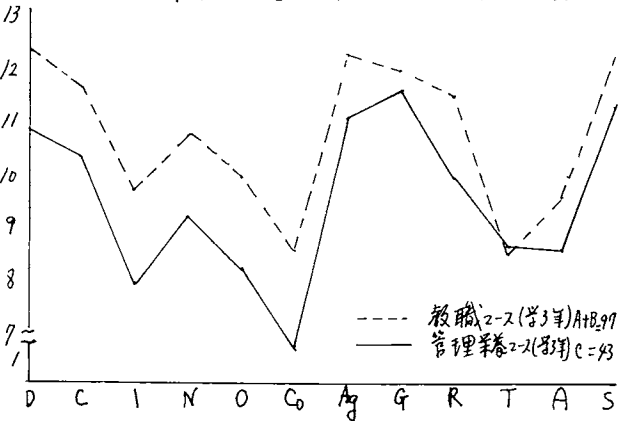
	A	A'	A''	AB	AC	AD	AE	B	B'	C	C'	D	D'	D''	E	E'	計
学部	4	6	5	4	3	3	1	3	3	2	1	4	15	2	3	59	
短大	4	3	9	6	1	3		1	3		1	3	7	10	5	51	
管	2	2	6	1	3	3		7	3	4	2	1	7	1	3	49	
教	3	2	5	1	3	2	2	1	2	2	1	2	5	2	2	35	
管	2	3	10	1	2	1	1	5	5		2	4	4	1	4	45	
D	3	4	3	3	4		2	3	4	2	6	14	1	3	52		
E	3	2	2	9	8	2	3	4	5	2	1	9	5	1	2	58	
F	2	1	3	5		6	3	1	3	2	3	5	14	2	5	55	
G	5	3	4	1	3	1	1	4	4	1	3	3	2	1	33		
H	1	4	6	1	2	4	1	4	4	1	3	6		3	40		
管	7	7	21	3	8	6	3	13	10	6	5	12	16	4	9	123	
教	11	13	19	19	16	17	8	7	19	16	8	24	42	6	14	238	
管	56	56	168	24	64	48	24	104	88	48	40	96	128	22	22		
教	44	52	76	76	64	68	32	28	76	64	32	64	118	24	51		

(2) 性格型に別けて短大2年の栄養士コースと一般家政を比較した。とくに著しいのはA'、B、D、C、D'型にみられる。A'(平均型)においては栄養士が多い。B(不安定)においては栄養士が多い。D'(積極的)においては一般家政の方が多い。学部1年の方を比較すると、A'(平均型)においては管理栄養士が多く、D'(安定積極的)においては一般家政の方が多い多数を占め、E'(不安定消極的)においては管理栄養士がより多数を占めている。

(3) 教職コースと管理栄養士コースの比較

図2によれば情緒安定度においては教職コースがより安定であり、積極性においては管理栄養士コースと教職コースにも差はみられるが、なお職業興味検査においては分析検討中。

図2. 教職コースと管理栄養士コースの比較(学洋)



# 精神テンポに関する基礎的研究(オコク回)

三島二郎 浅井邦一 望月 裕

(早稲田大学)

(大森才六中)

問題提起: 精神テンポの恒常性は、態度、性格などの立場から検討して、そこに関連性が認められるかどうかが、今まで、この関連性について、1950年の三島二郎の実験で、精神テンポの恒常性とEinstellungの概念導入があげられる。

精神テンポの恒常性は Congenial tempo が相互に影響し合わない時間々隔をもって実施された場合に、その同じ Tempo がより多く出現する傾向の度合を示唆していると思われる。その恒常性が高いというよりは、逆に、その動揺率が低いことは当然であるが、われわれは、この動揺率を平均偏差指数 Y% で示している。

① da Friescheisen-Köhler は指頭打叩において、6.1% 三島二郎は 2.69% の Y% の平均値を示している。また、この実験の中で、Y% が 10% をこえたものと、それ以下のものとは別けて、互換転移の実験、学習テンポに対する妨害実験、描線法における被影響性の実験をあわせて行ない、両群の間に、ことなつた傾向のあることをみだしている。

また、盲群、聾群、正常群の Y% を比較し、総合的結論の中では、精神テンポの恒常性は、全知覚的領域が正常にあること、ひいては、心理的構えが安定していることに依存していることを述べている。

そこで、以上の実験とは、ことなつているが、精神テンポの恒常性と性格検査との関連性を問題として取りあげた。

Y-G性格検査の性格特徴は、D 抑鬱性、C 回帰性傾向、I 劣等感、N 神経質、O 容観性が無いこと、Co 協調性が無いこと、Ag 愛想の悪いこと、G 一般的活動性、R のんかさ、T 思考的外向、A 支配性、S 社会的外向の12に分類している。

さらに、A型(平均型) B型(右寄り型) 不安定不適応積極型、C型(左寄り型) 安定適応積極型、D型(右下がり型) 安定積極型、E型(左下がり型) 不安定適応積極型のプロファイル5型にわけてみる。

今回は、これらの類型と精神テンポの Y% の関連性に問題点をあいてみた。

目的: 本研究は運動領域における精神テンポの Y% と Y-G性格検査の関連性について、実験的に検討しようとした。

方法: Congenial way によつて加算作業を一分間実施させ、相互に影響しあわない間隔時間をとつて、これを5回実施した。その精神テンポを測定し、かつ Y% をも測定した。この実験は、5-6名を一群として、静かな普通学級で実施した。このほか、指頭打叩の精神テンポも、個人毎に 10 sec. を単位として測定し、その Y% も測定した。被験者は中学3年生で、男・女・200余名の生徒で昨年4月〜7月までにおこなつた。Y-G性格検査は、普通学級で集団的に実施し、その結果を測定した。

結果: これらの結果では、まず Congenial way で行なつた加算作業の Tempo の Y% とプロファイル5型との関係を見た。これは Table 1 に示してある。

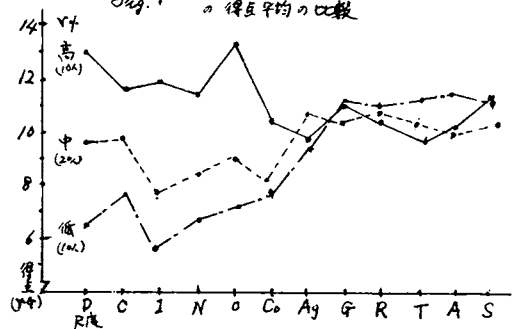
Table 1 は、A B C D E のプロファイル5型の男女各5名について、その Y% の平均を比較検討してみたのである。これによると、A・C・D群が B E 群にくらべて Y% は低い値も示している。

さらに、D C I N O Co Ag G T A S の12の尺度について Y% 高・中・低の3群にわけて、各群における得点平均を比較してみた。Fig. 1 で示されていようには、P. C I N O G にその差が多く見られた。

Table 1 Y-G性格検査と精神テンポの Y%

性別	A <sub>100</sub>	B <sub>100</sub>	C <sub>100</sub>	D <sub>100</sub>	E <sub>100</sub>
男	7.55	20.28	7.95	5.36	16.53
SD	2.18	3.84	2.63	1.61	4.79
女	9.49	15.56	7.63	7.04	18.61
SD	3.80	5.21	2.22	2.64	3.87
計	8.52	17.93	7.89	6.20	17.54
SD	3.03	4.83	2.57	2.60	4.51

Fig. 1 Y% 高(16%以上)中(10%以上)低(4%以下)の得点平均の比較



(連絡先) 東京都大田区南千代 1-33-1 大森才六中

# 保育者の適性に関する一研究(第2報)

—各種パーソナリティテスト結果を中心として—

○片柳聖代 金平文二 後藤嘉余子

(東京家政大学児童学科)

目的: 保育者の適性を規定する要因を明らかにし、保育効果を一層高めるための研究の一環として、今回は保育者志望学生を対象に、関心度テスト、性格検査等のパーソナリティテスト結果を中心として考察する。特に、職業への興味傾向、行動特性、保育者の適性要因と自己の性格特性との関連について、結婚後も保育者として働きたいと考える継続グループ(C)と結婚するまでとする非継続グループ(NC)との比較検討を試みた。

方法: (1)手続 G. F. Kuderの関心度テスト、L. L. Thurstoneの性格検査及び保育問題調査票を被検者に直接配布し、回答を求めた。

(2)対象 都内私立大学、同短大、保育養成校(各1校)の1・2年次学生235名。その内訳は表1の通り。

(3)検査時期

表1 被検者数

昭和43年4月 結果及び考 察: (1)職業へ の興味傾向		大学		短大		保育		計	
		F	%	F	%	F	%	F	%
C	25	55.6	85	54.8	27	77.1	137	58.3	
NC	20	44.4	70	45.2	8	22.9	98	41.7	
計	45	100.0	155	100.0	35	100.0	235	100.0	

各種の職業を興味の観点から整理した関心度テストでは、全般的に「社会奉仕」「読得」「戸外」への興味得点が高く、「書記」「文学」「計算」への興味が低い。(表2)一方C、NC間にはほとんど各尺度に有意差は認められず、わずかに「文学」「戸外」において

表2 関心度テスト結果

		戸外	機械	計算	科学	読得	美術	文学	音楽	養蚕	書記
		全	M	63.44	50.57	31.86	43.37	69.47	47.94	35.01	47.00
	SD	31.18	29.39	28.50	27.62	27.17	31.16	29.51	26.87	22.92	31.10
C	M	66.83	50.39	30.07	44.77	68.29	47.01	39.30	45.15	78.56	31.66
	SD	29.32	28.85	27.81	27.02	25.73	27.33	29.03	26.78	21.18	30.67
NC	M	58.70	50.83	34.37	41.41	71.12	46.46	29.01	49.60	72.93	40.40
	SD	33.35	30.12	29.26	28.34	28.97	35.80	29.14	26.78	24.78	30.77
C-NC		8.13	-0.44	-4.30	3.36	-2.83	2.55	10.29	-4.45	5.63	-8.74

注) Level: \*\* .01 > P > .001 \* .05 > P > .01

それぞれ1、5%水準でCに、「書記」では5%水準でNCにより強い興味傾向が示されているにすぎない。このように社会奉仕的な職業、弁論、詩術の巧みさを必要とする職業、山野・海洋・自然に開けた屋外・屋外での職業に対する興味が高いことは、保育者の職務内容を考慮して妥当なものといえよう。

(2)行動特性 行動傾向を理解しようとするThurstoneの性格検査の結果表3を得た。概して、積極性、内省

性に高得点を示し、且つ非衝動的であることは保育者として好ましい傾向と考えられる。反面社会性、支配性、情緒安定性が比較的強く、今日の幼児教育の重視点を考えた時、保育者

表3 性格検査結果

		活動性	積極性	衝動性	支配性	情緒安定性	社会性	内省性
		全	M	35.13	68.06	26.64	23.79	28.63
	SD	28.56	23.47	22.89	22.76	21.43	16.50	28.07
C	M	33.85	67.91	24.29	21.22	28.42	21.10	51.03
	SD	27.82	23.32	21.08	20.77	22.21	15.95	29.03
NC	M	36.92	68.26	27.92	25.69	28.92	19.65	54.53
	SD	27.47	23.66	24.84	25.46	20.29	17.20	26.55
C-NC		-3.07	-0.35	-5.63	-4.47	-0.50	1.45	-3.50

(3)保育者の適性と自己の性格特性との関連 保育者の適性要因に関し36項目に互って設問し、特に重要であるとの回答を得た上位10項目を表4に示した。C、NC間に

表4 適性と性格特性との関連

項目	C			NC		
	保育者自己の適性との関係 (%)	自己の性格特性との関係 (%)	性格特性との関係 (%)	保育者自己の適性との関係 (%)	自己の性格特性との関係 (%)	性格特性との関係 (%)
身体的健康	94.07	74.07	0.79	88.78	63.27	0.71
保育に対する熱意	60.00	34.07	0.57	58.16	17.35	0.30
保育の専門的知識	54.07	0.00	0.00	56.12	0.00	0.00
明朗性	54.07	37.04	0.68	54.08	33.67	0.62
幼児の理解	53.33	7.41	0.14	50.00	3.06	0.06
指導性	46.67	5.19	0.11	52.04	2.04	0.04
子ども好き	45.19	40.74	0.70	51.02	31.63	0.62
情緒安定性	44.44	9.63	0.22	46.94	7.14	0.15
信頼性	38.52	8.89	0.23	39.80	3.06	0.08
機敏性	32.59	9.63	0.30	44.70	8.16	0.18

合、すべての項目においてC > NCであり、特に、保育に対する熱意、子ども好きに関しその差が顕著である。即ちCは、保育に対する情熱、子どもへの愛情が一層強いことが推測される。尚、保育の専門的知識、幼児の理解の項目はC、NC共に低い。専門科目の学習期間が短かく、自己評価しにくいと考えられよう。

要約: 保育者志望学生を対象に職業への興味傾向をみると、社会奉仕、読得、戸外への得点が高く、且つ行動傾向は積極的、内省的、非衝動的であった。更に保育者の適性との関連においては、CはNCに比し保育に対する情熱、子どもへの愛情が強い傾向を示した。

今後サンプリングの適正を期し、C、NCとの比較検討を通して保育者の適性要因を追求したい。

# 外国語学習開始の最適年齢

—英語発音模倣能力を指標として—

山崎 睦子  
(大阪女学院)

〔目的〕本研究は、英語教育を開始するに最も能率的な年齢期を知ることにある。日本では、通常、中学校一年において英語授業を開始するが、私立学校のうちには、小学校ではしめるものもある。しかし本當に最も能率的にこれを行い得る年齢期は、何時の時期であるのか。これを知るために本研究がなされる。

〔方法手続〕本研究では、英語の学習を、教師の模範発音を模倣し得る生徒の能力の点のみ限定して扱った。意味理解や、また文章全体の均等性、他の面の学習能力、学習効果等は、後日の検討のため、ここにはあつけない問題点とはしなかつた。あくまでここでは音素(Phoneme)の模倣の完全性をのみ模し、評価の対象とする。

その上、本研究では、年齢も、小学校児童期に限定し、7~11才の間に限った。この範囲を越えた年齢期のものは、後日の研究計画には加えられるが、当面の問題の外にはあつたことを断つておかねばならない。以下、結論はこの限定もとらへないものである(以下の幼稚園及び幼児期については実施計畫中)。

被験児童数は、総数391人。発音者は山崎睦子。生徒に対し、一定の文章を四日間、発音してきかせた後、テスト(発音テスト)を行う。発音教授に使用文章は、通常の英語に現われる205種の「音素」を、四日間の教授課程で悉く(包含されるよう)作成された、日常的文章である。四日後に行うテストは、これら205の音素の一つ一つが、どの程度完全に発音し得るようになったかを検するもので、検査・評定に当るものは、米人 Mrs. R. Teale, 某人 Dr. Stubbs 及び山崎である。

表I表は、結果の一例を示す。この被験者は、205種の音素のうち、170種については良い発音模倣をなし得たが、なお35種については、不完全な発音に終わったのである。このようなテストを行い、上記の生徒総数より I.Q. = 100 程度のものであつて、且つ英語を習得しつゝこの間にも50人を選んで、その年齢ごとに成績を調べてみる結果、次のような結論が下された。

〔結果〕教師の発音模倣と音素に限定してはい限り、

- 1) 7-1 ~ 7-10 才の児童期が最も優れ、  
( a. 7才平均 155.3  
b. 11才 " 145.6  
c. 8才 " 140.0  
d. 9才 " 139.4  
e. 10才 " 134.9 )

2) 7~8, 9, 10才と成績は低下し、11才が最低、11才は7才に次いで次高であつた。

3) 7才と、8, 9才との差は0.5%水準で有意だが、0.1%では有意でない。7才と10才との間は0.1%で有意であつた。

〔結論〕かくして、この研究の示す限りでは、7才児において英語学習を開始するのが、発音模倣に關する限り、最も能率的であるが、小学校においてもし、かかる早期に開始しがたい事情があるならば、11才開始が次善の策であることとなる。

〔今後の問題〕なお今後の課題としては、7才以下の幼少の児童においてはどうか？ 発音模倣能力と年齢、発音模倣能力と知能年齢の相関はいか？ 男女におけるこの能力の年齢差。音素以外の模倣能力。等の諸点であり、このうちすでに若干手を染めつつあるものもある。

表I表 発音テスト成績の一例

姓名	性別	母国語
第1群 (おたけた材料)	第2群 (おたけたでない材料)	
1. dʒ	1. fʃ	
2. wɪn	2. ʃɪm tɔɪz	
3. tʌt	3. pʃʊd mɔ:k	
4. ʃri:	4. beɪ ɪn ə zɪ:	
5. ʃɔ:	5. ɡɔd ʃtɔɪ	
6. ɔɪ stænd ʌp	6. krai ɔ:geɪn	
7. sɪt daʊn ʃtɔɪz	7. neɪvə maɪnd	
8. ɡʊd mənɪŋ ɔ:brɪbɔ:di	8. kwɪm ɒnd kɪŋ	
9. ʃɪs ɪz ə ʃtɔɪ	9. ʃɪs ɪz ə stɔɪ	
10. ju: ɔɪm	10. ʃɪ: mi: mɔ:ə	
11. meɪtʃ	11. ʃɪ: ɪz ɔ:ld	
12. ju: ɔɪ hɔ:tel	12. ʃmɔ:l dʒæpən	
13. bɔɪ ɒnd ɡɔ:l	13. ɔɪm ju:z	
14. ɪt ɪz ə keɪtʃ	14. haʊ aɪ ɪk:	
15. ʃɪt ɔɪ dɔɪ	15. faɪn ɡeŋk ju:	

不完全な発音(音素)数: 35

完全な発音数 205 - 35 = 170

発音記号の上に / を附したものは、その音が不完全に発音されたものなるを示す。

# 中高生の友人関係について

駒崎 勉  
富士短期大学

目的： 青年期の交友関係ないしは異性関係を明らかにし、青少年の実態を知一つの手がかりとしたい。

方法： 中学1、2、3年および高校2年の各男女を対象とし、友人関係を調査する質問紙を配付して集計した。被験校は、いずれも神奈川県下所在の10校で、被験者数は、男子1598名、女子1215名である。なお調査時期は昭和43年12月である。

結果： 便宜上、友人と異性の友人とに分けて結果をみよう。

A 友人について 1) 親友がいる者の% 親友がいる、と答えた者は、中1男87%、同女91%、中2男85%、同女88%、中3男85%、同女90%、高2男85%、同女78%である。これは過去のデータと比較してみても、かなり高率である。

ロ) 親友をつくった時期 小学生の時、親友をつくったと答えた者は、ほとんどの者が1年と5年の時と答えている。また中学生になってから親友をつくった者の場合は、1年の時30%、2年40%、3年の時50%と次第に増加している。また、高校生では、中学の時親友をつくった者が多い。

ハ) 親友ができた動機 中学1年では家が近い、といった物理的要因が第1位を占め、25~30%に達している。ところが中学3年では2位に落ち、高校では激減している。

ニ) 親友に何を求めているか 中、高を共通していえることは、親友がいつまでも親友であってほしい、ということの第1位を占めている。ただ高2女子では例外で、悩みを解決してくれることを第1位挙げている。

ホ) 親友はどんな時、役立つか 中、高を通して、圧倒的に多いのは、悩みがある時で第1位を占める。すなわち、中1男30%、同女50%、中2男33%、同女64%、中3男40%、同女67%、高2男44%、同女60%となっている。また第2位には女子が淋しい時を挙げているのに対し、男子では遊ぶときを挙げている。

B 異性の友人について 1) 異性の友人をどう感じるか 異性の友人がいる、と答えた者は、男子では中高ともほとんど変わらない比率で、40~42%、女子では中1が31%、高2が44%と増加の傾向をみせる。また、恋愛と牽えられた、特に親しい異性の友人について、

その有無を調べたのがA図である。これにより中3は男女とも一番低率となる。なお昭和28年の教師養成研究会の調査と比較すると、あまりに恋愛が低学年に増加し、かつ女子に培えていくことが想像された。

ロ) 異性の友人に何を望むか

どの学年、性にも共通していえることは、「やさしさ」であって第1位を占め、2位が清纯さ、3位は低学年で親切、高学年で思いやりや明るさを挙げ、概して情緒的でロマンティックな傾向をみせている。なお高2では2位に頼れず人外挙げた。

ハ) 異性の友人に家庭はどんな態度をとるか またたくく迎えてくれる家庭は、中1男31%、同女23%、中2男28%、同女18%、中3男20%、同女20%、高2男25%、同女21%である。一方、放任の家庭は中1男12%、同女23%であるのが高2男では30%、同女17%となり、男子では年齢の増加とともに放任がふえる。また禁止は極めて少なく、男女とも0~2%に過ぎぬ。

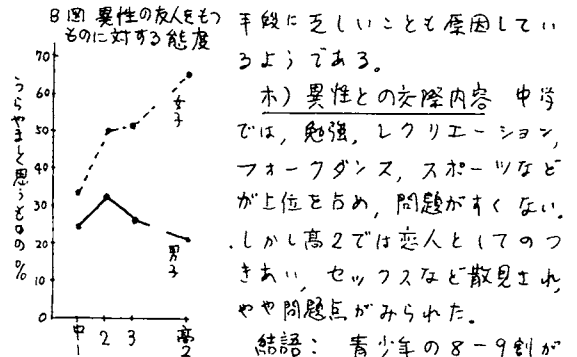
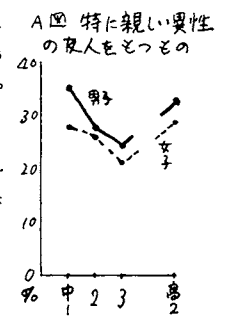
ニ) 異性の友人を持たない者はどう思っているか B図の通り、うらやましく思うものは、女子において年齢の増加とともに倍増する。これは男子が進学などに追われているのに対し、女子は情緒不安定をいやがるようにも原因しているようにもみえる。

ホ) 異性との交際内容 中学では、勉強、レクリエーション、フォーダンス、スポーツなどが上位を占め、問題がすくない。しかし高2では恋人としてのつきあい、セックスなど散見され、やや問題点がみられた。

結論： 青少年の8~9割が親友をもち、悩みの解消に役立ったなど親友の果たす役割が大きい。調査の結果に性差が少なく、また女子の異性交遊が目立つことと注目される。

付記： この調査研究は、神奈川県立青少年センターの委託調査によるそのの一部である。

連絡先： 東京都新宿区戸塚町3丁目 富士短期大学



# 作業動機の研究

## - Hygiene theory について (1) -

西川 一 廉  
(産業心理研究所)

**目的:** Herzberg et al. によって提唱された衛生理論 (Hygiene-theory) を検討すること

**調査:** 下記のような質問紙法によって、1969年2月、資料を得た

**被験者:** 某ベアリング工場で直接生産に従事する男子従業員、268名

**方法:** Herzberg et al. 著 "The motivation to work" (1959) から、従業員の作業動機に影響すると考えられる16因子とその他1因子を加え、合計17因子にもとづいて、80項目からなる質問紙を作成した。その質問紙は、職場での、ある種の出来事に対する空襲の有無とそれが何々の従業員にどんな感じを与えたかを問うものである。たとえば—

① ○ +3 最近、すぐれた考えで問題解決をしたと云う項目がある。応答者は、まず、最近の自分を振り返って、すぐれた考えで問題解決をしたかどうかをハイ(O) イイエ(X) ワカラナイのいずれかで答える。そして次に、○印をつけた者だけ、即ち、上のような出来事を空襲したと思う者だけが、それが自分にとって非常に快よく満足を与えた場合(+3) から、非常に不快で不満足を与えた場合(-3) までの7尺度で答える。

**結果と考察:** 従業員が報告する好ましい (favorable) 空襲の数と好ましくない (unfavorable) 空襲の数を総反応数に対する%で示したのが表1である (才一次因子の分析、人間関係 (上司)、全 (部下) )

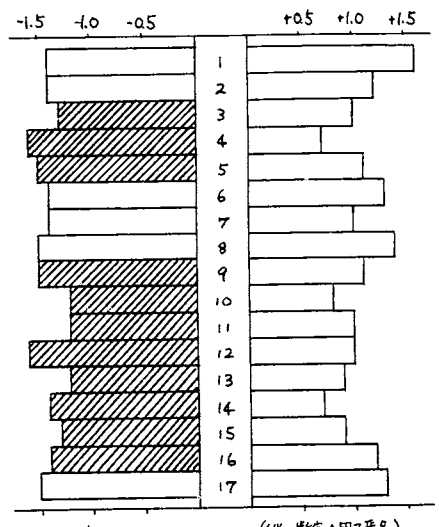


図1. 第2次因子の分析 (縦の数字は因子番号)

監督-技術、責任 及び 仕事の保障に関しては、好ましい空襲が好ましくない空襲よりも有意に多い。しかし、サラリー及び 作業条件は逆である。ところが、これらの出来事をどのように感じるかについては、(才一次因子の分析) 図1の通り、斜線を引いた因子で、好ましくない感情が有意に強い。たとえば監督-技術などは、好ましい空襲の多い因子でさえ、好ましくない感情の方が強い。これは好ましい空襲をしていても、尤して好ましい感情は起らず、好ましくない空襲については、好ましくない感情が非常に強いことを意味し、Herzberg et al. の云う dissatisfier に該当する。サラリー、及び 作業条件については好ましくない空襲が多く、かつ、好ましくない感情が強い。人間関係 (上司)、及び 全 (部下) については好ましい空襲をしていても、それが好ましくない感情と結びつかず、いわゆる motivator とは交らない。結局、本研究から motivator は見出されなかった。

表1. 第1次因子の分析

因子番号	説明	UF: Yes		UF: No		F: No		F: Yes		
		U:Y	N	N	N	F	F			
1	認められること	18%	48%	47%	11%	5	38	12		
2	達成	38	46	66	9		38	13		
3	成長の可能性	22	46	34	7		25	45		
4	昇進	5	45	22	6		16	25		
5	サラー	40	28	60	18		28	28		
6	人間関係 (上司)	19	59	23	53		19	52	19	49
		12	62	23	13		17	46	12	57
		21	42	13	61		21	42	13	61
		13	38	20	25		13	42	13	61
7	全(部下)	13	38	20	25		13	38	20	25
8	全 (同輩)	36	49	41	32		32	43	32	48
		39	37	43	36		23	54	29	42
		23	47	15	19		23	47	15	19
		33	44	29	38		20	53	17	51
9	監督-技術	36	36	16	57		18	54		57
		15	46	6	75		15	46	6	75
		21	75	27	42		23	34	31	33
11	会社の政策と管理	21	37	37	22		21	37	37	22
		37	37	37	38		37	37	37	38
		33	27	33	27		21	37	33	27
12	作業条件	23	51	61	29		33	27	53	32
		54	19	22		54	19	22		
		51	22			41	39	40	30	
13	作業それ以外	32	25	46	20		32	25	46	20
		35	40	26	44		32	25	35	40
14	個人生活	18	47	38	12		18	47	38	12
		13	46			33	22	41	20	
15	地位	4	38	41	8		4	38	41	8
		10	52	10	68		10	52	10	68
16	仕事健康	10	52	10	68		10	52	10	68
17	福利厚生	33	35	32	34		33	35	32	34

(連絡先) 大阪府 松原市 高見の里 2丁目 36

# Herzberg 理論への実証的批判(1)

○松井 齋夫  
(立教大学 社会学部)

竹内 登規夫  
(立教大学 社会学部)

目的:「取務遂行に直接関係のある内的動機要因(達成, 承認, 責任, 昇進, 仕事そのもの)は満足感を喚起する要因であり, 取務の環境条件にかかわる外的動機要因(監督技術, 監督者との対人関係, 会社政策, 給料, 労働条件)は不満足感と喚起する要因である」とするハースバーグのいわゆる動機2因子説を検討する。

手続: 銀行に勤務する役付男子取員180名, 非役付男子取員44名に以下の質問紙調査を行った。

(1) 過去において、特に強い満足感をもった体験があるかを問い、「ある」と答えた者に最近の最も印象に残っているものを一つ想起させる。

(2) その満足度の体験は、10の状況(達成, 承認など取務の内的・外的要因が具体的に記述されている)のうちどの状況下で得られたかを、該当する状況すべてをチェックする形で表示させる。

(3) 同じ被験者に、過去において特に強い不満足感をもった体験があるかを問い、「ある」と答えた者に、上と同様な方法でその状況を表示させる。

結果: 図1および図2のとおり

考察: 図から以下のことがいえる

(1) 達成, 承認, 責任, 昇進など取務遂行と直接関係のある内的要因は、対上役以下の環境要因に比べ満足感喚起力が著しく強く、ハースバーグのいう通りモチベーターとみなせる(非役付取員で他いのは昇進体験者がないからであろう)

(2) しかし上記の内的要因は、高い頻度で不満足体験の要因ともなっており、ハースバーグの所説に反してハイジン要因でもある

(3) 対上役は、ハースバーグの所説に反して満足体験の要因ともなり、モチベーターでもある。

(4) 体験以下のいわゆるハイジン要因の中では、体験残業のみがハースバーグの所説と一致しており、ボーナス、福利厚生については必ずしも一致しない。

(5) 以上を要約すると、ハースバーグの所説に反して取務遂行に直接関係する内的要因は、満足感の強い喚起要因であると同時に、その挫折は不満足感の強い喚起要因となり、環境条件にかかわる外的要因は、不満のいふ此の喚起要因としても強い。

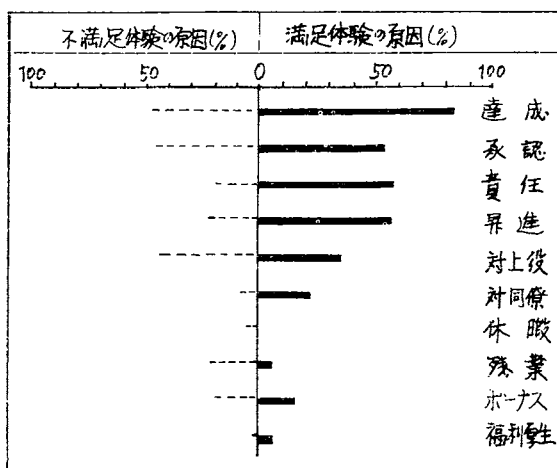


図1: 役付取員の満足・不満足体験の要因

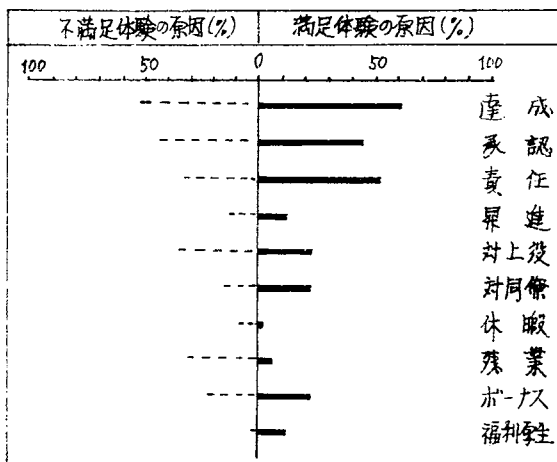


図2: 非役付取員の満足・不満足体験の要因

(連絡先)

東京都 豊島区 西池袋

立教大学・社会学部



# HERZBERG 理論の二因子説 (MOTIVATION に 関する) に対する批判 (2)

○ 村 内 登 規 夫  
(立教大学 社会学部)

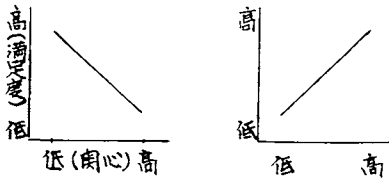
松 井 養 夫  
(立教大学 社会学部)

仮説: Herzberg理論からするとH-Factor (ハイジーン=ファクター)とM-Factor (モチベーション=ファクター)について、満足度と関心度の間に次のような仮説を立てることゝできる。

(1) H-Factor — 満足が高ければ関心は低くなり、満足が低くなると関心が高まる。

M-Factor 満足が高ければ関心も低く、満足が高くなれば関心も高くなる。

以上のよう仮説を反証すると次のようになる。



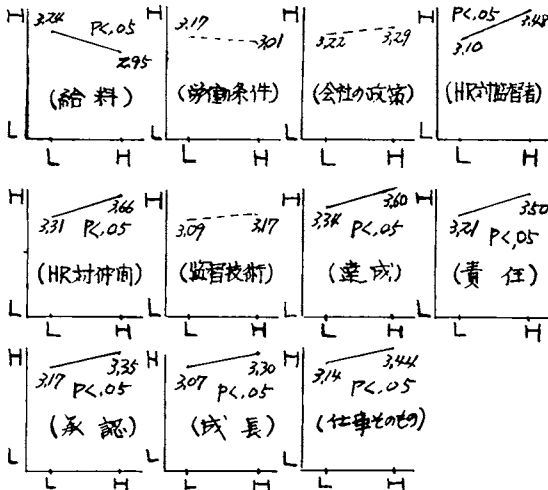
(H-Factor) (M-Factor)

(2) 次のような項目はH-Factorと考えられる。  
環境要因 — 給料、労働条件、会社の政策、

人間関係要因 — 監督技術、HR対監督者、HR対仲間

次のような項目はM-Factorと考えられる  
仕事要因 — 達成、承認、仕事そのもの、責任、昇進(成長)

銀行員調査結果:



(a) Herzbergの云うH-Factor と認められるもの (P<.05で有意な項目) 環境要因 — 給料

(b) Herzbergの云うH-Factor の傾向をとるもの (有意な差のない項目) 環境要因 — 労働条件

(c) Herzbergの云うH-Factor と認められないもの (P<.05で有意な項目) 逆に云えばM-Factor としたの仮説に合うもの

人間関係要因 — HR対仲間、対監督者

(d) Herzberg理論からすれば当然H-FactorであるにもかかわらずM-Factor 的傾向をとるもの (有意な差なし)

環境要因 — 会社の政策 人間関係要因 — 監督技術

(e) Herzbergの云うM-Factorとして認められるもの (P<.05で有意な項目)

仕事要因 — 達成、責任、承認、仕事そのもの。

結果の考察: ① M-Factorについては仮説通りで関心が低いときには満足度も低く、関心が高くなればなる程満足度も高くなる。

② H-FactorについてはHerzbergの理論をそのまま認めるわけにはいかない。

③ H-Factorとして認められるのは給料と労働条件の二項目位である。

結論: M-Factor (Herzberg)は明確な支持できないがH-FactorについてはHerzberg理論から導き出されるような明確なpatternは見つけることができない。

M-Factorとして仕事要因、人間関係要因(対監督者、対仲間、監督技術)、H-Factorとして環境要因(給料、労働条件)と云うようにHerzberg理論の修正が可能である。

(連絡先) 東京都豊島区西池袋三丁目  
立教大学社会学部助手室内  
電話 03-(993)-0111 内線 592

# 最近の販売理論における心理学の寄与

田村 勉  
(愛知大学 商学部)

目的：最近の販売理論が生産者志向から消費者志向に転換し、顧客理解の必要性から心理学の寄与を求めたことは周知のとおりであります。その寄与のうち、ここでは顧客理解の焦点となる顧客心理のモデルについての問題および人的販売の中心である面談における顧客の心理過程について最近の発展を幅広くみていきたいと思います。

論題：(1) 顧客の心理構造のモデル

周知のように戦後の心理学応用の販売は、顧客の無意識・深層心理に対する動機づけ調査が大宗を占めておりました。これらの顧客心理の構造はヴァンス・パツカードの説明によれば(1957年)。

オ一段階 意識的、合理的段階

オ二段階 前意識的、あるいは意識下の段階

(オ一段階より下の段階で自分の感情、感覚、態度のうち何が起きているかは大体判るが、それが何故かは自分で言う気のしない領域で、偏見、臆測、恐怖、感情的衝動がこれに含まれる。)

オ三段階 オ二段階よりもより低い段階

自分の本当の態度や感情に気がないだけでなく、たとえ、話し合ったとしても、それについて語りたくない領域。と云っています。

それに対し、ステヴン・シャウ(1965年)はレオンハート(1955年)のモデルを修正して内側から黒色、灰色、白色の円を描き、次のように説明しています。

白色：言葉の形態で存在する合理化、信念、態度

灰色：言葉になし得る概念、感情、情緒

黒色：言葉にならぬ無意識的情緒の段階

周知のように動機づけ調査の論者達は、オニ、オ三段階の意識下の部分に販売を集中することを主張しているのですが、シャウは白色を意識的段階、灰色を意識的ではあるが私的な段階として、灰色こそ顧客を最もよく理解する鍵であると言っています。

シャウがこのように顧客の心理構造の中の販売焦点を無意識から有意識へと引上げたのは、バウアーおよびバースク(1958年)以来の顧客の購買における無意識、不合理の否定につながるもので、その根拠は、他人から無意識、不合理とみられるものは、彼自身に

とつては意識的であり、理由のあることだ、それは私的な領域であると言っている。このような態度は動機づけ調査の学者達が、購買に理由はないとして実はシンボル、イメージをとりあげたのに対して、顧客を理性的な合理的なものとして、その私的領域を論理的に理解しようとしているものであって、高く評価されるべきであると思います。

(2) 面談における顧客の心理過程

面談において顧客が商品を購入するまでにどのような心理過程を経過するかは極めて重要な問題であります。1920年から30年にかけて盛行した販売公式論は、それを関心、興味、願望、行動としましたが、これは、販売者がそういう過程にそって顧客の心理を操縦するものであるとしました。これはバウアー(前出)も言っているように人は操縦できないということから否定されました。それに対する顧客志向の販売論はキマツシーおよびクリツシー(1958年)によつて唱えられ、彼等は要求啓発、要求覚醒、要求充足の三段階に分け、要求啓発の段階では、販売者は顧客の要求を見出すために、顧客の方により多く発言させ、ある時点において要求が発見されたならば、販売者がその要求にそって説明、説得を行う。これを顧客の要求覚醒の段階とし、最後に購買が行われ要求が充足されるとしました。これは顧客志向にそつた理論であることでは画期的なものでありますが、顧客の心理過程の理解としては一歩後退したことを否めません。

これに対して、消費者への情報の伝播を研究していたカツ、ラザー・スフェルド、ホワイトおよびロジャース等は、消費者の購買決定の過程を説明いたしました。ロジャース(1962年)のそれは、覚醒、興味、評価、試行、採用となっています。この覚醒、興味、試行の段階は、キマツシーおよびクリツシーの要求覚醒の段階をよりよく説明するのに有効でありますし、試行の段階は、従来、実務者の間で応酬話法あるいは異議処理として販売者サイドから説明されていたものを、顧客の行動に対する対応として説明する手がかりを得させたものであると思われる。

# 販売員適応性検査作成の試み(1)

○大沢武志, 永田嘉代, 清水智恵子, 増山春美  
(日本リクルートセンター)

## 〈序〉

販売員の適応性については、従来かなりの心理学的検査による研究がなされ、性格検査や興味検査などの情意性の検査や、個人の経歴(Personal history)などが、比較的高い有効性を持つことが認められている。

これらの研究においては、販売員の基準として、上司の評定や販売実績などが用いられているが、本検査の作成においては、本人の仕事への意欲、満足感などの職務適応感を質問紙によって調査したものを更に加えて、基準とした。

以下は、自動車セールスマンおよび店内販売員の二職種における適応性検査作成の概略である。

## その1. 自動車セールスマン適応性検査

〈目的〉性格・興味・意欲などのいくつかの既製の尺度を基本にして、情意的な側面から、自動車セールスマンとしての適応性を予測する検査の作成を目的とする。

### 〈方法〉

1. 予測変量・数多くの性格・興味・意欲などの尺度から、自動車セールスマンの適応性に関係あると思われる20尺度を選び出した。

2. 基準変量・自動車セールスマンとしての成功・不成功の基準は、①職務に対する適応感、②1ヶ月の平均販売台数とした。①は25項目の質問紙による調査、②は会社別に販売台数の多い順に、5段階に分けたものを用いた。但し、販売台数は、単種や、受持区域の差を考慮し、修正したものを用いてある。

3. 対象・自動車販売会社5社における販売経験3年以上のセールスマン433名。

4. 分析方法・つぎの3つの分析を行なった。

①相関分析(職務適応感、販売台数の2つの基準と各尺度の相関係数を求め、相関の高い尺度を選ぶ)

②G-P分析(職務適応感の高い者25%, 低い者25%をそれぞれ上位群(G), 下位群(P)とし、両群の尺度の得点を比較する)

③重回帰分析・Multiple cut-off分析(選ばれた尺度の得点と適応感との相関が最も高くなるよ

うにする。)

## 〈結果と考察〉

### 1. 相関分析

予測変量(予備検査の各尺度得点)と基準変量(販売台数、職務適応性)との関係を分析する。

相関分析の結果は、表1のとおりである。

各係数をみてゆくと、販売実績とはあまり高相関はないが、職務適応性とは10の尺度において、かなり高い相関があった。

この結果から、\*印のついた10尺度を選び、自動車セールスマンとしての職務適応性を予測する検査を作成する。

### 2. G-P分析

適応感と相関のあった10尺度のうち、防衛的応答態度尺度

を除く9尺度について、適応感の高い者25%(G群)、低い者25%(P群)の各尺度の得点の平均及び標準偏差を表2に示す。どの尺度も、明らかに識別性があるといえるが、適応感の高い者は販売的興味が特に高い。

表2. 適応感 上位群・下位群の得点平均及び標準偏差

		NE	DE	EW	So	OA	Ac	EI	販売	対人	養性
上位群	M	6.8	5.5	5.4	6.2	10.4	18.0	10.6	9.6		6.0
	SD	5.1	3.5	3.1	5.3	3.6	3.6	5.9	1.7		3.2
下位群	M	11.4	8.3	8.4	13.4	8.4	15.1	1.2	6.5		3.0
	SD	6.7	4.5	4.6	8.9	3.0	4.8	9.4	2.9		2.7
て		3.443	4.400	3.824	4.915	3.018	3.476	5.987	16.528		5.068

(連絡先) 日本リクルートセンター (03-292) 5811

表1. 各尺度と基準との相関

尺度名	職務適応性	販売実績
Dt *	.365	.024
NE *	-.303	.018
DE *	-.316	.041
EW *	-.279	.086
IN	-.047	-.033
OA *	.242	-.014
So *	-.393	-.017
RE	-.159	-.037
Ac *	.308	.117
EI *	.399	.085
JP	.121	-.027
Mo	.065	.121
SN	.057	-.058
TF	.047	.063
事務	-.097	-.057
販売*	.448	.087
対人養性	.245	.003
社会養性	.097	-.030
技術	-.036	.052
経営	.003	-.032
職務適応性		.145
販売実績	.145	

# 販売員適応性検査作成の試み(12)

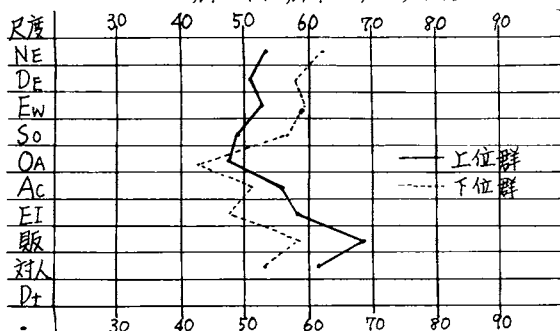
大沢武志, 永田嘉代, 清水智恵子, 増山春美  
(日本リクルートセンター)

目的, 方法, 結果の一部については, 前頁の論文と同じである。

### 3. 標準化

本検査においては, 母集団を一般人にとり, 自動車セールスマンの性格特徴をより明確にとらえられるようにした。先のGグループ, Pグループの平均得点を示したものが, 図1である。

図1. 上位群・下位群平均プロフィール



### 4. 判定基準の作成

識別性が確認された9尺度について, 自動車セールスマンとしての適応性を最もよく判別しうる基準を決定する。交差妥当化のため, 被調査者を2つのグループに分け, 第1グループについて2方法による分析を行なう。この分析により得られた結果を第2グループに適用し, もとの適応感との相関をみたものが, 表6である。

重回帰分析の方が基準との相関も充分高く, 交差妥当化の結果も安定しているため, 判定基準として, 重回帰分析の結果を用いる。すなわち, 各個人の尺度得点に, それぞれのウェイトをかけ, 各人ごとの合成得点を算出することにより, 職務への適応感を予測するのである。

このウェイトをより確かなものにするために, 被調査者全員に対して, 再び重回帰分析を行なった。(表7) 重相関係数で示される適応感と合成得点との相関は, 0.547というかなり高い数値を示した。

各尺度にかかるウェイトは, 販売的職業興味尺度にかかるものが0.608と一番高い。本人の適応感を基準とした検査では, やはり興味尺度が持つ意味が非常に大きいということを示しているといえよう。

表6. 交差妥当化による基準との相関

分析 方法	基準との相関	
	第1グループ	第2グループ
重回帰分析法	.521	.578
Multiple Cut-off法	.504	.481

表7. 重回帰分析の結果 (N=414)

尺度	適応度との相関	STRUCTURE VECTOR	WEIGHT VECTOR
NE	-.303	-.553	-.080
DE	-.316	-.577	.022
EW	-.279	-.510	-.133
So	-.393	-.719	-.054
OA	.242	.443	.151
Ac	.308	.562	.282
EI	.399	.730	.192
販売	.448	.818	.608
対人	.245	.448	.014

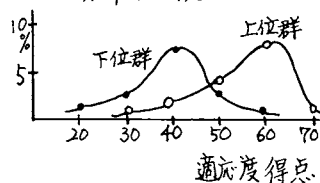
重相関係数 0.547

### 5. 妥当性

適応感調査で高得点を得た人が, 検査結果においても高い適応度得点を得ているならば, 本検査に妥当性があるといえる。先の適応感調査のGグループと, Pグループの, 検査結果における得点を示したものが, 図2である。

図2. グループ別適応度得点分布の比較

上位群と下位群との間に, はっきりと分布の差があるのかわかる。



### <問題点>

以上のとおり, 自動車セールスマンの適応性の予測に情意性の検査はかなり有効であることがわかった。しかし, 方法上, いくつかの問題点が残された。

1. 予測変量, 基準変量ともに, 自己評定であること。
2. 既製の尺度を用いたため, ある1,2重要な因子をとらえ得なかったかもしれないこと。
3. 1ヶ月の平均販売台数を基準として用いたが, 他に上司の評定, 訪問件数, 売上高などとの分析も, 必要かと思われる。

(連絡先) 東京都千代田区神田錦町1-1 〒101  
(株)日本リクルートセンター (03292) 5811

# 販売員適応性検査作成の試み(2)

大沢 武志, 永田 嘉代, 清水 智恵子, 増山 春美  
(日本リクルートセンター)

## そのII. 店内販売員適応性検査

〈目的〉能力・性格・興味などの側面から、小売業(百貨店, スーパーストア, ビッグストアなど)の販売員としての適応性を予測する検査の作成を目的とする。

〈方法〉

### 1. 予測変量

販売員として必要な諸特性を測定すると考えられる予測変量として以下の13尺度を用意した。(※注1) 能力的側面: 照合, 読表, 数的応用能力, 非言語的推理能力(図形), 言語的能力

性格的側面: 情緒的安定性, 社会的成熟性, 計画性着実性, 活発性, 責任感

興味的側面: 販売的職務, 事務的職務

応答態度: 自己防衛性

### 2. 基準変量

販売員として成功・不成功のきめてになるものとして, 2つの基準を設ける。

①業績評価 直属上司および人事担当者により, 業績成績を決められた比率で5段階評定する。

②職務適応感調査 店内販売員として, 現在どの程度職務に満足し, やりがいを感じているかを質問紙形式で5段階に自己評定する。

### 3. 対象

スーパーストア, ビッグストア 合計5社. 一年以上在職の女子社員244名。

〈結果と考察〉

#### 1 予測変量の分析

①項目分析 スピード検査の2尺度をのぞく知的能力検査3尺度の各項目の通過率および信頼性を検討し, 不適切な項目を除き, 尺度を再構成した。

②因子分析 1)性格の5尺度, 応答態度の1尺度の合計6尺度の主因子解を尺度ごとにおこなう。因子負荷量の低い項目を除き, 尺度を再構成する。

ii)興味尺度はまわ全項目をvarimax法により因子(※注1) 販売員の適性として要求される諸特性は職務・職場調査により検討された。その結果から17尺度を用意し, 男女372名を対象に予備調査を施行。この分析結果により選択, または追加された尺度が予測変量の13尺度である。

分析をおこなった。この結果より販売的興味と事務的興味の2尺度にわけ, さらに主因子解により1因子性を高めた。

iii)信頼性 折半法により, 各尺度の信頼性を求めた。(表1)

表1. 信頼性係数

尺度名		信頼性
能力	数的応用能力	.900
	非言語的推理能力	.797
	言語的能力	.829
性格	情緒的安定性	.759
	社会的成熟性	.669
	計画性着実性	.824
	活発性	.864
応答態度	責任感	.429
	自己防衛性	.689
興味	販売的興味	.902
	事務的興味	.823

### 2. 基準変量の分析

基準として用意した職務適応感調査をvarimax法により分析し, その結果3因子を抽出した。(表2)

この3因子を予測変量との関係分析に用いる。

表2. 職務適応感調査因子分析(varimax法)結果

No	項目	因子1	因子2	因子3
1	事情が許せば今の仕事をさらに続けていきたいと思えますか。	.825	.145	.044
2	毎朝仕事に出かけるのが楽しみですか。	.759	.024	.096
3	今の仕事は自分の興味にあっていますか。	.743	.051	-.096
4	今の仕事をやめたいと思ふことがありますか。	-.727	.096	.169
5	今の仕事は自分の性格にあっていますか。	.659	.217	-.060
6	今の仕事は自分の能力にあっていますか。	.652	.195	-.049
7	今の仕事に張り合いがありますか。	.618	.516	.065
8	毎日毎日の仕事に新鮮さを感じますか。	.588	.238	-.186
9	今の仕事は自分の心身をかたむけて取り組む価値のある仕事に思えますか。	.577	.291	.068
10	他にものと、自分に適した仕事があると思えますか。	-.571	.007	.300
11	今の仕事の中で自分が十分いかされていると思えますか。	.535	.219	-.262
12	今の仕事の上で、自分にふさわしい成果をあげていると思えますか。	.422	.454	-.337
13	今の仕事の上で、自分に寄せられている期待にこたえていると思えますか。	.387	.329	-.146
14	今の仕事に積極的に打ち込めないということがありませんか。	-.364	-.204	.484
15	今の仕事を通じて喜びを感じたことがありますか。	.279	.663	.004
16	仕事を通じていろいろなことを学んだり啓蒙される機会がありますか。	.264	.537	.030
17	今の仕事の中で自分の創意や工夫をいかすことができますか。	.258	.421	-.093
18	今の仕事を通じて自分で成長できると思えますか。	.251	.723	.059
19	仕事がなんたかうまく運ばないと感じることがありますか。	-.239	-.018	.570
20	何もかも忘れる程に今の仕事に熱中したという経験がありますか。	.227	.323	.021
21	今の仕事の中で自ら新しい解決法を見出したという経験がありますか。	.187	.547	-.198
22	今の仕事は、自分の将来のためになると思えますか。	.181	.566	-.148
23	仕事のでき、ふてぎが自分でわかりますか。	.103	.422	.132
24	今の仕事を他の人の方が自分よりもよくやると感じることがありますか。	.046	-.046	.476
25	自分の仕事が会社ではとるに足りない仕事だと思ふことがありますか。	.033	.012	-.011

## 販売員適応性検査作成の試み(2)

大沢武志, 永田嘉代, 清水智恵子, 増山春美  
(日本リクルートセンター)

目的, 方法, 結果の一部については, 前頁の論文と同じである。

## 3. 予測変量と基準変量の相関分析

予測変量の尺度と基準変量との相関関係を求めたものが(表4)である。

表4. 予測変量と基準変量との相関

尺度名		適応感			業績評価
		第1因子	第2因子	第3因子	
能力	照合能力	.033	.055	.090	-.037
	読表能力	.010	.085	.071	-.001
	数的応用能力	-.028	-.025	.088	.027
	非言語的推理能力	.014	.017	.081	-.025
	言語的能力	-.115	-.044	.125	.008
性格	情緒的安定性	.187	.132	-.247	.245
	社会的成熟性	.161	.113	-.250	.207
	計画性着実性	.208	.228	-.176	.088
	活発性	.296	.330	-.141	.120
	責任感	.052	.016	.022	-.007
応答態	自己防衛性	.179	.151	-.241	.107
興味	販売的興味	.433	.388	-.103	.023
	事務的興味	-.026	-.015	-.103	-.065

業績評価および第3因子(不適応感)と, 情緒的安定性, 社会的成熟性の間に相関がみられる。

また, 計画性着実性, 活発性, 販売的興味と第1因子・第2因子(適応感)とかなり高い相関がみられる。

能力は全般的にほとんど相関がみられない。責任感の尺度は信頼性・妥当性とも低いので, 本検査より省く。

## 4. 標準化

スーパーストア, ビッグストアの在職社員244名, およびスーパーストア, ビッグストアの潜在受験者461名の合計705名により標準化をおこなった。

## 5. 判定基準の作成

分析結果から, つきの判定基準を作成した。

①総合能力 能力5検査の標準得点の平均を7段階に分ける。総合能力は基準変量との関係がみられないため, 独立した能力情報として扱う。

②一般情緒的適応 第3因子(不適応感)と逆相関, 評価と相関のあった情緒的安定性・社会的成熟性

の標準得点の平均を4段階に分ける。情緒的傾向の未熟さや不安定さを判定する。

③販売員適応 第1因子・第2因子(適応感)と相関のあった計画性着実性・活発性・販売的興味の標準得点を平均し4段階に分ける。性格・職業興味の側面から, 本人自身が販売職にどの程度満足し, 適応性があるかを判定する。

## 6. 判定結果の妥当性

総合能力は基準変量と相関はない。一般情緒的適応と第3因子(不適応感)は逆相関で, 情緒的に安定している人は比較的不適応感をもつことは少ないことがわかる。また, 評価とも多少相関がある。販売員適応は第1因子・第2因子(適応感)と相関が高い。(表5)

表5. 判定結果と基準変量の相関

	適応感			業績評価
	第1因子	第2因子	第3因子	
総合能力	-.002	.010	.113	-.010
一般情緒的適応	.186	.121	-.245	.237
販売適応	.451	.452	-.159	.139

## &lt;問題点&gt;

以上のとおり, 店内販売員の適応性の予測に, 性格・興味の側面から測定する検査が有効であることがわかった。しかし, 方法上, いくつかの問題点が残されている。

1. 予測変量, 基準変量(適応感)ともに, 自己評定であること。

2. 判定基準の作成方法が粗いため, 販売員適応と職務適応感の第1因子・第2因子(適応感)との相関が.451にとどまった。他の方法によればより高い相関が得られたであろうと思われる。たとえ重回帰分析, multiple-cut-off method, あるいは標準得点の平均ではなく, 標準得点の和をさらに標準化する方法などが考えられる。

3. 能力・性格・興味と別の判定基準を設けたが, 全部の尺度を総合して, 販売員としての適応性を1つの判定基準により総合的に判定する方法の検討が必要と思われる。

(連絡先) 東京都千代田区神田錦町1-1 F101  
(株)日本リクルートセンター (03-292) 5811

# 企業における職場意識についての一考察

○田中正一  
(愛知教育大学 職指教室)

小坂英一  
(豊橋青年会議所 理事長)

目的:中小企業に働く青少年従業員(主として)の意識と、経営者(管理・監督者を含む)の意識とを比較して、どの点が一致し、どの点異なるかを明確にして今後の経営・労務・教育訓練・産業カウンセリング等の参考資料として役立てるために実施した。

方法:(I)調査の方法 二枚の質問用紙によって経営者と従業員とにそれぞれ一枚ずつ、次の57の立場から、その関係を22項目について行った。

(1) 直接の上司と部下との関係  
1:相談 2:意見 3:指図 4:人間性 5:仕事 6:密着 7:信頼 8:公平 9:認める

(2) 仕事との関係  
10:満足度 11:適性 12:責任感

(3) 職場の仲間との関係  
13:話し合い 14:信頼

(4) 会社との関係  
15:誇り 16:勤続意志 17:賃金 18:ニエース 19:転職意志 20:期待—賃金関係の改善 労働時間の短縮 人事問題の改善 職場環境の改善 福利・厚生施設の充実

(5) 地域と将来についての関係  
21:この地域について、どう考えますか  
22:自分の将来について考えたり、実行していること

(II) 対象 経営者・管理監督者(総数 333人)

製造業 156人(47.7%)  
非製造業 171人(50.3%)  
その他 6人(2%)  
社長 156人(47%) 専務 63人(19%)  
部長 33人(10%) 係長 20人(6%)  
その他 59人(18%)

従業員(総数 1465人)  
製造業 1284人(87%)  
非製造業 181人(13%)  
男子 681人(46%)  
女子 784人(54%)  
作業・技術者 1158人(79%)  
事務 54人(3%) その他 50人(3%)  
東三河出身者 716人(50%)  
愛知県出身者 277人(16%)  
他県出身者 472人(34%)

結果:第1表は第1項目から20項目の集計(以下)表1 全体%

項目	経営者	従業員	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	無記
1 相談	54.4	33.0	10.0	0.6	0	1.8		
2 意見	22.6	56.5	17.1	0.9	0	2.7		
3 指図	10.7	23.5	4.5	14.9	4.6	1.3		
4 人間性	12.2	32.7	37.9	14.9	4.9	1.2		
5 仕事	23.3	41.0	26.7	10.0	2.9	1.1		
6 密着	12.8	56.5	28.7	0.3	0	1.5		
7 信頼	27.6	22.8	37.8	11.7	3	1.8		
8 公平	37.9	44.3	14.9	0.9	0	1.8		
9 認める	12.2	24.0	40.6	1.9	3.1	1.1		
10 満足度	25.6	21.9	44.6	3.3	0	4.2		
11 適性	8.9	17.2	45.1	21.9	5.7	1.4		
12 責任感	36.6	46.4	12.2	0.3	0	4.2		
13 話し合い	11.1	22.2	42.4	18.0	4.9	1.4		
14 信頼	33.3	50.7	11.6	0.3	0	2.9		
15 誇り	10.6	22.8	44.7	15.5	4.8	1.5		
16 勤続意志	37.9	42.8	11.0	0.6	0	2.5		
17 賃金	6.4	16.2	52.6	16.2	3.5	2.0		
18 ニエース	5.1	4.9	40.9	4.8	0.3	3.6		
19 転職意志	4.8	11.8	34.5	35.7	16.1	2.2		
20 期待	9.1	41.8	38.5	1.8	0	5.5		
21 この地域について、どう考えますか	4.9	14.9	40.5	28.9	9.5	1.1		
22 自分の将来について考えたり、実行していること	18.6	55.3	19.5	2.4	0	3.9		

経営者と従業員との差の大 1 5 7 8 9  
17  
" 中 2 4 10 11 14  
15 16 19  
" 小 6 12 13  
従業員が経営者より差が大きいもの(→)  
3 18 20

(連絡先) 豊橋中西羽田町39の2 (自宅)

# 管理監督者層に対する教育必要点を見聞する一研究

金子 文二  
(東京家政大学)

片平 信子  
(産業心理研究センター)

目的: 今の組織体における管理監督者(課長級)に必要とする能力を初次的に展開して、その必要最低限の管理監督者能力について調査し、それを明確化するこゝとを以て今後の教育計画作成の根拠とするこゝとにある。そこで管理監督者に必要とする資質、能力を明確に理解する為の資質調査と管理能力テストを実施し、その結果を分析することにより、諸特性を發見しようとし、その目的を達成する為のパイロットスタディである。

方法: 研究の対象 X市の市庁市長事務執行、外局の課長級、全員、計52名

実施日程: 昭和43年12月7日、8日

使用テスト: 管理者に必要とする資質調査票

- ・管理行動診断テスト(MST)
- ・管理類型診断テスト(MTT)

使用調査票およびテストの内容

・管理者に必要とする資質調査票  
管理過程にしろなつて各管理職能を遂行するの必要と認めらるる管理監督者の能力の特性、性格の特性を多数あげ、その特性について管理監督者の3層別、必要と認めらるる特性の重要度に応じて選定させ、その結果を分析することにより、管理監督者の必要特性を明かにしようとするものである。

・管理行動診断テスト(MST)  
管理監督者としての日常の業務を推進していくの為に、その管理行動が業績追求の為に、人間関係指向的であるかをみるこゝとを以て、管理監督者としての行動傾向を測定しようとするものである。

測定領域 P型、M型、p型、m型  
小題形式 多肢選択法(4肢択一式) 30題、40分  
管理類型診断テスト(MTT)

管理監督者の行動のタイプを3次元格子を以て診断しようとするもので、管理監督者の行動を管理初果の高低別、8つのタイプの診断しようとするものである。

測定領域 管理初果の低いタイプ(無関心型、温情型、独断型、半協型)  
管理初果の高いタイプ(官僚型、啓蒙型、自信型、管理型)

出題形式 多肢選択法(2肢択一式) 64題、50分  
結果の分析と考察: 管理監督者が評定を行動の

結果に基づいて中級管理者に必要と認められるべき能力を以下の2次のようにする。

表1. 中級管理者に必要と認められる能力

職務: 技術系共通	業務系のみ	技術系のみ
分析力、判断力、実行力、決断力、企画力、調整力、記憶力	流達力、調整力、総合力、評価力	指導者能力、紀律力、批判力

表2. 中級管理者に必要と認められる資質、性格

業務系: 技術系共通	業務系のみ	技術系のみ
計画性、積極性、責任感、使命感、信頼感、公平性、進取心	忍耐性、達達性、自信信念	開放性、遠慮性、情緒安定性、反省性、誠実性、向上心、経済性、遠慮性

・管理行動のタイプに於ては基準はしめなかつて、管理監督者をわけてみるこゝとを以てする。

表3. 管理行動タイプ別パーセンテージ

P型 人間関係指向的業績追求型	19.2%
M型 業績追求的人間関係指向型	23.1%
p型 業績追求型	13.5%
m型 人間関係指向型	44.2%

・管理類型診断テストの管理監督者の管理類型の平均プロファイルは次のようである。

管理類型の平均プロファイル

	A	B	C	D	E	F	G	H
全平均	7.7	9.2	7.5	8.1	8.3	9.9	8.5	7.0
上層群平均	7.3	8.9	7.0	7.2	8.8	10.5	8.7	7.6
下層群平均	8.1	9.5	8.2	8.5	7.8	9.3	8.3	6.2
管理類型	無関心型	温情型	独断型	半協型	官僚型	啓蒙型	自信型	管理型

表5. 指向性平均プロファイル

	仕事指向	人間関係指向	初果性	管理類型
全平均	0.6	2.4	1.8	温情型
上層群平均	0.6	2.4	2.4	啓蒙型
下層群平均	0.6	2.4	1.2	温情型

まとめと今後の対策: 1. 検証しようとする能力とそれを開発すべき研修方法との組合せを以て考慮し、今後の研修体系を確立していくこと。

2. 管理監督者の管理行動のタイプは平均的傾向のタイプに属している。

3. 管理監督者の管理類型のタイプは全体的にp型と温情型で、管理初果の高いグループは啓蒙型であり、管理初果の低いグループは温情型である。今後その発展の方向性を研究が展開されるべきである。



# ESPと生理周期との関係(Ⅲ)

○長田一臣  
(日本体育大学)

大谷宗司  
(防衛大学校)

目的：従来より、ESPの長期測定において、得点の漸次的低下が報告されているが、われわれは、これに周期的変化を示すことを見出した。前2回の大会において、われわれは、婦人の生理的変化の指標である基礎体温(BBT; Basal Body Temperature)とESPとを長期にわたって連続測定した結果、ESP得点とBBTの周期に伴って変動するのを観察したことを報告した。今回は、同一被験者および新たに加えた被験者による、その後の観察と新たな結果について報告する。

### 方法:

- 被験者: a. SA(22才)未婚(正常)  
 b. Y.O(30才)既婚(子宮切除)  
 c. MK(22才)未婚(正常)  
 d. KT(21才)未婚(正常)

- 期間: a. 1967年10月~1969年5月  
 b. 1968年5月~1969年5月  
 c. 1966年11月~1969年3月  
 d. 1968年4月~1969年7月

場所: 各被験者宛

用具: ESPカード<sup>1)</sup>, ESPテスト用紙(大谷式, 婦人体温計)

手続: (1) ESP test—ESPカードを用いる場合は、カードをShuffleし、裏向きに重ねたままguessし、結果を記録用紙に記入する方法(DT法)

を取り、テスト用紙を使用する場合は、記入用紙の直下にかくされたRandomに並べられたESP SymbolsをTargetとしてGuessする。(2) BBT測定は毎朝、覚醒後、動かないまま床中にて口腔検温する。

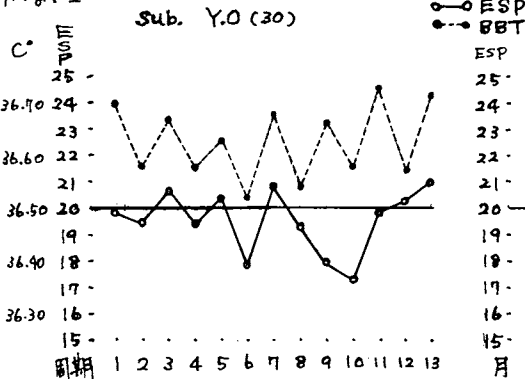
結果: 図において、縦軸はESP値とBBT値を、横軸はFig. 1においてはBBT周期を、Fig. 2においては月数を示す。中央20の線はESP test 100試行における偶数期待値(Chance Level)を示す。

さて、われわれは前2回の発表において被験者MKが低温期にESP値が高く、高温期には低いという関係を極めて規則正しく繰り返すことを報告し、被験者Y.Oがこれと反対の関係をこれ又規則正しく繰り返すという相矛盾した結果をも報告した。Fig. 1はその後の結果を加えて、なおその関係を保持していることを示す。Fig. 2は未報告の被験者で、SAは18ヶ月間本実験に従事した。Fig. 1は高温、低温の周期を示しているが、Fig. 2は高温、低温を平均した月毎のBBT、従ってESPも月毎のESP値として示されている。図を比較して明らかになるように、Y.OのBBTは極めて高く、これに反してSAのBBTは対象的に低い。

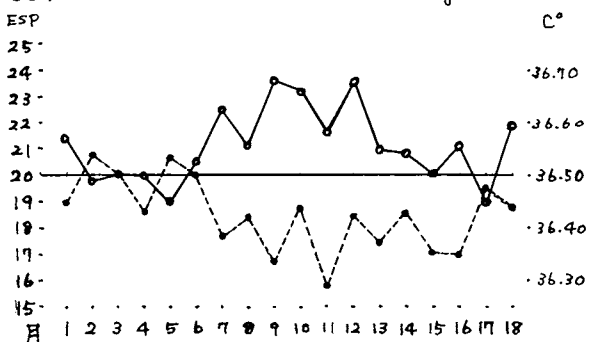
両者のESP値も亦対象的で、Y.Oにおいては低く、SAはそれが高い。又SAにおいてBBTが低くなるにつれてESP値が高くなるのが明瞭にみられる。

考察: ESPとBBTにはかなりの関係がみられる。高温はESPに対して妨害的に作用し、低温期は一般に有利に導くように思われる。

Fig. 1



Sub. S.A (22) Fig. 2.



[註] 紙面の都合でY.OとS.Aの図のみを掲載した。

(連絡先: 東京都世田谷区深沢町7-1-1日本体育大学(長田), 東京都中野区中央4-26-14日本超心理学会(大谷))

## 霊媒の成立過程について(Ⅲ)

大谷宗司  
(防衛大学校)

先にオス9回大会に於て、同一標題の下に、所謂霊媒と称する人達に対し面接し彼等の生活歴を調査し、その霊媒的能力を獲得するまでの経過について考察した。また、オス2回大会に於ては、霊媒の訓練法の1例について観察した。今回は、所謂霊的治療と称し薬物や暗示を用いることなく病気の治療と行う者について調査する機会を得たので、彼自身の行った記述及びその経過に詳しい肉親からの口述に基づき考察を加えようとする。

例(霊媒KO) 男性。本人は神霊治療と称し、本人には観察できるといふ手の指頭から発する放射線と患者の眉間及び患部に当てることにより病気の治療と行う。青年時代より顔面神経麻痺で苦しむ。後、長女が出産の時、難産の爲重態になったが、お百度を踏むことによりその危難を救った。これを契機に精神の働きの不思議さを認識し、自分の病気の治療にもこの様な方法が効果を持つのではないかとの期待を持ち精神的修練と始める。その後、催眠術其他幾つかの宗教的技法を見聞体験し、更に自分で工夫を加え、熱心に修業を続ける。約1年後、指頭より発する光様のものに気がつき、これが病気の治療に効果のあることを発見する。その後、自動運動、亡母の幻覚、憑霊現象を経験する。また、息子の徴兵検査結果の予知などESPと思はれる能力を示したが、病気の治療に専念する。昭和26年死亡。

考察:本例における被調査は、所謂民間療法とも異なり、薬物の使用、患者への接触、暗示等による特殊な方法を用いて病気の治療とする。また、筆者の以前に調査を行った所謂予言や透視を行うものと異なる能力に於て異なっている。しかし、両者の間には成立の過程及び思想的背景に類似した点が見出すことができる。

(a) 長期に亘る精神的圧迫。本例に於ては青年時代より能力発現に至る間20年余顔面筋肉の異常な緊張に悩んでおり、それについて本人は「その為社会的生活は半減された」また「この事が絶えず頭にあつて不思議な精神の働きに一縷の光明を求めこの研究に今後を捧ぐよう決心した」と述べており、その苦悩が大変な事であることを示している。以前の調査にも見られるよ

うに、霊媒の成立の前には多くの場合、長期に亘る社会的或は性的な欲求不満が先行し、本人には大きな苦痛となる精神的圧迫が存在する。(b) 精神の修練へ向はせる強い契機の存在。この場合は、長女の生命を救はうとして行った「お百度」とその成功の感激が自己の苦痛よりの脱出という願望と結びついてその後の修練への強い動機となっている。他の例に於ては、家の破産、肉親の死亡等の強い精神的ショックが修業への契機となることが多い。(c) 自動運動・憑霊現象自発的発言の経験。これらはそのまま、霊媒の能力発現の形式として固定することが多いが、本例に於ては、之等の経験の固定化はみられない。しかし、この事實は、本人が心的分離を起し易い特徴を持っていることを示すものと解せられる。(d) 現象に対するSpiritualisticな説明。本例に於ても最後には宗教的開眼を示し、自己の能力に理論づけを行つてゐる。それは多分にSpiritualisticなものであり、我々に特有なSpiritualismの特徴を持っている。これは、霊媒的能力を示すようになるると他の霊媒或はグループと接触することが多くなることに原因する。

本例においては、以前の調査の場合と相異なる点も見られる。(a) 一般によく見られる副意識が明瞭でないこと、本場合に於ては憑霊現象は見られるがその経験は数少く、従つて副意識との間の強い葛藤は報告されていない。(b) 能力の発現にトランス状態に入ることもない。上記特徴と関連するが、他の場合と異なる点がある。しかし、治療は半ば自動運動的に行はれる。

本例を含めこれまでの調査に於て、異常な能力の発現には、程度の差はあれ意識の分離を伴ふことが特徴と考えられる。これに関し、Jungのplurality of the psycheの考えを許すならば、彼は、'霊媒能力が、110-ソナリティの形成の過程に於てその統合が不十分な段階で発現する」とするが、これまでの観察例に於ては、十分な統合に達しなかつた110-ソナリティが、精神的圧迫或はショックにより再び分離することが異常な能力の発現と関係する事が示されたといふことができる。

(連絡先) 東京都中野区中央4-26-14.

# 調息調心に関する心理学的研究(83)

—呼吸作用と情動との関係に関する心理学的研究(17)—

松本博基

(駒沢大学文学部)

目的: これまでしばしば述べてきたように、坐禅時における呼吸は一般に緩徐であり、しかも呼吸がとくに長くゆるやかである。また調息においては、静かてゆるやかな呼吸法が強調されている。さらに筆者のこれまでの研究からも明らかのように、不快時の呼吸にくらべて快あるいは安静時の呼吸はゆるやかである。

本研究は、種々の呼吸変数とくに呼吸商と脳電図との関係を手掛りに、緩徐な呼吸の調心的意義を検討しようとするものである。

方法: 被験者は大学生男子1名, 大学院男子2名, 主婦1名, 計4名で、実験は次の条件で行った。被験者は閉眼坐位で、I; 普通の呼吸を行う, II; 呼吸をゆっくり静かに行う, III; 普通の呼吸を行う, IV; 呼吸をゆっくり静かに行う。以上各5分間。上記の各条件下における呼吸および脳電図をエレクトロ・メタボラーならびに脳波計を用いて同時に連続記録。脳電図

は、左右頭頂および後頭部から単極誘導法によって導出した。

結果および考察: 結果の整理にあたっては、各条件下における被験者の分時呼吸数(R.R), 分時呼気量(R.V), 1回呼気量(T.V), 呼吸商(R.Q)および平均値を算出しこれを表1に、また後頭部脳電図α波の出現率ならびに呼吸商の変化をそれぞれ表1・表2図に示した。表1図から緩徐な呼吸時においては、脳電図α波出現率増加の傾向がみられる。また表2図から普通の呼吸におけるよりも、緩徐な呼吸における呼吸商が平均して大きな値を示しており、表1図の脳電図α波出現率の変化と対応した傾向を示していることは興味ある問題である。これらの結果は、肺胞炭酸ガス濃度と脳電図との間に密接な関係があるという Bülow, K. (1963) の研究に照して考えるならばさらに興味ある問題が提出されるであろう。

表1図 種々の条件下におけるα波出現率の変化

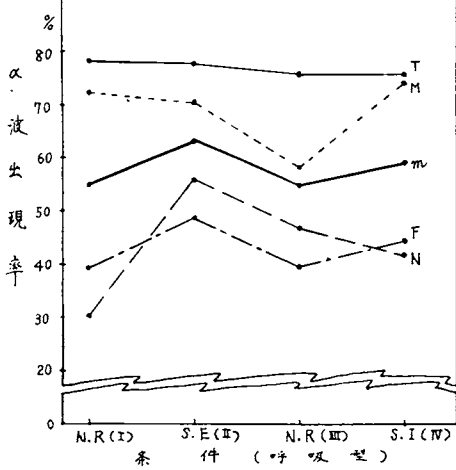


表2図 種々の条件下における呼吸商の変化

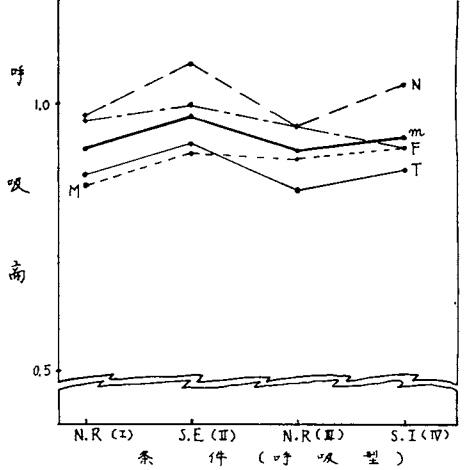


表1表 種々の条件下における各被験者の呼吸

Condi. Sub.	Normal Respiration				Slow Expiration				Normal Respiration				Slow Inspiration			
	R.R	R.V	T.V	R.Q	R.R	R.V	T.V	R.Q	R.R	R.V	T.V	R.Q	R.R	R.V	T.V	R.Q
T	14.2	8.20 l	577 cc	0.87	4.4	5.64 l	1281 cc	0.93	13.0	7.50 l	576 cc	0.84	6.2	5.54 l	893 cc	0.88
F	24.8	9.48	382	0.97	14.8	8.08	546	1.00	23.0	9.00	391	0.96	15.8	7.44	471	0.92
N	10.0	5.32	532	0.98	5.8	5.78	997	1.08	11.2	6.16	550	0.96	8.4	8.96	1067	1.04
M	18.4	7.32	398	0.85	14.8	5.60	378	0.91	15.6	6.04	387	0.90	13.2	5.44	412	0.92
m	16.85	7.58	472.2	0.918	9.95	6.27	800.5	0.980	15.77	7.17	476.0	0.915	10.90	6.85	710.7	0.940

調息調心に関する心理学的研究(84)

— 人格の変容に及ぼす調息の効果に関する心理学的研究(2) —

中村尚志  
( 駒沢大学 )

杉よび阿久津(1964)は、背洞洞の結核患者におけるガス代謝を測定し、1回の換気量は、0.8~1.1ℓ、分時換気量は、平均3.5~4.5ℓ、坐位開始とともに、O<sub>2</sub>値は低下し、その代謝率は、基礎代謝時の値の75~95%であることを見出した。

これらの所見をふまえて、本研究は、さらに次の方法により研究を進めた。

観察対象：同一被験者(31才)について3ヶ月間に9回にわたっておこなった。

被験者は前夜食事を正常に与え、当日の朝食は抜かせた状態で、午前11時から1時間30分の間に測定されるように努めた。

方法：Knowles式呼吸法に於ける各パターンの訓練に伴う変化について、O<sub>2</sub>・CO<sub>2</sub>の代謝量の変化値を分析し、その呼吸パターンの構造と機能を明らかにした。メタボライザーは、日本肺機能のType-300を使用した。

また、平常呼吸における腹圧とKnowles式呼吸I~IX型における腹圧の変化を併せて測定した。ポリグラフは、三栄測器のType142-8を使用した。

結果と考察

Knowles式呼吸法のI・II・III・IV・V・VI・VII・VIII型における、それぞれの代謝値は第1表に示す通りである。第2表は分時呼吸数、分時換気量、一回換気量を示すものである。

表1、図1の結果から、Knowles式呼吸の各型(I~IX)におけるそれぞれ相互間に有意差のある測定値は、O<sub>2</sub>・CO<sub>2</sub>の代謝値に関して次のことを示すものである。I・II・III・VII型においては、CO<sub>2</sub>値がO<sub>2</sub>値よりも0.180ℓ大きく、このときに加わる腹圧は他の型の場合より小さい。IV・V・VI・VIII型では、O<sub>2</sub>値がCO<sub>2</sub>値よりも0.160ℓだけ大きく、腹部に加わる圧はその他の型のものより大きい。この両者における値は大きな有意差をもつものである。

表2の結果から、分時呼吸数、分時換気量、一回換気量についてみると、(Knowles式呼吸法IV・V・VI・VII・VIII型)は杉(1964)が明らかにした禅僧における測定値と類似している。

連絡先

東京都世田谷区駒沢1丁目 駒沢大学心理学研究室

図1

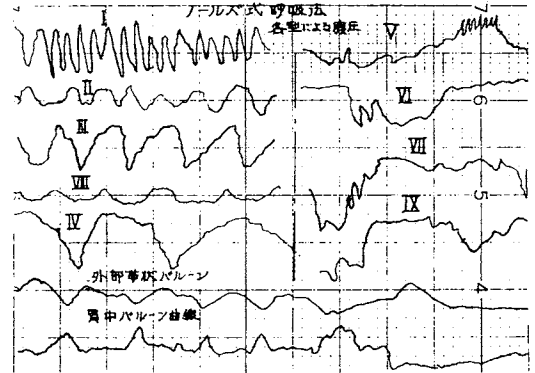


表2 ノールズ式呼吸各型の換気・呼吸量表

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	平均	
I	分時呼吸数 15.4 分時換気量 13.1 一回換気量 0.87	14.2 13.0 0.91	13.6 13.3 0.93	13.8 13.7 1.00	17.0 24.9 1.46	17.0 23.2 1.36	17.2 23.6 1.38	17.4 23.4 1.34	12.0 15.6 1.30	15.36 18.1 1.19	
II	分時呼吸数 5.8 分時換気量 5.3 一回換気量 1.6	5.2 5.3 1.01	6.0 5.6 0.93	6.0 5.7 0.95	5.8 7.88 1.36	6.2 5.7 1.17	6.0 7.88 1.88	6.8 11.0 1.70	7.0 11.3 1.70	6.0 9.2 1.31	6.0 8.09 1.39
III	分時呼吸数 4.0 分時換気量 4.4 一回換気量 1.1	4.4 5.0 1.13	4.2 5.5 1.30	4.2 4.8 1.18	4.2 7.9 1.88	4.2 7.16 1.70	4.0 9.48 2.37	4.0 6.9 1.72	4.0 8.3 2.07	4.13 6.61 1.60	
IV	分時呼吸数 1.0 分時換気量 7.6 一回換気量 2.53	3.2 5.86 1.83	3.4 7.6 2.23	3.6 7.8 2.17	3.4 5.84 1.90	3.8 7.24 1.90	3.0 6.44 2.14	2.6 5.84 2.25	3.0 5.20 2.5	3.22 6.6 1.99	2.85
V	分時呼吸数 2.4 分時換気量 5.7 一回換気量 2.37	2.2 5.4 2.45	1.6 3.64 2.28	2.2 3.04 1.38	2.0 4.7 2.37	2.0 3.96 1.98	1.8 3.94 2.18	2.0 4.45 2.22	2.0 4.0 2.0	1.7 4.3 1.93	
VI	分時呼吸数 5.6 分時換気量 5.5 一回換気量 0.98	6.0 5.15 0.85	5.0 5.3 1.06	4.2 5.68 1.35	3.6 3.72 1.03	4.0 3.85 0.97	4.2 5.4 1.28	4.0 4.4 0.90	3.6 4.8 1.33	4.5 4.8 1.08	
VII	分時呼吸数 3.2 分時換気量 10.5 一回換気量 3.28	2.8 10.2 3.64	3.2 10.0 3.12	3.0 10.6 3.22	2.0 8.8 2.91	2.0 5.8 2.72	2.2 5.72 2.60	2.4 5.5 2.30	3.0 5.5 1.83	2.6 7.26 2.79	
VIII	分時呼吸数 4.8 分時換気量 14.1 一回換気量 2.94	4.4 11.0 2.5	4.2 10.96 2.60	4.0 8.3 2.07	4.0 9.24 2.31	3.6 8.3 2.31	4.8 9.52 1.98	3.8 5.92 1.54	3.6 6.5 1.52	4.1 9.0 2.11	
IX	分時呼吸数 3.0 分時換気量 4.1 一回換気量 1.37	2.6 4.15 1.59	2.8 4.0 1.42	2.0 4.64 2.32	2.0 4.68 2.34	2.0 4.68 2.34	2.8 4.72 1.68	2.0 3.52 1.77	2.8 5.2 1.85	2.3 4.41 1.93	

表1 ノールズ式呼吸各型の代謝値

型	1		2		3		4		5		6		7		8		9		合計平均	
	O <sub>2</sub>	CO <sub>2</sub>	O <sub>2</sub>	CO <sub>2</sub>	O <sub>2</sub>	CO <sub>2</sub>	O <sub>2</sub>	CO <sub>2</sub>	O <sub>2</sub>	CO <sub>2</sub>	O <sub>2</sub>	CO <sub>2</sub>	O <sub>2</sub>	CO <sub>2</sub>	O <sub>2</sub>	CO <sub>2</sub>	O <sub>2</sub>	CO <sub>2</sub>		
I型	0.317	0.420	0.325	0.430	0.326	0.435	0.325	0.332	0.318	0.416	0.327	0.424	0.400	0.445	0.222	0.403	0.333	0.424		
II型	0.248	0.269	0.260	0.283	0.215	0.222	0.206	0.259	0.250	0.254	0.253	0.280	0.293	0.244	0.351	0.248	0.275	0.206	0.261	0.289
III型	0.213	0.256	0.248	0.293	0.167	0.207	0.176	0.184	0.214	0.216	0.195	0.215	0.284	0.293	0.197	0.217	0.271	0.282	0.218	0.240
IV型	0.260	0.246	0.284	0.229	0.199	0.178	0.238	0.235	0.139	0.116	0.205	0.192	0.265	0.250	0.255	0.212	0.215	0.202	0.254	0.206
V型	0.253	0.238	0.251	0.227	0.193	0.189	0.071	0.066	0.166	0.144	0.216	0.172	0.185	0.163	0.220	0.177	0.164	0.146	0.183	0.163
VI型	0.249	0.245	0.210	0.207	0.260	0.236	0.260	0.232	0.171	0.152	0.125	0.123	0.239	0.223	0.181	0.162	0.226	0.206	0.213	0.198
VII型	0.583	0.519	0.654	0.515	0.540	0.540	0.410	0.358	0.348	0.303	0.374	0.268	0.393	0.350	0.321	0.278	0.348	0.305	0.416	0.390
VIII型	0.401	0.536	0.464	0.538	0.371	0.452	0.288	0.300	0.330	0.344	0.216	0.233	0.352	0.358	0.229	0.239	0.279	0.283	0.225	0.364
IX型	0.151	0.133	0.174	0.139	0.141	0.131	0.293	0.250	0.252	0.220	0.239	0.198	0.212	0.194	0.188	0.149	0.266	0.219	0.212	0.181

# 調息調心に關する心理学的研究(85)

## —坐禪に關する心理学的研究(2)—

—調身調息を中心にして—

武井 広平  
(駒沢大学 文学部)

目的: 従来の坐禪に關する実験的研究は、主に腦波、呼吸、循環、筋緊張などを中心に行われて来た。本研究においては、坐禪中の情動の動きと眼球運動の計測を通じて検討するものである。

方法: ①対象。坐禪至験者(継続的に週1回以上坐禪を行なっている者)4名(19~21才)を被験者群とし、未至験者2名を対象群とした。②条件。被験者は半音階のモードルーム内で、面壁して40分間、坐禪を行なわせた。③眼球運動(水平方向)記録用血状電極を外眥外方に斜削骨で接着し、30 $\mu$ C, 200 $\mu$ V, 6mmで双極性に誘導した。右を参照記録とし、0.3sec, 50 $\mu$ V, 4mm。誘導もあわせて行なつた。更に腦波、帯域周波分析器による分析腦波、硫酸銅テューブ電極による呼吸曲線、心搏図、GSRを同時記録し比較検討した。

結果: ①坐禪時の眼球運動。「半眼」で面壁して坐禪を行なう被験者の眼球運動は、開始前には大きく速い眼球運動が優勢であるのに比して、開始後は小さい速い動きが連続的に出現した。至験的には変動が大きく、開始直後(I期)、中前期(II期)、終了直前(III期)に於ける変化は個人によつて相違した。開始直後はREMは少なく、II期に増大し、そのまゝREMを示し続けた場合、I期が多く出現し、II期に少なくなり、後半のIII期に多くなる場合、またI期にはREMが顕著であるが、II、III期にはほとんどみられず、SEM(速い眼球運動)が出現する場合も多かった。全過程中、ほとんど眼球運動がみられず時期が観察された。REMの減少は、周期的に出現するSEMの増加に対応した。大きくREMが一時的に出現したが、その前後に小さなREMが付随することが多く、参照記録上では特異な出現があり、半音階があるモードルーム外での人声、物音に誘発されるものであった。坐禪中にみられたSEMには、3種異なる相が観察された。参照記録上REMが少なくなるか、全くみられず時期に、小さく振るゆるやかな運動で、分析対象の記録上に判別し得るもの。REM期と交互的に出現する大いSEM。さらに1人の被験者において、坐禪開始から終始観察されたもので

、周期的なゆるやかな軌線の動揺としてみられ、しかしその軌線上に小さなREMが重複して現れた。

②坐禪中の閉眼、睡気の影響。坐禪中に観察されたSEMに關して、それが不測の閉眼によるものかどうが判別された。REMと交互的に顕著に出現するSEM時には、EEG上には睡気による徐波化が観察された。

③同時記録。心搏数はI、II、III期に至るにつれて増加した。呼吸数はほぼ一定であるが、SEM時に変動することが多く、振幅が増大した。その他に關して、坐禪中の眼球運動の変化との相関を見ることは出来なかつた。

考察: 坐禪においては昏沉を嫌い、極力これを避けるよう指示される。しかし以上の所見から、半眼が睡気をはらうという役目を必ずしも十分に果しているとはいえない。坐禪中の眼球運動と脳波との関係については今後の課題として研究すべきであらう。

このまゝの眼球運動に關する内外の研究は閉眼時・睡眠時、催眠時のものが多く、閉眼時にのみ關する研究はほとんどない。従つてそのうちの研究に見出された眼球運動の特徴を、直接に閉眼時、ないし坐禪中のそれと比較することは出来なかつた。しかしながら間接的には極めて重要な資料がある。本研究の結果、眼球運動は坐禪中の情動変化の過程を知るための鋭敏な指標となり得ることを立証した。

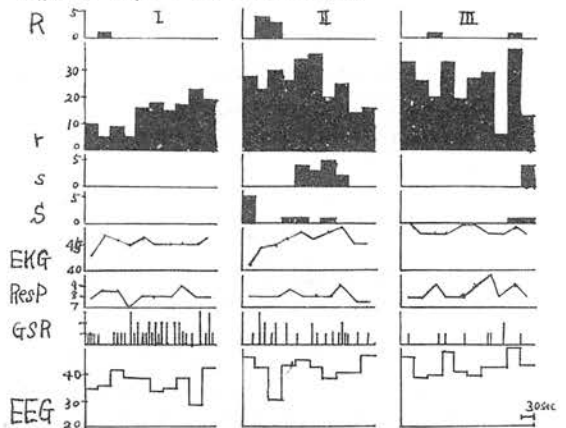


表) I、II、III各5分間毎の坐禪至験者1例。

# 調息調心に関する心理学的研究(86)

— 自律訓練法の禅的修正に関する心理学的研究(1) —

上野 省一  
(駒沢大学 大学院)

自律訓練法は、一種の調息ともみなしう独自の呼吸法を含む一種の内観法である。これを数千年の伝統をもつ、インドのヨガ、仏教、中国の道教などにおいて極めて複雑かつ高度に発展せしめられている内観法に比べれば、その技法は極めて幼稚なものと言わなければならない。

その呼吸法も、同じように、インドや中国において極度に発展せしめられた呼吸法に比べれば極めて幼稚なものである。

白隠のナンゾ観として世に知られているものは、実は道教の内観法の極めて初歩的な入門の方法にすぎない。白隠は、このナンゾ観と丹田呼吸と坐禅の併用によって自ら救われ、八十歳の長寿を保ったが、彼はまたこれを一般の人々にすすめてやまなかった。

「師の曰く、儂が輩ら心病全快を得て以て足れりとする事なかれ。転た治せば転た終ぜよ。転た悟らば転た進め。」 「此に於いて真正参玄の上士両輩を得て、内観と参禅と共に合はせ並らべ躰へて且つ耕し且つ戦ふ者蓋し茲に三十年……。」 (夜船閑話)

本研究は、自律訓練法に含まれている諸公式に留ることなく、これにさらに洗練された呼吸法と坐禅の要素を加えて、新しい形式の精神療法を創造せんとするものである。言葉を変えて言うならば、白隠が自ら実施してその偉効あることを明白に証明した方法を科学的に再組織せんとするものである。

このような趣旨に近い研究としては、生長勇博士、田中義文博士、石田六郎博士などの研究がある。

生長博士の方法では、白隠の内観法の基礎をなす救息観を用い、自然の呼吸を心の中で救えさせ、最初の入息をヒーと、最初の出息をそのまま受けてイーと救える。救息観を会得したら自己催眠へ誘導をする。自己催眠の心理療法技術としては、真の暗示的な心理・生物学的再体制化をもたらすように工夫された自律訓練法の標準練習が用いられている。ナンゾ観は、救息観で現実性離脱の心的状態に成りえたものに、これを実習せしめて、さらに深い内観に進ませている。

田中博士の方法においては、基本練習は調身、調息、調心、心身脱落の四段階に分かれている。

調身は、坐禅の坐相を基本として、両手は軽く組み下

腹部の前に自然に置き、下腹に力をこめ背骨を伸ばし、両肩から弛緩させ、眼は普通に開いて前方に落す。調息は、鼻から静かに呼吸して、腹の下からへこまして今少し吸う事ができる時、吐きはじめる。下腹部に力を入れる事により膈式呼吸を行う。吸う息より吐く息を長くし、これを十回くらいくり返し、後は呼吸を自然にまかせる。

調心の段階では、禅のいう自己に親しむという、あるがままにあるということを含得させるのである。

その公式の要点は次のようなものである。

- (1) 静坐中は聞かれど聞えず、見けども見えずで、周囲の事を気にしない。
  - (2) 静かな森に独り坐り、目の前の池に写つてゐる自分の姿をじっと見てゐる。
  - (3) 自分自身を相手として、よくに力まない。
  - (4) あるがままでよいから、力む事もなく気が乗らなってきた。
  - (5) 姿勢が楽になり、歪んだ心がほじけ、まろい、すなおな気持になつてきた。
  - (6) すなおな心には、我のとりわれがなから爽やかな気持である。
  - (7) 体も心も整つて、静かに落ちついてきた。
- 心身脱落の段階では、全身の筋肉を弛緩させるもので、坐禅によって緊張と弛緩のバランスのとれた状態を招来させるものである。

石田博士の方法は、他者催眠と自律訓練法とを一ヶ月以上にわたつて実施し、これに十分習熟した後に、生長の場合と異つて右本内観法を一週間行なわしめるものである。この方法によって、分裂病者をも含む多くの症状の患者に治療効果を持たらしている。

本研究においては、呼吸法としての救息観の他に、エッジツエの補償訓練法、ノールズ式呼吸法などをとり入れて、これを修正し補強している。坐禅も、禅かうンセリングを導入し、両者間にフィードバックを持たらして、その向上を図ることにつとめてゐる。

この療法は、目下施行中で、その効果測定は次回の記事にゆずりたい。

(連絡先)

東京都世田谷区駒沢1丁目 駒沢大学心理学研究室

# 調息調心に関する心理学的研究(87)

— 信の態度に関する心理学的研究(1) —

— 坐禅時の GSR —

小野 浩一

(駒沢大学大学院)

坐禅の形式そのものは、ひとり禅宗に留まらず、仏教の他の宗派にも、ヨガにも、儒教にも見られる。東洋では古くから、坐禅は一つの行法として広く実践されてきた。しかるに、坐禅を単なる坐法としてではなく、宗教的実践として規定するものは、個々の主体的な「信」の態度に化ならない。即ち、個人が如何なる信の態度を有するかによって坐禅の意味が異ってくるのである。しかしながら、少くとも禅における信はそれ自身独立した存在ではない。坐禅即ち行と相互に深く係わり合っているのである。この実験では信の態度を明らかにするため、まず、只管打坐を取り上げてそのメカニズムと考察した。

目的： 坐禅中の被験者に同一音刺激及び同一電気刺激、さらにこの2つの複合刺激を連続して与えた場合のGSRの形態と修行年数別に比較検討する。さらに、一般的なレスポンド条件づけ手続きにおいて、禅定中の条件づけが可能かどうか調べる。仮説としては、坐禅時においては(1)反応出現数が多い、(2)漸減現象は見られない、(3)条件づけは出来ないの3種と考へた。

方法： 被験者は男子のみ20名で詳細は第1表参照。実験場所は曹洞宗大本山総持寺内の一室。気温23~26°C。音刺激としてはナショナルマイグラーEB24、DC1.5V、提示時間1sec。電気刺激として、0~60V直流感電刺激、提示時間0.3sec。姿勢は実験群の禅僧は結跏趺坐或いは半跏趺坐、統制群は半跏趺坐又はあぐら。眼はすべて閉じている。次に実験手続は5段階に分れる。①[I-CS]音刺激連続提示20回。すべての実験を通じて刺激間隔は不定であるが、極端に長かつたり短かつたりしないように心掛けた。②[US-intro]同一強度の電気刺激を20回提示。③[II-CS]①に同じ。④[cond.]音刺激と電気刺激の対提示20回。⑤[ext.]音刺激の

第1表 被験者

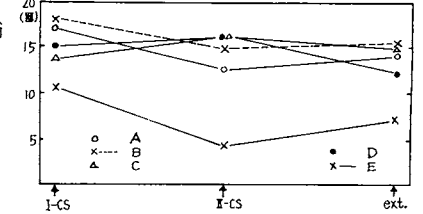
	グループ	被験者数	修行年数	与令	備考
実験群	A	5	20~40年	40~69才	
	B	4	3年	24~26才	
	C	4	3ヶ月	20~30才	
統制群	D	2	発禅経験なし	50~54才	Gr.Aの対照群
	E	5	"	20~24才	Gr.B-Cの対照群

でもある。測定単位は伝導度変化値( $\Delta C$ )を用いた。

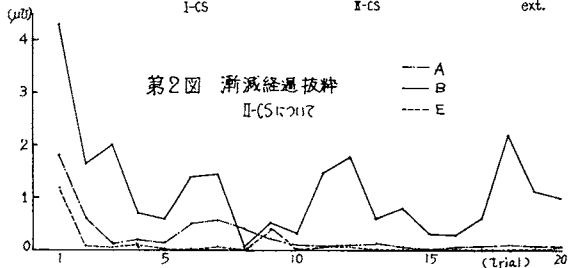
結果： (1)反応出現数について、刺激場面①③⑤の結果(第1図)に、 $\Delta C$ 検定を試みたところ、Gr.Bとその対照群であるGr.Eについては、すべての場面で有意な差が認められた。(2)漸減経過。電気刺激に対しては、どのグループも比較的漸減現象が少ない。しかしながら、①③⑤の音刺激について見ると、Gr.B及びGr.Cでは漸減現象も少なく、恒常的に大きな反応を示しているのに対し、Gr.Aでは統制群Gr.Dと殆んど差がなく、音に順応している(第2図参照)。(3)条件づけについて、Gr.A・D・Eでは全員条件づけることが出来たが、Gr.Bでは4人中2人、Gr.Cでは4人中1人が条件づけられなかった。

考察： 只管打坐している被験者が経験する心的プロセスは「非思量」と呼ばれる。「非思量」は一般に言われる無意識等とは全く異なる一種の心的緊張状態である。そうであるならば、如何なる刺激でも確実に捉えられ、しかも、その刺激に対して、何ら意味づけ、連想等はなされないのであろう。前述の仮説はこのような根拠から導き出されたのである。実験の結果、修行年数3~4年及び3ヶ月では仮説に近い特徴的な反応が見られたが、20~40年では対照群と殆んど差が見られなかった。これが主に定力の変化によるものか、信の態度の変化によるものか論議されるところであるが、今後の研究に譲りたい。

第1図 反応出現数



第2図 漸減経過抜粋 II-CSに於て



(連絡先) 東京都世田谷区駒沢1丁目 駒沢大学心理学研究室

# 調息・調心に関する心理学的研究(88)

— 精神療法と禪に関する心理学的研究(1) —

座間味 宗和  
(駒沢大学 大学院)

Pinelが1993年に精神病者を鎖から解放して治療を開始して以来精神病者に関する研究は、あらゆる角度から行われて来た。

特に最近の向精神薬の進歩は、世界の精神科病棟を鎮静させ、これまでの雰囲気を完全に変えたが、それと同時に反面においては精神療法が著しく進歩し西と相俟って入院期間が極めて短縮された。

本研究は、精神療法の一つであるSchultz博士の自律訓練法にさらにエリクソン等の呼吸訓練法、その他の禪的要素をとり入れて、新しい型の精神療法を創造せんとするものである。

Schultz博士は、1905年にOskar Vogtの自己催眠に刺激され催眠の心理学的生理学的なメカニズムや精神療法の治療的効果について研究を続け、その結果催眠状態をもたらす基本的な要因が筋の弛緩と血管の弛緩にあることを科学的に解明し、自律訓練法を完成させた。

その技法的な原理や性格などは、Salter、Rhadeoらの自己暗示或は自己催眠療法、ジエコフソンの漸進的弛緩療法(Progressive relaxation)、またFinkleの休息療法などにも共通した点が少なくない。

一方訓練の面から見ると印度のヨーガや禪の技法などにも類似するものがあるが、笠松、平井両博士が述べている如く禪の場合はもっと深く且つ素晴らしいものである。Maclowもまた、禪は西洋のPsychotherapyよりもはるかにすぐれており学ぶべき点が多くないと述べている。

最近自律訓練法を適用した臨床例からみると(1)生機性間欠神経症、(2)心因性層状神経症などに対しては、本法が著しく効果があると認められている、これに反し人格層状神経症の場合は自律訓練法の適切が余り期待されないため筆者は呼吸訓練法や禪的療法、特に調息を併用したならば好ましい結果が期待されると考える。

また、内因性精神病、取分け精神分裂病者に対しては、自律訓練法の効果が見られぬばかりか、本法を用いたならばかえって次の様な障害が惹起するのではないかと恐れられていた。

① 意識障害、② 感情障害、③ 知覚障害などが

漸増し特に妄想などの症状が誘発し、病識さえ乏しくなるため本法は、精神分裂病者の治療に極めて困難であると考えられてきた。

従って臨床における研究例も必ずしも十分でない。柴田によれば、多数分裂病患者に自律訓練法を用い、疎通性の欠如、自閉、無熱、生活態度等が改正され、その人なりのレベルで社会復帰が可能となった。

しかし、患者の選択と十分なる配慮がなされなければ、漸次症状が悪化し、自殺を招くおそれもあると報告されている。

石田によれば、心身症患者、ヒステリー性精神病者に内観法を適用する以前に自律訓練法の標準練習を用いると速効であるとされ、精神分裂病のボーダーラインケースには、効果があったと述べている。

川井によれば、自律訓練法を適用して、実際に有効であるというグループとあまり役に立たなかったと思える人達に分かれていた。前者の場合は、内省報告、心理テスト、行動観察から有効であったと報告された。

筆者は、本研究において、特に精神分裂病患者6名を対象とし禪的療法及び自律訓練法の標準練習の実施に目的をおいた。これらの患者は、口数が少なく、日頃の行動においても積極性に欠け、身辺不整で孤立的傾向が目立ち、時々問題行動が認められるものである。

方法としては、これらの患者すべてに本法を適用する前にローレルマッハテスト、Y-G性格検査、脳検テスト、MMPI、クレペリン検査、精研式文章完成テスト、精研式TATなどの諸心理学的検査、また生理学的手法を用いて、脈波、アレチスモグラフ、眼球運動、GSR等の検査を施行し、本法の標準練習を一日3回、3〜5月にわたって実施し、同時に比較的軽い作業療法を併用してある。

訓練の終了時に再び心理学的立場からの検査及び、生理学的立場からの検査、並びに日頃の行動観察を行い、そこに得られた結果について詳細な分析を施行し、それに基づいてよりよい精神療法を生み出す人として、目下治療に専念中である。

(連絡先)

東京都世田谷区駒沢1丁目 駒沢大学心理学研究室



# 調息・調心に関する心理学的研究(89)

## — 催眠的行動に関する心理学的研究(1) —

中村 晃

(駒沢大学大学院)

權が日本人の人格形成、武道、若道に強く影響し、浸透してゐることは「なめな」。「こまア」宗教と催眠行動との関係に於いての研究はあるが(世見、成瀬)、しかし、武道者、修業者、行者の行を对象とした心理学的、生理学的研究は少な。

本研究にあつては空手道、その他、「わかる」刃渡り法、火渡り法、釜湯ア法等の諸行法の極意、境地を心理学、生理学的な立場から究明して、その中の現象と従来「わかる」受動的な催眠行動との異同を研究することを目的としてゐる。そして、その研究結果を基礎として宗教的に行と催眠行動との異同に關しても新たな知見を提供せんとするものである。

Schwartz, Bickford, Permusen (1955)等は盲目の催眠暗示はEEGのα波ブロッキングを除去するのに効果的であるが、しかし、同様の効果が催眠導入を与えらぬ。そして、トランス状態に入つてゐるようにはみえぬ。被験者にも生じ得ることを報告してゐる。また、Hadfield (1920)は皮膚温のある局部に限定された変化は覚醒状態の人と与えられた暗示によりひきあこせらうることを見出した。また、Menzies (1941)は覚醒状態の人が手足のあたたかさを含ま以前の経験を見「あこす」と手足の血管拡張を、また、冷たい状態を含ま経験を見「あこす」と局部の血管収縮を示すことを見出してゐる。以上、述べた現象と同じ性質の現象は感覚、皮不、循環、消化の各機能に關しても生起することが数多く報告されてゐる。これらの研究報告が次のような一般的結論が引き出される。催眠によってひきあこせらうる生理的効果の多くが、當たる言語刺激による催眠にかかつてゐる。同様にひきあこせらうると。

ここに導かれた結論は「わかる」催眠性行重かと類型的には相似の現象が催眠性トランスへの導入を待たずして可能であることを示すものである。わかれわかれが次に報告する刃渡り法の行、空手の行などは言語的暗示を必要とすることなく

教し訓練によつて可能となることを示すものである。

刃渡り法、空手道の達人は厳し「鍛練」や農業、食事法によつて身体的な素地を作り、その上にはげし訓練による身心の緊張、弛緩、独特な体位、呼吸法、強力の信念等によつて精神の安定、統一を体得して、身心一如となつてその難業をなしとげる。

わかれわかれ、刃渡り法にあつては、独特な呼吸法と調身の方法がある。呼吸は休息を重し、且つ呼吸と収縮のタイミングを重要視してゐる。調身にあつては特殊な正坐法と手のくみオ、体のバランス保持の仕方、とぎる剣の重み等を重視する。最後に、調心としては、該当する課題を伴はずりとげると「強」信念をこつことが不可欠である。

空手道の呼吸法は權やヨガに於けるそれとに似たものがある。空手道にあつては特に三戰の呼吸法、クニバク呼吸を重視する。クニバクの呼吸法とは行者が極に入つてゐる時の呼吸法であり、その時の体位はまずへりを締め、次に尻を締め、太陽神経叢に三角形の結びをつけるのである。そして、この全身の力は統制出来る状態で呼吸をやってゐる。クニバクの呼吸を解いた時は坐禅に於ける規定中と同じような境地にあるといわれる。

これらのことから空手道、刃渡り法等の境地にあつては、受動的なトランス状態とは異つた特殊な精神活動が働いてゐるものと「わかれわかれ」すなわち、意識的、自覚的、積極的、能動的な強力な意志作用を主とした独特な自己統制された心理的組織が生まれ、このような心理的組織によつて特異な行動が遂行せらうるものと「わかれわかれ」する。

わかれわかれは、刃渡り法、空手道で成立せしめる条件を明らかにし、そのほか、「わかる」他者催眠、自己催眠のそれとはその性質を異にするものであることを明らかにした。

(運格先) 東京都世田谷区駒沢1丁目 駒沢大学心理学研究室

# 調息調心に関する心理学的研究 (90)

— 歩行を中心とし起居動作し呼吸との関係に関する心理学的研究(1) —

根岸美奈子  
駒沢大学 文学部

Weber(1836) Carlet(1872) Marey(1882) Muybridge(1918)等はキモグラフを用いて歩行動作をとり、その時空間関係より歩行を論じている。

Fischer, Braune(1895)等はガイスラー管を被験者の四肢、頸項等に附着し、その断絶放電により歩行の各時点に於ける位置を写真に収めて、その結果を科学的に解明した。その後、活動写真などを利用した詳細な研究も出たが、何れも科学的な面に注目していた。

Fischer 以後の研究は非常に多く、科学的、電氣的実験法による足圧の研究、筋活動電流を応用して筋の働きを見長ちのほどが示される。歩行中のガス代謝についての研究を見るも、まず第1にイギリスのSmith(1859)である。彼によると1分間約75mの歩行の場合には、安静時の尿酸ガス排泄量の約5倍の尿酸ガスを排泄することを認めた。次にCramer(1891)も同様に尿酸ガス排泄量が、その練習により如何に变化するかを実験し、筋動作時排泄される尿酸ガス量は其の作業能の函数となし述べた。

次のKatzenstein(1891)以後は歩行中の酸素消費量に注目している。Magne(1920)は1歩に於ける酸素消費量は、1分間の速度53m、歩数80~100歩の場合に最も少ないと述べている。また、Studer(1926)は歩行に習練した2人の被験者に対し、50回の実験を行なった結果、1ml/kg当り酸素消費量は1分間74.1~83mlの場合に最も少いと述べた。

わが国における石川知福、小河清隆(1931)の研究によつて歩行能率は速度と歩数との配合に依り相異し且つ個人的特性の存することを明らかにした。次に、栗山美佐雄(1933)の実験により、単位歩行当り即ち1ml/kg当りの酸素消費量はある一定の速度に於て一最少なく、その速度より大の場合も小の場合も却つて増加し、一つの鐘型上にむけ凹凸曲線を示すことを明らかにした。更に、1歩当りの酸素消費量は1分間の歩数の大に反比例する。歩幅の増大と共に増加するが、歩幅が一定の場合の毎歩酸素消費量の絶対値は歩数の特に大の場合並に小の場合に於て大である。これらから、経済的至適歩数は1分間103歩、歩幅59m、1分間速度約61mであると述べた。また彼は、単位距離をより経済的にゆこうとする場合には、自然歩行時の

歩幅よりむしろ歩幅を小にし、歩数を大にして歩行すべきであると述べている。

以上は、今日までの歩行に関する主要な研究であるが、歩行のパターンと呼吸の変化との関係に関しては今日まで見るべき研究が少くない。

目的；歩行には古くから経行と呼ばれるものがある。これは、姿勢、呼吸、精神を整えた独特な歩行法である。本研究では歩行のパターンと呼吸との関係を探明することに目的として、経行を心理生理学的に考察しようとするものである。

方法；テレメーター、エレクトロメタボラーにより歩行の際の呼吸運動曲線、ガス代謝等を明らかにする。被験者は尼僧1名(31才、身長152cm、体重46kg、坐禅経験数年)で、まずテレメーターを用いて次の順序で行った。

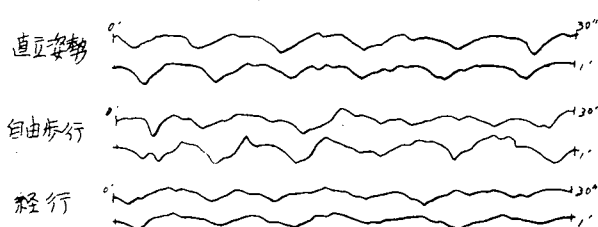
- I 直立姿勢 2分間の呼吸の測定
- II 自由歩行 (103歩/min、歩幅50cm)を2分間測定
- III 経行を2分間測定

次にエレクトロメタボラーを用いて上記のI、IIおよびIIIにおける歩行と同速度の足踏み運動(IV)における呼吸の測定を行なった。

結果および考察；結果は次の図表のとおりである。各条件下における呼吸変数

	歩行歩数	I/E	1回呼吸量	1分間呼吸量	1分間の消費量	1分間の生産量	呼吸商
直立姿勢	8.6	0.648	0.558	4.8	2.165	0.139	0.78
自由歩行	—	2.507	—	—	—	—	—
経行	5.6	0.654	0.946	5.3	0.183	0.155	0.79
足踏み	9.0	—	0.933	8.4	0.267	0.222	0.82

直立姿勢、自由歩行、経行時における呼吸曲線



上表から経行時の呼吸は極めてゆっくり行われ、ゆきかたがゆるい。

東京都世田谷区駒沢1丁目 駒沢大学心理学研究室

## 日本応用心理学会 第36回大会準備委員会

会 長	結 城 錦 一	
委員長	原 吉 雄	
副委員長	角 谷 辰 次 郎	
委 員	加 藤 等	(渉外)
	河 合 悟	(〃)
	岩 脇 三 良	(〃)
	片 口 安 史	(〃)
	武 田 徹	(会計)
	神 作 博	(庶務)
	加 川 元 通	(〃)
	井 出 令 子	(〃)

# 感覚・知覚心理学ハンドブック

和田陽平  
大山 正 編  
今井省吾

人間の感覚・知覚機能を解明した本書は、専門及び応用諸分野の研究者はもとより、情報化時代を果敢に生き抜く企業にとっても必備の書として、世界にも類をみない名著である。  
A5・特価7000円（44年12月末まで）定価7500円

# グループ・ダイナミックスI

カートライト  
ザンダー  
三隅二不二  
佐々木 薫 訳編

「集団力学」の基礎的文献として、久しく名声を欲しいままにし、十年前に初版を訳出して以来、その真価は高く評価されている。多くの要望に応え、第二版を新訳でおくる。  
A5・定価2200円

# 行動病理学ハンドブック

異常行動研究会編

# 箱庭療法入門

河合隼雄編

A5・1200円

A5・2500円

(112) 東京都文京区  
大塚三二〇一六

誠信書房

## 職業指導の心理学

潮田武彦編——¥950

## 集団参加のアプローチ

原谷達夫著——¥500

## 精神的に健康な人間

上田吉一著——¥1,800

## 学習心理学

学習理論研究グループ編  
¥1,500

東京都新宿区柏木1-6-1 川島書店

## 心理学

外国図書・雑誌・テスト用具

のご用命は

※当社ではBookman S (Psychology)  
を毎月発行しております。



海外出版貿易株式会社

〒101 東京都千代田区神田司町2-21 (03) ☎ 292-4271

新橋・横浜・名古屋・京都・大阪・岡山・広島・福岡・仙台

営業品目  
 教育用理科機器 東京芝浦電気(株)代理店  
 研究用科学機器 光学測定機器  
 学校保健体育機器 色彩測定機器



株式会社 八神理化器製作所

八神理科器販売株式会社

本社 名古屋市中区丸の内三丁目2番地29号  
 〒460 TEL (052) 951-2256(代)  
 東京支店 東京都千代田区神田神保町2-20  
 〒101 TEL (03) 265-1861(代)  
 大阪支店 大阪市北区西扇町5  
 〒530 TEL (06) 313-0539(代)  
 営業所 静岡・豊橋・津・岐阜  
 工場 名古屋市千種区松軒町2-8  
 〒464 TEL (052) 721-1671(代)

電子リコピーでなんでも

すぐコピーします

木村文具店

八事交叉点西

TEL 831-8867

新製品

# TR TYPE TACHISTOSCOPE

タイマーはトランジスター式を使用しており  
 1/1000秒~10秒まで正確に制御されます。

竹井機器工業株式会社

本社	東京都品川区旗の台1丁目6番18号	電話03 (786) 4111~4番	テレックス 246-6196
大阪支店	大阪市東区道修町1-11(門川ビル内)	電話06 (231) 5531・1741番	テレックス 522-5035
新潟工場	新潟県中蒲原郡小須戸町矢代田	電話 025038 131・617番	テレックス 3173-805
東北出張所	宮城県仙台市北4番丁94	電話 0222 (34) 8570番	テレックス 852-470
九州出張所	福岡県福岡市奈良屋町9-10	電話 092 (28) 6617番	テレックス 722-857

# ロージャズ全集

内容見本進呈

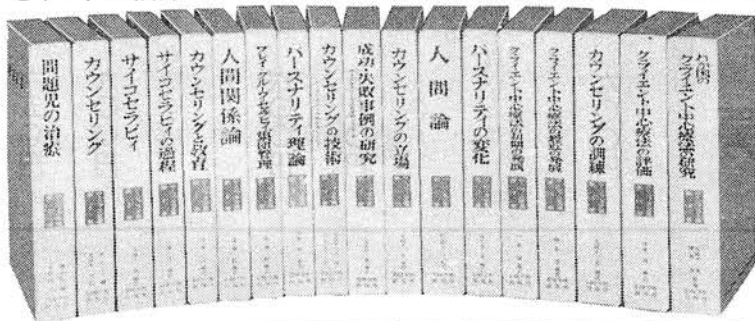
全18巻

## ■ 人間関係論の集大成！

A5判 函入美装本 揃価39,500円

友田不二男・伊東博・佐治守夫・堀淑昭・富瀬稔・村山正治編

1巻	問題児の治療	2000円	10巻	成功・失敗事例の研究	2500円
2巻	カウンセリング	1900円	11巻	カウンセリングの立場	2500円
3巻	サイコセラピー	2000円	12巻	人間論	2500円
4巻	サイコセラピーの過程	1900円	13巻	パースナリティの変化	2000円
5巻	カウンセリングと教育	1900円	14巻	クライアント中心療法の初期の発展	2400円
6巻	人間関係論	1900円	15巻	クライアント中心療法の最近の発展	2500円
7巻	ブレイググループセラピー・集団管理	1900円	16巻	カウンセリングの訓練	2500円
8巻	パースナリティ理論	1900円	17巻	クライアント中心療法の評価	2500円
9巻	カウンセリングの技術	1900円	18巻	わが国のクライアント中心療法の研究	2800円



## 家族と人間の順応

セオドア・リッツ著 鈴木浩二訳 980円

## 催眠分析の基礎

——催眠と身体心像——

E.F.フライターク著 前田/蔵内/秋本訳 2000円

## フロイトへの道

——精神分析から現存在分析へ——

L.ピンスワンガー著 竹内直治/竹内光子訳 1800円

## 科学としての精神分析

ヒルガード/キュービー/パンピアン-ミンドリン著  
安永治/細木照敏訳 1800円

## 家族治療の基礎理論

N.W.アッカーマン他著 岩井祐彦訳 1600円

## 心理療法の比較研究

J. D. フランク著 酒井汀訳 1600円

## 心理学的カウンセリング

理論と実際 ——理論編——

E. S. ボーデン著 森野礼一/斎藤久美子訳 1400円

## 心理学的カウンセリング

理論と実際 ——実際編——

E. S. ボーデン著 森野礼一/斎藤久美子訳 1600円

現代の

## フラストレーション心理学

リード・ローソン著 北脇雅男訳 1400円

臨床場面における

## ロールシャッハ法

河合隼雄著 1300円

岩崎学術出版社

東京都文京区本郷3-16-5 奥医会ビル  
☎ (812)6076 振替東京 58495 113

# 峯書房の新刊書

理代心理学要説 米沢富士雄編 六五〇円

行動の制御とその環境 杉山貞夫著 九〇〇円

Paul M. Fitts 博士の声咳に接した著者が六年余の歳月をかけて世に問う新しいタイプの人間工学

行動の基礎 池田進・小牧純爾著 六〇〇円

保育のための乳幼児心理学 中村一男編 五八〇円

生命のはじまり 松原慶太郎、乳幼児の発育 名倉啓太郎・米沢富士雄、保育の基礎 木戸賢一・田中マユミ・滝野伸子、子供と保育者 中村一男、乳幼児心理学とは 松原慶太郎・斎藤久美子

教育心理学 福岡教育大学心理学研究室編 六〇〇円

京都市左京区聖護院西町二〇

峯書房

TEL 京都 (771) 631112  
振替 京都 3942

## 写真計測機器

アメリカで盛んに利用されている新しい記録法  
パルスデータ・レコーディングカメラ

- ▶ メモーションスタデー
- ▶ タイムスタデー
- ▶ フォトパネル
- ▶ タイムラップス
- ▶ 顕微鏡
- ▶ 電算機表示



AUTOMAX G型シリーズ

**nac**  
ナック

Opto-Electronic Instruments

株式会社

ナック

本社／東京都中央区銀座西1-7 (535)4051-4  
大阪営業所／大阪市北区梅ヶ枝町123 (361)5466  
横浜工場／横浜市港北区勝田町1247 (591)3711

# 企業の行動科学

〈全7巻〉

多面にわたる企業の行動科学を7つのテーマに分け、権威者が入門者のために書いた概論書。  
〈B6判上製〉

## 1 教育訓練

B・M・バス/J・A・ウォーレン著  
伊吹山/田中訳 五八〇円・丁70

人的資源の再開発はどうすればよいか、どう計画し、実施し、評価したらよいか? 行動科学的アプローチによる決定版。

## 2 人間と機械

A・シャパニス著  
村井/小牧訳 五八〇円・丁70

人間と機械の不均衡はどうして起きるのか。その解明と解決策を求める過程を豊富な図表と写真により説明

## 3 採用と配置

M・D・ダンネット著  
豊原/北村訳 八五〇円・丁70

人を行動科学的にとらえることによって、採用人事の基本的な考え方を追求、多くの実例を用いて解説した

## 4 労使関係

R・スタグナー/H・ローゼン著  
鶴巻敏夫訳 六二〇円・丁70

個人の行動科学だけでなく会社と労働組合という集団の行動科学にもメスを当て、紛争のプロセスとメカニズムを具体例によって解説。

## 5 組織の心理

A・タンネンバウム著  
三隅二不二訳 五八〇円・丁70

どんな組織であれば、人がやる気を出し、仕事の能率があがるのか。組織の真の姿を求めて、伝統的組織論に行動科学のメスを当てる。

■近刊

## 6 消費者行動

(原書未刊)

## 7 職業心理

(原書未刊)

◎企業の人間管理と健康診断に

## 文章完成法によるモラル・サーベイ

◎WISC・WAIS・CDPA・ロールシャッハ・クレペリン・Y-G

——〈心理検査専門取扱い〉——

株式会社 名 教 書

TEL 841-6365・5613

名古屋市瑞穂区内方町1-4



## 標準ロールシャッハ図版

★最新版

ヘルマン・ロールシャッハ創案のスイス原版よりの複製版で、  
原版といささかも遜色なき日本における唯一の決定版

東京ロールシャッハ  
研究会監修

10枚組箱入 ¥1900

## ロールシャッハ研究 11号

— 9月発売 —

研究論文(12) 資料 評論 追悼  
学会発表業績一覧 各地ロールシャッハ研究会名簿……他

東京ロールシャッハ  
研究会編編

A 5・288頁 ¥1800

## ロールシャッハ研究 9・10合併号

東京ロールシャッハ研究会編  
A 5・292頁 ¥1800

## ロールシャッハ テスト心理診断法詳説

片口安史著  
A 5・464頁 ¥1700

## ロールシャッハ法練習問題集

片口安史・空井健三  
A 5・50頁 ¥180

## ロールシャッハ・テスト検査用紙

型式K S III  
B 5・6頁 ¥20

## ロールシャッハ解釈法

高橋雅春著  
A 5・232頁 ¥1000

## 精神分裂病の心理

C・アリエティ・加藤・河村・小坂訳  
A 5・544頁 ¥3000

## 出会いによる精神療法

トリューブ 宮本忠雄訳  
A 5・206頁 ¥670

## 精神診断学 付・ロールシャッハ伝

東京ロールシャッハ研究会訳  
A 5・292頁 ¥1300

## 分析的心理劇

D・アンジュウ 篠田勝郎訳  
A 5・260頁 ¥980

## 体験過程と心理療法

U・ジェンドリン 村瀬孝雄訳  
A 5・248頁 ¥980

## 臨床心理学的レポート

W・クロッパ 順天堂大学心理学グループ  
A 5・200頁 ¥980

## 児童社会心理学

長島貞夫著  
A 5・384頁 ¥1500

## 創造力の心理

小口忠彦著  
A 5・200頁 ¥650

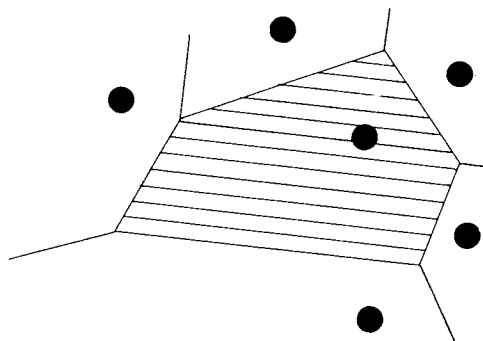
## 才能の心理

小口忠彦著  
A 5・204頁 ¥780

# 心理学洋書

Experimental Psychology,  
Physiological Psychology,  
Mathematical Psychology,  
Applied Psychology,  
Industrial Psychology,  
Biophysics, and  
Biomedical Sciences.

Back Numbers



株式会社 友隣社洋書部

東京都文京区本郷2-16-10(三興ビル)  
TEL(03)(814)-0275・0277

尚会場にて展示会を開催しております

新刊

## カウンセリングにおけるテストの利用

レオ・ゴールドマン 著 鈴木 清・品川不二郎 訳  
A5判・2800円

カウンセリングの過程において、非常に重要な役割を占めるテストについて、これまでに数多くの研究がなされてきた。しかしその正しい使用方法についてはあまり研究されていない。本書はこの一面に焦点を合わせた。

## 心理検査

■ EIS・科研式・田研式の最新の各種検査  
エイス

知能検査・学力検査・人格・適性検査・特殊検査

■ Psychological Corporation発行の各種検査

1967年日本文化科学社とニューヨークのPsychological Corporation  
とが提携して、心理検査の正しい普及をはかることになりました。

心理検査総合出版  
教育図書・雑誌出版

日本文化科学社

東京都台東区下谷2-3-4  
神戸市生田区下山手通5-9

MEMO MEMO

---

日本応用心理学会第36回大会発表論文抄録

(非売品)

昭和44年9月10日 印刷

昭和44年9月20日 発行

編者 日本応用心理学会第36回大会準備委員会

名古屋市昭和区八事本町101-1

中京大学心理学研究室内

発行者 結 城 錦 一

印刷所 名古屋市昭和区下構町2-22

株式会社 一 誠 社

---